

第4回滋賀県立高等学校在り方検討委員会の結果概要について

1 会議の日時等

開催日時 令和3年2月16日(火)9時30分～11時20分(大津合庁7A会議室)(Web会議)
出席委員 原 清治 大野裕己 徳久恭子 炭谷将史 坂口明德 高野裕子 樋口康之
稲葉芳子 権並裕子 中作佳正 今宿綾子 中山郁英 石野沙恵

◇これからの県立高等学校の在り方について
・中間まとめ(素案)

2 委員からの主な意見

■再編計画の総括について

①	彦根翔西館高校では、再編計画の中で学校の特色や特徴がかなり明確な形でスタートしたため、学校の運営がしやすく、入学した生徒の満足度も比較的高い。
②	「地域」という表現に少し引っかかる部分がある。地域住民が高校を支えるのか、県が市町もしくは市町教育委員会と連携するのか、いろいろなパターンがある。特に最終段落に、「地域との連携・協働における高校の魅力化策についても検討していく必要がある」とあるが、その魅力化政策を打ち出せるのは、地域住民からの声を行政側が拾って、もしくは高校側が拾ってということもあるので、もう少し丁寧に書いたほうが良いのではないかな。
③	冊子全般につながることだが、高校の再編計画となると、地域の問題が出てきた際には、市町及び市町教育委員会との連携が重要になってくる。これからの高校再編を考える場合、自治体間の連携なしに高校の活性化は難しいのではないかな。そういう行政的な視点の部分も少し組み込んだ方が良いのではないかな。
④	瀬田工業高校では、学校運営協議会の委員に小学校の校長先生や地元の自治会長も入っている。また、ボランティアサークルの生徒が子供たちのためにロケットを飛ばしたり、焼き芋焼き器をつくり、小学校に出前授業をしたりといったことも既に行っている。
⑤	日野町は日野高校と連携協定を締結しており、インターンシップやボランティア等、生徒は地域の中で活動してくれている。今後も高校生と地域課題とのマッチングをしていきたい。地域の将来像を描く中で、地元自治体と高校が情報共有や意見を出し合うことは、総合学科の高校における教育につながっている。
⑥	地域づくりはこれからの高校づくりに欠かせない視点であり、双方向の議論があるべき。

■滋賀の県立高校づくりのコンセプトについて

①	『『滋賀』に学び、『滋賀』で学ぶ』というコンセプトは素晴らしいと思う。ものづくりの滋賀であり、そういう県の魅力は教育資源になる。
②	企画作業部会では、「全県一区制度は滋賀の強味」という意見があったとのことだが、その通りだと思う。生徒にとって滋賀県全体から高校を選択することができるということと、地域で育てる。そのあたりのところがもう少し書かれていると良いのではないかな。
③	全県一区制度を前提に普通科の特色化を考えていく必要がある。コンセプトの中に全県一区が前提ということをわかりやすく書き込むべき。
④	①「滋賀」に学ぶ、の4つ目の◎に生徒数減少への対応とあるが、生徒数減少は学びそのものではないので、その下の①と②を支える環境整備のところに、「人口変動に対応した学校づくり」として置く方が良いのではないかな。
⑤	コンセプトに郷土愛に関する記述がないことが気になった。定住を促す教育など、「滋賀に住み続ける人材を育成する」というようなことがコンセプトに入ると良いのではないかな。

■探究活動について

①	ほとんどが大学進学希望者の普通科の生徒達が、探究の時間を使って、中小企業までわざわざ見学に来ることがある。素晴らしい取組だと思う。ぜひ継続してほしい。
②	新しい学習指導要領では総合的な探究の時間が設けられており、全ての学校で探究に取り組んでいる。2月14日に探究的な学習の研究発表会をオンラインで開催した。普通科だけでなく、工業高校からも水質調査等の発表があった。そのような専門高校そして普通科が互いに探究の成果を発表し合う取組も行っており、充実、拡大が大切と考えている。
③	どこの学校を卒業したかよりも、何ができるか、学んだことを社会でどう生かすかということが大切であり、知識詰め込みではなく探究活動が非常に大事だと思う。探究活動を進めていく中で、産官学に加えて地域との連携は非常に大切。現地調査では高校が塾と連携しているという話を伺い、時代が変わってきたのだと感じた。
④	探究学習を通し、知ること、世界が広がっていくことの楽しさに気づくことは大事。そんな中、保護者は高校の当事者であり、地域住民としての当事者でもある。子どもを預けっぱなしや学校への要求ばかりではなく、教育に関与することができればかなり戦力になるのではないかな。中間まとめ素案の「地域」という文言の中には保護者も含まれるだろうが、どうかかわるかが重要。

■キャリア教育について

①	キャリア教育の充実や普通科の特色化は必要である。安曇川高校の総合学科にはロボティクス系列ができて良いと思う。教員や生徒が異なる学科の学校間を行き来するようなキャリア教育があると良いと思う。
②	学校の魅力化としては、滋賀らしい、高校生を支えるしくみとして、例えば、先生も学校間を行き来できるなど自由度を高めることもあったと良い。
③	大学との連携について、県内大学だけでなく一定数が進学している京都の大学とも連携し、大学卒業後、滋賀に戻って住んでいただける、仕事をしていただけるというところまで考えてほしい。就職は県外でとなると地域の活性化ということにつながらない。

■普通科の特色化について

①	普通科の特色化とあるが、普通であるのに特色を持つというのは言葉的に矛盾しているようでわかりにくい。普通科自体をなくして、例えば進学を目指すのであれば特進科とするのも一つの方法ではないか。県外に進学する生徒を滋賀に戻そうとすると、特進科という名前を広げて打ち出していくということも考えられる。
②	優秀な生徒を育てることは大事ではあるが、偏差値を上げるというのは作業であり、生徒の仕事ではないと思う。学校である限り、16ページの滋賀の教育大綱にある中江藤樹先生の致良知や雨森芳洲先生の異文化との交流等の近江の心はベースとすべきであり、学ぶ作業と、学校として何をを目指すのか、ということに分けて考えた方が良い。
③	普通科の特色化は理想だが、融通がきかないと、学びにくさにつながる。少なくとも学校内では、入学後の途中からの進路変更に通融がきくような柔軟性が必要ではないか。
④	不登校にしない、させないしくみが重要。

■情報発信について

①	魅力の発信に関して、瀬田工業高校の例だが、30社ぐらいの企業の方の前で発表会をしている。そういった場合は生徒にとって成長の機会となるし、地域にとっては、学校の魅力を感じる機会になる。そういうことを通した魅力発信の方法もある。
②	総合学科の高校では課題研究に取り組んでおり、その発表会に県内や近畿の総合学科の高校を招待している。学びを発表することで生徒の自己肯定感が高まる。しかし、普通科はそうしたことが少なく、外に見えない。探究の科目についての相互の発表大会等が、子供達の身の回りで行われるようになると、子供たちも真剣に高校選びができるようになり、入学後の3年間もより充実したものになると思う。

③	情報の発信について、アンケートでは、高校の情報入手が家族や親戚が多い。情報に触れる機会の確保が大切。ICTを活用したりモートの相談会や高校のHPの充実が必要ではないか。写真などがあり、見やすく楽しさが伝わってくるようなHPにしていく必要がある。
④	中学校長会では、全県一区制度について賛成意見が多かった。ただ、北部の高校について、生徒数が減少しており、在り方を懸念する声もあった。特色をどうとらえるかが大切。特色については様々な発信方法があり、学校紹介ビデオをつくってメディアで発信していくなどの工夫が必要との意見もあった。

■教職員の育成、持続可能な推進体制の構築について

①	教職員の育成について、企業や大学との連携を進めようとするなら、社会経験をされた方の採用を増やすとか、教職員が企業で何年間か経験して戻ってくるというようなことも必要ではないか。
②	ICT活用やギガスクールも始まる。情報端末を使って授業ができる教員の養成も急務だと思う。ICTを使える教員の雇用も必要ではないか。
③	教員の働き方改革について、教員を支える、応援する手段は必要。人的に支える部分とICTを活用することで働き方改革ができないか。
④	教員の働き方改革について、学校内のイニシアチブを考えていくと、県の事務局組織とよくつながっている事務職員の方の位置付けや、イニシアチブの発揮について書き込みが少ないのではないかと。誰がイニシアチブを発揮できるかというところでは、もう少し盛り込む余地があるのではないかと。また検討できればと思う。
⑤	学校現場としては、25名から30名の少人数授業を実施すると非常にきめ細かく指導ができるという実感がある。少人数授業の実施は、取組の方向性に記載されている多くのことにつながっていく。予算等、様々な課題があると思うが、少人数授業を推進してほしい。
⑥	ICTを活用すると蓄積された学習履歴を分析することで、個々の生徒に最適な学習環境を提供していくことが可能となってくる。そうすると、教員の役割として、協働性をどうつくるのか、子どもの社会性をどう育てるのか学校に課せられたところであり、ICTの活用と関連して議論していく必要があるのではないかと。また、それは今回の在り方の案にはぜひ盛り込んでいかないといけないと思う。

■将来を見据えた整理について

①	公教育を担う公私双方が互いに尊重し、生徒減少の課題を共有し、協調する必要がある。公立私立の募集定員を策定する時の基本的な考え方、特に私学にどのような配慮をしているのか、また、公私比率がわかるような資料を基に議論したい。
②	学校規模に応じたメリット、デメリットについて、特にデメリットについては改善の方策を考えていく必要がある。平成20年度の在り方検討においてどのような整理がされたのか、その整理に基づいて、1学年2～3学級規模の学校と、1学年8～9学級規模の学校の取組の事例も知りたい。また、京都府の北部地域ではキャンパス構想というものがあるし、福井県は少人数学級を前面に押し出して学力を保障しているような部分もある。そういう他府県の取組についても資料が欲しい。
③	地域別の県内の小中学校の規模がわかると、小さい学校がどこにあるのか、もしマップが作成できるのであれば、どういうエリアにどんな目線を向けていけばよいのかがわかる。またそれは生徒数がどう推移していくかにもつながることで、高校の学級数をシュミレーションすることができるのではないかと。
④	高校の配置ということでは、県が県民に対して限られた資源でどのようにサービスしていくかという観点もあり、県が案を作成して示すという部分は抜くことはできないが、例えば、自治体レベルで高校と連携して改革していきたいという発意やイニシアチブがどのように認められ、今後に活かされていくかといったところをもう少し詰めていくと良い。

■入学者選抜について

①	入試というものは、中学校を卒業した学力があることを測るような方向にすべきではないか。その際、落第ということが起こりうるが、落第は決して恥ずかしいことではないという共通理解が必要ではないか。
②	特色選抜について、導入当初の特色選抜の意味から変化してきているのではないか。大学入試も知識の詰め込みではなく、学んだことをどう生かすか等について問う問題が増えている中、高校入試ももっと斬新な改革が必要ではないか。
③	スポーツ・文化芸術推薦選抜に関して、特別な種目等について、中学校の教育課程外の活動をもって校長が推薦しなければならないことがある。この部分は更なる検討が必要ではないか。
④	入試制度に関しては、現行の滋賀県の入学者選抜の制度がどのような内容なのかわかる資料を準備してほしい。

■高等専門人材育成について

①	カの職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化に関連して、滋賀県には高等専門学校が必要ではないか。「学生のため」を第一に、どこにどのようなものをつくればよいのか、企画を練っていただきたい。また、県内にある職業能力開発短期大学校も高度化のために活用できるのではないか。
②	高等専門学校について、知事部局の議論と連携とあるが、高校と同じく中学校卒業生を対象とした学校で関連性がある。今後どのような議論や連携がなされていくのか。 → 現在知事部局を中心に検討しており、来年度予算で調査検討をしていくことについて議会に提案されている。県立高校の在り方検討でも特に産業教育の関係で非常に関連性があり、議論の状況や方向性などについて、検討委員会でも随時報告したい。

■その他

①	SDGsのマークが1つあるが、全体に流れているものを見ていると、まちづくりや健康など、もっといろんな観点があるのではないか。
②	SDGsについては、17番のパートナーシップで目標を達成しようという項目も加えたらどうか。
③	基本方針策定後の進め方で、必要に応じて地域別協議会を設置とあるが、必要に応じてとはどういう想定をしているのか。 → これからの議論になるところでもあるが、地域の中における高校の在り方について温度差がある部分もあり、全ての地域で同時に地域別協議会をつくるというのではなく、必要になったところからというイメージで、必要に応じて記載している。
④	企画作業部会会議で、県立高校の校長先生に、自分の学校の将来についてどんなアイデアや構想等があるのか聞いてほしいというリクエストをしたがそのことについて進捗はどうなっているのか。 → 今回の中間まとめを示し、それぞれ各学校の考えるアイデアや構想を聞き取っていきたい。アイデア段階ということもあり、グループ化する等、出し方については工夫したい。
⑤	次回の5回目の検討委員会では、具体的な取組についての議論と将来を見据えた整理の4点についてさらに考えていきたい。

「これからの県立高等学校の在り方検討」について

1 「これからの県立高等学校の在り方検討」の背景等

- 平成 24 年度に滋賀県立高等学校再編基本計画および同実施計画（以下、「再編計画」）を策定し、基本計画の計画期間を概ね 10 年として魅力と活力ある学校づくりを実施
- 人口減少、少子高齢化の進行やグローバル化、情報化、技術革新の進展など、急速に社会情勢が変化するなかで、滋賀の高等学校教育の一層の推進を図るためには、再編計画の検証と全県的視野での県立高等学校の在り方の検討が必要

2 検討の進め方

（1）基本方針の策定

- 令和 2 年度から再編計画の検証とこれからの県立高等学校の在り方の検討を開始
 - 令和 3 年度末に（仮）「これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針」（以下、「基本方針」）を策定
 - 【策定趣旨】概ね 10 年から 15 年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高校の在り方について、全県的視野で基本的な考え方を示す
 - 【対象期間】令和 4 年度から令和 13 年度の 10 年間
- 「滋賀県立高等学校在り方検討委員会」（以下、「検討委員会」）を設置し検討
 - ・県立高校の在り方について検討委員会に諮問し、答申を踏まえて基本方針を策定
 - ・生徒・保護者アンケート、学校関係者や地域（市町長等）の意見聴取、県民政策コメント等
 - ・議題に応じ、産業教育審議会等の意見を踏まえ、検討

（2）具体的な取組の検討、実施

- 令和 4 年度以降、基本方針に基づき、全県的視野での魅力化の具体策の検討や実施
 - ※ 必要に応じて、地域の関係者等で構成する（仮）地域別協議会を設置し、地域の意見を踏まえて、個別の計画を策定、実施

3 これまでの検討の経過

○教育・文化スポーツ常任委員会

- 令和元年 12 月 16 日 「これからの県立高校の在り方検討」の進め方について
- 令和 2 年 6 月 8 日 「これからの県立高校の在り方検討」について（検討委員会諮問等）
- 7 月 10 日 「これからの県立高校の在り方検討」について（第 1 回検討委員会結果等）
- 9 月 1 日 「これからの県立高校の在り方検討」について（基本方針骨子イメージ案）
- 令和 3 年 2 月 10 日 「これからの県立高校の在り方検討」について（中間まとめ（素案））
- 3 月 9 日 「これからの県立高校の在り方検討」について（中間まとめ（案））

○検討委員会

- 令和 2 年 6 月 9 日 第 1 回：これからの県立高等学校の在り方について（諮問） 等
- 8 月 3 日 第 2 回：再編計画の実施状況、県立高校の目指す姿、取組の方向性 等
- 8 月 31 日 第 3 回：取組の方向性、骨子イメージ案 等
- 11 月 20 日 企画作業部会：現地調査（石山高校、守山北高校、愛知高校、能登川高校）
- 令和 3 年 1 月 15 日 企画作業部会会議：中間まとめ（たたき台→素案）
- 2 月 16 日 第 4 回：中間まとめ（素案→案）

○アンケート、意見聴取等

- ・市町立中学校等、県立高等学校の生徒および保護者：アンケート（令和 2 年 10 月）
- ・大学生等（令和 2 年度滋賀の教師塾入塾者）：意見聴取（令和 2 年 11 月 28 日）
- ・市町首長：意見聴取（市長会：令和 2 年 11 月 2 日、町村会：令和 2 年 10 月 5 日）
- ・市町教育長：意見聴取（令和 2 年 10 月）
- ・市町立中学校等校長：意見聴取（令和 2 年 10 月）
- ・県立学校校長、副校長、教頭：意見聴取（令和 2 年 10 月）
- ・県立高校教諭等（中堅教諭等資質向上研修対象者）：意見聴取（令和 2 年 11 月 6 日）

○教育委員会

- 令和元年12月24日 「これからの県立高校の在り方検討」の進め方について
令和2年5月19日 滋賀県立高等学校在り方検討委員会の委員選任について
滋賀県立高等学校在り方検討委員会への諮問について
6月11日 第1回滋賀県立高等学校在り方検討委員会の結果概要について
7月22日 滋賀県立高等学校在り方検討委員会の委員選任について
8月19日 第2回滋賀県立高等学校在り方検討委員会の結果概要について
9月4日 第3回滋賀県立高等学校在り方検討委員会の結果概要について
12月22日 滋賀県立高等学校在り方検討委員会企画作業部会の現地調査の概要について
令和3年1月18日 滋賀県立高等学校在り方検討委員会企画作業部会会議の概要について

○産業教育関係

- ・教育・文化スポーツ常任委員会
令和2年10月2日 滋賀県産業教育審議会について
令和3年2月10日 これからの産業教育の在り方について（滋賀県産業教育審議会）
- ・滋賀県産業教育審議会
令和2年10月29日 これからの産業教育の在り方について（諮問） 等
11月27日 現地調査（彦根工業高校、長浜北星高校、長浜農業高校）
12月23日 各学科における課題、実態等、Society5.0社会に対応した人材育成
地域や産業界との連携、環境整備、魅力を伝える方策
- ・教育委員会
令和2年10月16日 滋賀県産業教育審議会委員の選任について
滋賀県産業教育審議会への諮問について
12月22日 滋賀県産業教育審議会第1回会議 会議概要（案）
滋賀県産業教育審議会 産業教育施設・設備 学校見学会 結果概要（案）
2月5日 滋賀県産業教育審議会第2回会議 会議概要（案）

4 全体スケジュール（予定）

- 令和2年度 3月 教育委員会報告
3月頃～ 意見聴取
（市町首長（市長会、町村会）、県立高校立地市町企画部門
市町教育長、市町教育委員会（県立高校以外進学関係）、大学、専修学校
私立中学高等学校連合会、職員団体、塾、フリースクール、スクールカウンセラー等）
- 令和3年度 5月頃～ 検討委員会第5回～8回：具体的取組、答申（案）等
（産業教育審議会3回～5回（令和3年夏頃までに答申））
12月頃 検討委員会答申、基本方針（原案）策定
令和4年1月頃 県民政策コメント実施
令和4年3月頃 基本方針策定
令和4年度以降 基本方針に基づき、具体的取組の検討、実施
- ※県議会には適宜報告

これからの県立高等学校の在り方について 中間まとめ（案）概要

～（仮）『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』～

令和3年2月
滋賀県立高等学校在り方検討委員会

背景 ○人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新の進展などの急速な社会情勢の変化への対応

策定趣旨 ○概ね10から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について、全県的視野で基本的な考え方を示す

対象期間 ○令和4年度から令和13年度の10年間



これまでの主な高校改革

- H9 ～総合学科設置（国際情報・長浜北星等）
- H15 県立中高一貫教育校設置
- H18 県立普通科高校通学区域全県一区制
→主体的高校選択の進展（H28検証）
- H24 県立高校再編計画策定
- R2 国際バカロレア設置（虎姫）
- R3 湖西地域の県立高校魅力化
（高島・安曇川学科改編）

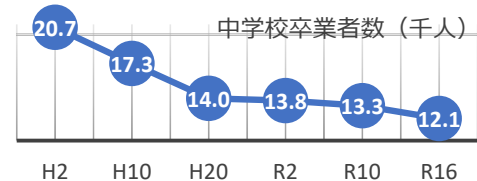
現行再編計画の総括

- 統合新校設置（長浜北・彦根翔西館）
 - ・学校統合により地域全体の学校活力向上
 - ・社会性の涵養、部活動の活性化
- 総合単位制高校設置、職業系専門学科改編等
 - ・不登校傾向が改善し卒業
 - ・分かりやすい学科体系、地域連携強化
- 全県一区制度のもと、国や県の指定事業等の活用や地域、大学等との連携による魅力ある学校づくりの一定の進展
- 普通科高校や人口減少地域の学校の更なる魅力化、発信力の強化が必要
- 計画策定過程で地域との双方向の議論が必要

県立高校をとりまく現状と課題

◆生徒数の減少

- ・H2.3卒のピークから▲7,000人34%減
- ・R16.3卒は更に▲1,700人 H2.3卒から42%減



◆社会情勢の変化

- ・少子高齢化、人口減少社会の到来
- ・第4次産業革命、Society5.0
- ・グローバル化
- ・withコロナ、afterコロナと新しい生活様式

◆国の動き

- ・学習指導要領改訂（令和4年度～）
社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び
- ・新時代に対応した高等学校教育の在り方検討

◆特別な教育的支援が必要な生徒の増加

- ・中学校の特別支援学級から高校へ進学する生徒増加（H20(13%)→H30(54%)）
- ・高校で特別な教育的支援が必要な生徒の割合は増加傾向（H22(2%)→R1(5%)）

将来の社会の姿

- ◇人口減少と高齢化の更なる進行
- ◇第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現
- ◇大規模災害などの発生リスク
- ◇コロナ禍を経た新しい生活様式の定着
- ◇持続可能な社会の実現（SDGs）
- ◇多様な価値観が尊重される社会 等

想像はできるが予測できないことが起こりうる

高校への希望や期待

～アンケートや意見聴取から～

◇生徒の立場から <中高生7,688人回答>
<大学生等>

- ・文武両道に励みたい
- ・将来のことをじっくり考えたい
- ・校舎をリニューアルしてほしい
- ・生徒や先生が団結できる行事があるとよい
- ・インターネットを活用した授業を増やしてほしい 等

〈県立高校1，2年生〉
○在籍している高校の満足
満足82%（友人関係、部活動、授業）
不満18%（授業、校風、施設・設備）

◇保護者の立場から <保護者6,894人回答>

- ・子供の可能性を上げてやりたい
- ・基礎から学べるようにしてほしい
- ・学力向上だけでなく、人間性を高めてほしい
- ・オンライン授業等に力を入れてほしい 等

〈中学1，2年生保護者〉
○子供に進学させたい高校
県立高校88% 県内私立高校4%
○高校に期待すること
自分の進路希望や興味・関心等に応じた科目選択ができる63%

◇地域社会の視点 <市長会、町村会、市町教委等>

- ・地域活性化に貢献する生徒を育ててほしい
- ・地域にとって高校の存在は大きい
- ・在り方検討で高校再編とせず、地域の声を聴いてほしい 等

◇産業界の視点 <県内企業関係者等>

- ・専門的に教育して、高校卒業してすぐに社会に役立つ人材を育ててほしい
- ・企業等と連携することが必要 等

◇教職員の立場から <中学校・高校管理職、中堅教諭等>

- ・人間性を高めるため、授業はもちろん、部活動や学校行事も大切に、いろいろな経験ができる教育活動を工夫したい
- ・一定の規模で教員数も充実した状況が必要 等

これからの滋賀の県立高校の在り方に関する基本的な考え方

本県教育の
教育理念

未来を拓く心豊かで
たくましいひとづくり

育成すべき
生徒像

生きる力（自立する力・
伝える力・協働する力・
創造する力等）がある

高等学校
の役割

- ・生きる力を育む場
- ・好奇心や探究心を更に発展させる場
- ・「答えを見つける」から「課題を見つけて解決に向けて考え行動する」教育の場へ

魅力化の視点

- ◎多様性のある社会、人口減少社会への対応を、小・中・高・大・社会の連続性の中で捉え、ICTを活用し、持続可能な形で実施する
- ◎森・川・里・湖が水系でつながり、近江の心が根付いた「滋賀」ならではの学び、それぞれの県立高校でその学びを地域とともに推進する

目指す姿

■高校別

◆県域全体

- ①生徒が自ら主体的に学び「生きる力」をつけることができる
→◇すべての生徒に自分を高める学びが提供されている
→◇多様な人との出会いやコミュニケーションを通じて深め発見できる学びが提供されている
- ②生徒が世界につながり活躍するための力をつけることができる
→■グローバル人材や科学技術人材が育成されている
→■大学等と連携した高度な専門的学びが提供されている
→◇ICTを活用した対話的・協働的な学びが実現できている
- ③生徒同士が切磋琢磨し成長できる
→■学校行事や部活動が活性化している
→◇学校でそそまれる人と人とのつながりを意識した場が提供されている
- ④場所や時間を選ばない学びができる
→◇ICTや外部人材を活用し、所属する学校の枠にとらわれない柔軟で多様な学びが提供されている
- ⑤生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる
→■地域教育資源や人々と関わる学びが提供されている
→■産業界と連携した学びが提供されている
- ⑥障害のある者となない者が互いに学び合い互いを尊重できる
→◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる
- ⑦生徒が自らに合った学びを選択できる
→■それぞれの県立高校ならではの魅力や特色が人々に理解されている
→◇県内のどの地域でも様々な学びが提供されている
→■基礎学力充実、不登校、日本語学習等に対応する学びが提供されている
- ⑧教職員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている
→◇授業改善が進むとともに教職員自身の人間性や創造性を高め効果的な教育活動ができている

滋賀の県立高校づくりのコンセプト

多様な生徒一人ひとりが、「滋賀」という地域から学び、
社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進める

1 「滋賀」に学ぶ

滋賀の自然、歴史、文化、
人、産業等を教育資源と
した学びの充実

- ◎知識・技能を活用し課題を解決する確かな学力の育成
- ◎自立した社会人を育てるキャリア教育の充実
- ◎生徒の学ぶ意欲を育むための多様な学習ニーズへの対応

1と2を支える環境整備

- ◎多様な学びの提供や人とのつながりの創出等、生徒数減少への対応
- ◎多様な学びを実現するICTを活用した教育の提供
- ◎生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成
- ◎持続可能な推進体制の構築

2 「滋賀」で学ぶ

魅力と活力ある取組を明確にし、
見える化する学校づくり

◎普通科の特色化（全県一区制度継続）
（普通科系専門学科を含む）

普通科 全日制 29/44校	▶	普通科	コース 類 型
		普通科	
		〇〇科	
		普通科系 専門学科	
普通科系 専門学科		総合学科	系 列

◎職業系専門学科等の特色化・高度化

職業系 専門学科 総合学科	職業系 専門学科	類 型 系 列	
		普通科	総合学科

◎定時制/通信制の役割への対応

オンラインの学校づくり
↓
魅力発信

取組の方向性

- ア 確かな学力の育成
→「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善 [目指す姿①⑧]
→「読み解く力」の育成 [①]
- イ キャリア教育の充実
→小中学校での学びの連続性、高校卒業後の進路との接続、地域教育資源の活用を意識した体系的・系統的なキャリア教育の推進（キャリアパスポート活用、連携コーディネーター配置、コンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置、外部人材活用等） [①⑤]
- ウ 多様な学習ニーズへの対応
→特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の充実（通級指導等） [⑥]
→不登校生徒支援、日本語指導が必要な生徒対応の充実 [⑦]
→基礎学力充実のための取組の工夫 [⑦]
- エ 普通科の特色化（普通科系専門学科を含む）
→新しい学科やコース、類型の例：地域探究、学際融合、環境科学、スポーツ科学、先端科学、環境防災、データサイエンス、歴史観光、保育、地域貢献 等 [①②③⑤⑦]
→総合学科、普通科系専門学科への改編 [①②③⑤⑦]
→普通科系専門学科（音楽・美術等）の学びを継続するための工夫 [⑦]
→高校の特色のPR（HPや動画配信等の充実、学習成果の発信等） [⑦]
- オ 職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化（滋賀県産業教育審議会議論）
→新しい時代に対応した学びの提供や必要な産業分野で力を発揮できる人材育成 [①②③⑤]
→職業系学科の魅力伝える方策 [⑦]
→施設・設備の充実、外部資源の活用 [⑤]
- カ 定時制/通信制の役割への対応
→多様な生徒の進路保障等を見据えた学びの場の提供 [③⑦]
- キ 生徒数減少への対応
→地域と連携・協働した学校づくり（地域とともに目指す姿を具体化） [⑤⑦]
→多様な学びを実現するための少人数学級の工夫 [⑦]
→学校行事、部活動等の学校間連携や地域連携についての研究 [③]
- ク ICT活用
→すべての高校でICT教育環境の充実・更新 [①④]
→ICT活用コンテンツ等の共有化 [①④]
→教職員のICT活用力を高める研修の充実 [①⑧]
- ケ 生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成
→人材の確保、研修の充実 [⑥⑧]
- コ 持続可能な推進体制の構築
→地域と連携・協働した学校づくり（連携コーディネーター配置、コンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置等） [①⑤]
→働き方改革の推進、経営方針の明確化 [⑦⑧]
- ※ モデル校指定等による取組内容の研究・実践
※ 高等専門人材育成に関しては、知事部局における議論と連携

将来を見据えた整理

- 県立高校の役割/私学との関係（生徒減少時代の公私との在り方等課題共有）
- 学校規模に応じたメリット、デメリット（生徒の活動、学校経営等）
- 将来に向けた議論の必要性（生徒数の推移見込みと想定学級数等）
- 現行入学者選抜に関すること

（参考）基本方針策定後の進め方（案）

- 1 基本方針に基づき（仮）魅力化プラン作成（たたき台→意見聴取→案作成）

〈県教育委員会〉
全県的視野からの学校配置の提示
・多様な選択肢の提供
・特徴的な学科等の配置
※必要に応じて（仮）地域別協議会の設置
（将来を見据えた検討→プランに反映）



〈学校〉
各校の目指す姿の検討
・教職員による主体的な具体策検討
・中学校や地域との意見交換や先進事例の研究等

- 2 〈県教育委員会〉個別の実施計画作成
・（仮）魅力化プラン案に基づき対象校を選定
- 3 〈学校〉個別の実施計画に基づく具体的検討と経営方針策定・公表
・経営方針（生徒育成方針、教育課程・実施方針、生徒募集方針等）

※今後、在り方検討委員会や産業教育審議会の議論や議会、市町、学校関係者の意見等により内容更新

これからの県立高等学校の在り方について 中間まとめ（案）

～（仮）『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』～

令和3年2月

滋賀県立高等学校在り方検討委員会

I	基本方針策定にあたって	P 3
1	これまでの高校改革の主な取組	P 3
2	現行の県立高校再編計画の総括	P 5
3	県立高校を取り巻く現状と課題	P 6
4	将来の社会の姿	P 9
5	高校への希望や期待	P 9
II	これからの滋賀の県立高校の在り方に関する基本的な考え方	P 14
1	本県教育の基本理念	P 14
2	育成すべき生徒像	P 14
3	高等学校の役割	P 14
4	魅力化の視点	P 14
5	目指す姿	P 14
6	滋賀の県立高校づくりのコンセプト	P 15
III	論点整理と取組の方向性	P 17
ア	確かな学力を育む	P 17
イ	キャリア教育の充実	P 17
ウ	多様な学習ニーズへの対応	P 18
エ	普通科の特色化（普通科系専門学科を含む）	P 18
オ	職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化	P 20
カ	定時制/通信制の役割への対応	P 20
キ	生徒数減少への対応	P 21
ク	I C Tの活用	P 21
ケ	生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成	P 22
コ	持続可能な推進体制の構築	P 22
IV	将来を見据えた整理	P 23
V	（参考）基本方針策定後の進め方（案）	P 24

○別冊

滋賀県立高等学校再編計画の実施状況について

○資料編

資料編 1 『魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート』結果

資料編 2 これからの滋賀の県立高校の在り方に関する意見聴取について

背景	○人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新の進展などの急速な社会情勢の変化への対応
策定趣旨	○概ね 10 から 15 年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について、全県的視野で基本的な考え方を示す
対象期間	○令和 4 年度から令和 13 年度の 10 年間
SDGs の視点	○本基本方針は、SDGs の掲げる目標のうち以下のものを踏まえたものとする。
	4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 17 パートナリシップで目標を達成しよう

I 基本方針策定にあたって

1 これまでの高校改革の主な取組

(1) 総合学科の設置（H9～）

平成 9 年度に国際情報高校の工業学科と商業学科を改編し県内最初の総合学科を設置した。その後専門学科を改編する形で総合学科の設置が進み、現在県立では 7 校の総合学科設置校がある。

(2) 県立中高一貫教育校の設置（H15）

中等教育（中学校、高等学校等）の一層の多様化、複線化を推進するため、平成 15 年度から併設型中高一貫教育校を設置しており、6 年間の特色ある教育課程のもとで、生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばす教育を展開している。

(3) 県立普通科高校通学区域全県一区制度導入（H18）

多様化する生徒のニーズに対応し自分にあった高校を主体的に選択できるようにするとともに、特色ある学校づくりを一層推進することをねらいとして、平成 18 年度入学者選抜から、普通科高校の通学区域全県一区制度を導入した。

制度導入後 10 年が経過した平成 28 年度に検証を行い、全県一区制度のねらいである中学生の主体的な高校選択や特色ある学校づくりが進み、生徒や保護者にも受け入れられていることから、この制度を継続することとした。また、検証を進める中でいただいたアンケートの結果や聞き取り内容については、県教育委員会でしっかり受け止め、必要に応じて市町と連携を図りながら、すべての高校においてさらに魅力ある学校づくりを進めていくとしている。

(4) 県立高校再編計画策定（H24）

平成 24 年 12 月に、滋賀県立高等学校再編基本計画および同実施計画（以下、「再編計画」）を策定し、計画に基づき学科改編や学校統合等を行った。

(5) 国際バカロレア設置（R2）

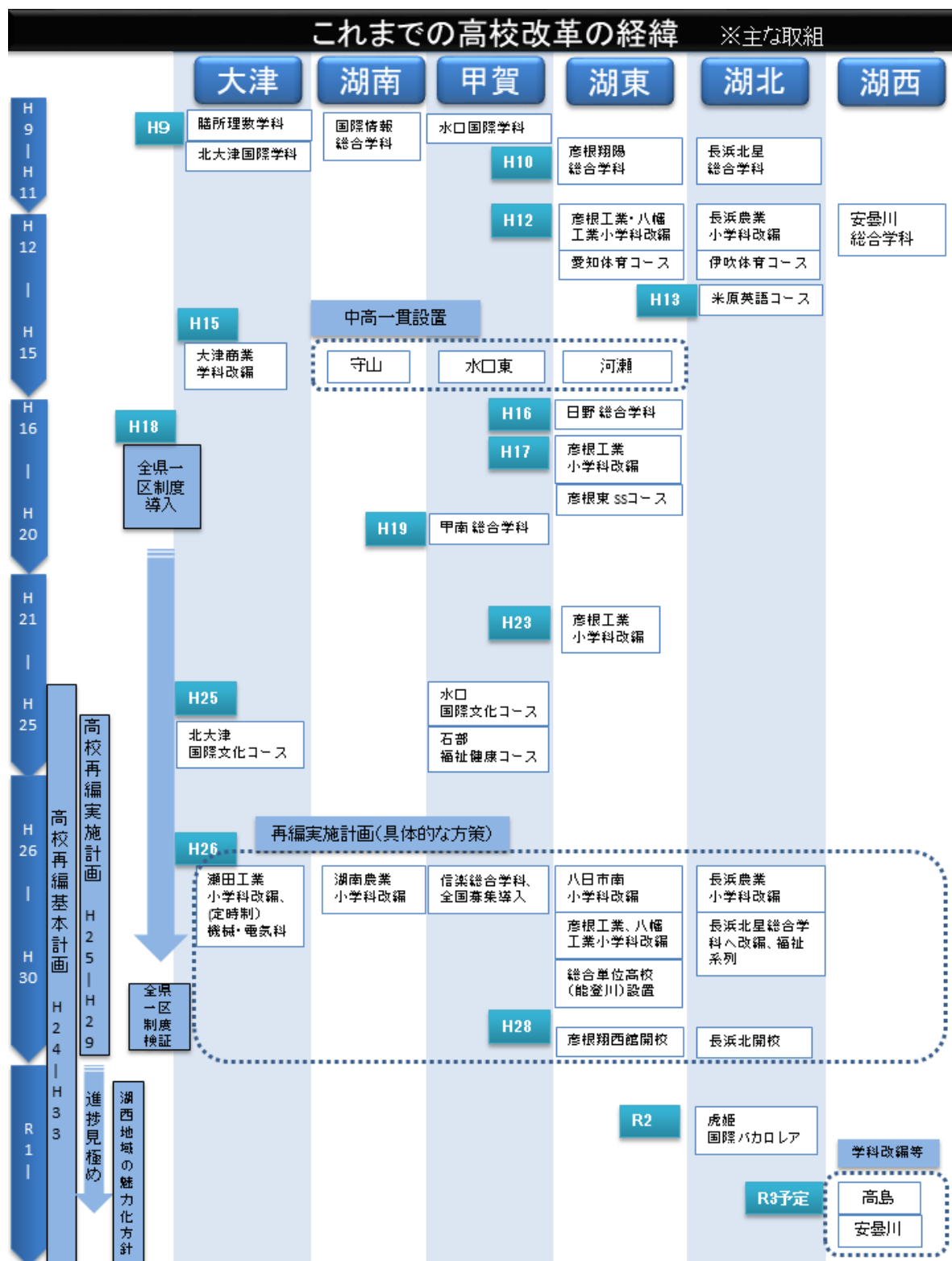
平成 26 年度より、国際バカロレアの導入に向けた調査・研究の研究校として虎姫高校を指定し、カリキュラム策定等バカロレア校認定にむけて準備（調査研究）を進め、平成 31 年 3 月に国際バカロレア認定校に認定された。

令和 2 年度の入学生が第 1 期生となり、ディプロマプログラム生の選考後、令和 3 年 1 月よりディプロマプログラムが開始されている。

(6) 湖西地域の県立高校魅力化（R3）

湖西地域の高校の定員未充足が深刻な状況であり、学校活力の低下が懸念されることから、令和元年10月に湖西地域県立高等学校魅力化方針を策定した。

この方針に基づき、高島高校には、進学指導に重点を置く文理探究科を設置し、安曇川高校総合学科には新しい系列であるライフサポート系列を設置するとともに既存の系列をリニューアルして魅力化を図ることとした。（安曇川高校普通科は募集停止）



2 現行の県立高校再編計画の総括

(1) 学校統合

平成24年12月に再編計画を策定し、基本計画の計画期間を概ね10年として魅力と活力ある学校づくりを実施してきた。標準とする学校規模を1学年あたり概ね6学級から8学級とし、地域ごとの生徒数の推移を見据えつつ、標準を下回る規模の学校が多くを占める地域において、学校の統合を行い、地域全体の学校活力の維持向上を図った。

統合により開校した彦根翔西館高校は、「探究（普通）系列」「スポーツ科学系列」「家庭科学系列」「会計ビジネス系列」「情報ビジネス系列」の5つの系列を持つ総合学科の高校として、開校以来、県内の広い範囲から入学者を集めている。また、同じく長浜北高校は、8割以上の生徒が部活動に加入し活動するとともに、卒業生の約7割が大学に進学する湖北地域の中核的普通科高校となっている。学校統合により、子ども達の社会性が涵養できるとともに、部活動の活性化、充実を図ることができた。

(2) 多様な学習ニーズへの対応

新しいタイプの学校として、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、能登川高校を全日制・定時制併置の総合単位制高校に改編した。定時制昼間部では、中学校で不登校などの経験のある生徒が多いものの、始業時間が遅いことや少人数授業の実施により不登校であった生徒も登校し卒業できているといった成果が上がっている。

その他、再編の具体的な方策に記載のあった、「地域に根差した学校づくり（信楽高校の改編）」「職業系専門学科の改編等」「総合学科の充実（長浜北星高校総合学科に福祉系列を設置）」「定時制課程の見直し」については、再編のねらいについて、一定達成できた。

(3) 全ての高校の魅力ある学校づくり

また再編計画では、上記の再編の他に、「全ての高等学校においてそれぞれの教育目標等に応じた魅力ある学校づくりに取り組みます」としており、この間、全県一区制度のもとで、全ての県立高校において、国や県の研究指定も活用しながら、魅力と活力ある学校づくりに取り組んだ。

令和2年1月に実施した県立高校の校長対象の調査では、92%の学校が、魅力と活力ある学校づくりが進んだと回答している。「地域との連携」や「授業の工夫」、「大学や企業との連携」が進んだと回答した学校が多く、地元市町や商工会との連携協定を結び、就業体験等に取り組んでいる高校もある。また、令和2年10月に実施した高校1、2年生を対象としたアンケートでは、在籍している高校に満足している生徒は82%あった。これらのことから、魅力ある学校づくりは一定進展している。

(4) これからの魅力ある学校づくりに向けて

計画策定過程における地域の理解やコンセンサスを得ることが不十分であったとの声もあり、今後は計画策定過程で地域と双方向でやり取りする等、地域を巻き込んだ議論をしていく必要がある。

また、中学校長を対象としたこれからの滋賀の県立高校の在り方に関する意見聴取では、「オンリーワンの高校、その高校ごとの特色をもっと前面に出した学校づくりを進めていく必要がある」や「各高校の魅力・特徴は、特に『普通科』である場合伝わりにくく、横並び的なものとして映ってしまっている」といった意見があり、普通科高校を中心として、

今後も更なる特色化、魅力化を継続して進めるとともに、特色や魅力の発信力を強化していく必要がある。

加えて、将来的に生徒数が大きく減少すると見込まれる地域にある学校においては、学校規模の更なる小規模化が進むと想定されるため、市町との連携・協働による高校の魅力化策についても検討していく必要がある。

3 県立高校を取り巻く現状と課題

(1) 生徒数の減少

県内中学校卒業者数は、平成2年3月卒の20,747人をピークに減少し、令和2年3月卒は13,753人（H2から▲7,000人34%減）となっている。令和16年3月卒（現1歳）は約12,100人（H2から▲8,700人42%減）となることが見込まれている。

（参考資料3-1）

(2) 社会情勢の変化

- ・ 少子高齢化、人口減少社会の到来
- ・ 第4次産業革命、Society5.0
- ・ グローバル化
- ・ with コロナ、after コロナと新しい生活様式

(3) 国の動き

高等学校の新学習指導要領が令和4年度から実施されることになっている。子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携・協働することにより、子どもたちを育む「社会に開かれた教育課程」を重視するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等が必要とされている。

また、中央教育審議会では、今後の社会状況の変化を見据え、普通科改革など学科の在り方や地域社会や高等教育機関との協働による教育の在り方等について議論がされている。

(4) 高等学校における特別な教育的支援が必要な生徒の増加

中学校の特別支援学級の生徒の卒業後の進路は、特別支援学校高等部よりも高等学校への進学が増加（平成20年度13%→平成30年度54%）しており、また、高等学校での特別な教育的支援を受ける必要がある生徒の割合は増加傾向（平成22年度2%→令和元年度5%）になっている。（参考資料3-2、3-3）

今後とも、障害等により学びにくさのある生徒が、安全安心に充実した学校生活を送れるように取り組む必要がある。

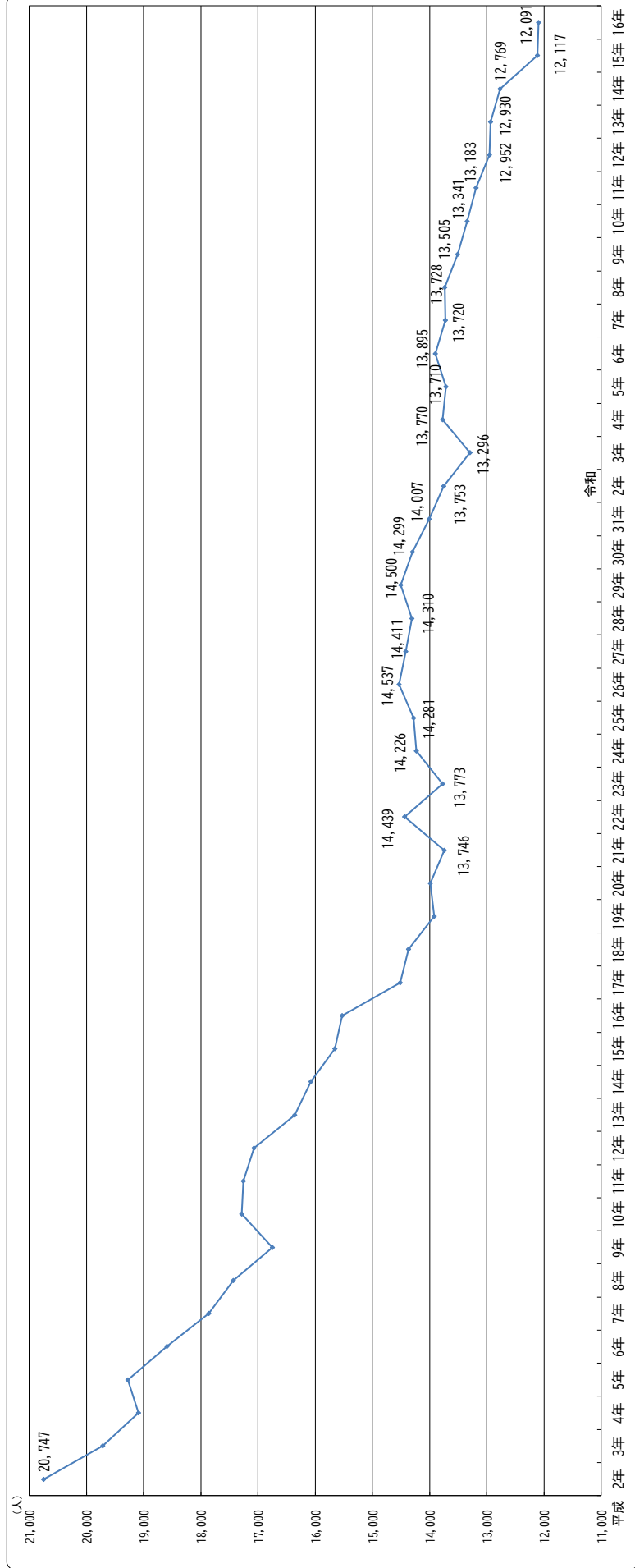
中学校および義務教育学校卒業(予定)者数の推移(全県)

平成		令和																													
平成	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	2年
全県計	20,747	19,715	19,088	19,279	18,592	17,859	17,432	16,750	17,283	17,251	17,068	16,361	16,073	15,655	15,526	14,515	14,370	13,922	13,988	13,746	14,439	13,773	14,226	14,281	14,537	14,411	14,310	14,500	14,299	14,007	13,753

※H31から義務教育学校を含む

現中3		現中2		現中1		現小6		現小5		現小4		現小3		現小2		現小1		現5歳		現4歳		現3歳		現2歳		現1歳	
令和	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年													
全県計	13,296	13,770	13,710	13,895	13,720	13,728	13,505	13,341	13,183	12,952	12,930	12,769	12,117	12,091													

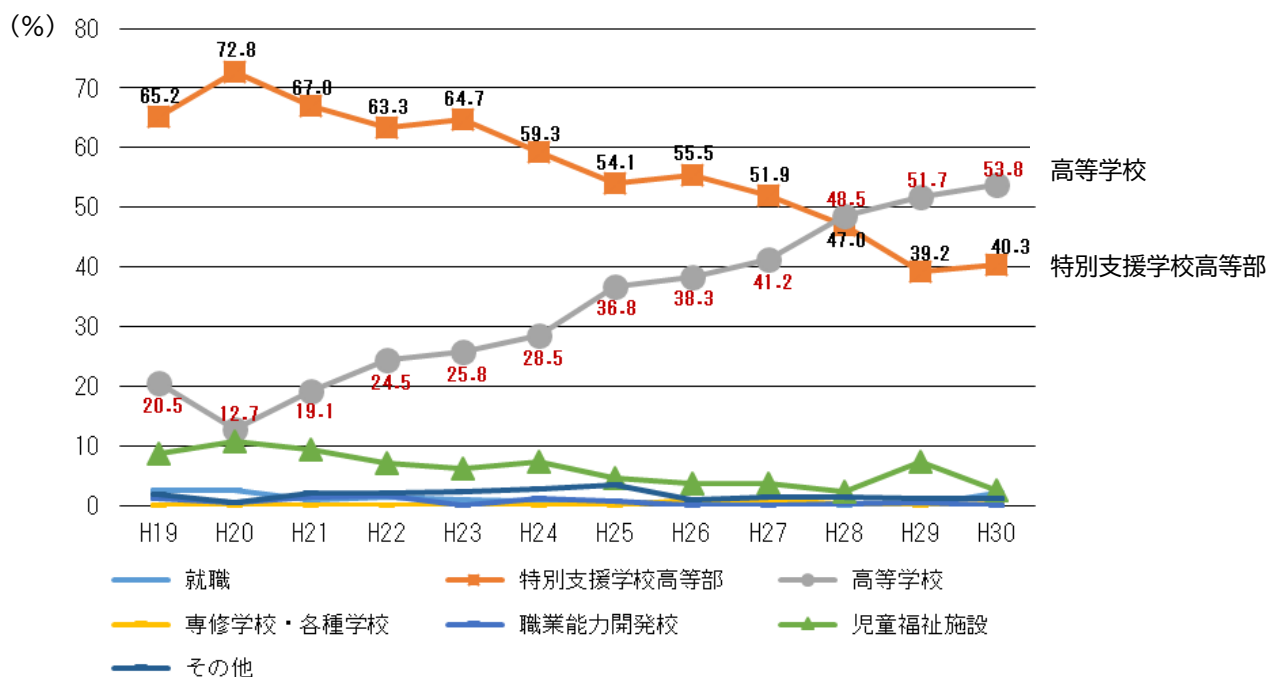
▲ 457 ▲ 17 ▲ 43 ▲ 142 ▲ 33 ▲ 25 ▲ 248 ▲ 412 ▲ 570 ▲ 801 ▲ 823 ▲ 984 ▲ 1636 ▲ 1662



※ 令和3年～令和11年は、令和2年5月1日の学校基本調査による現員
※ 令和12年以降は、令和2年4月1日付けの県人口推計(統計課)による

参考資料 3 - 2

【中学校特別支援学級卒業生の進路状況】



(人数)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
就職	4	4	2	3	2	2	1	1	2	0	0	7
特別支援学校高等部	105	115	130	145	143	152	144	161	151	158	129	144
高等学校	33	20	37	56	57	73	98	111	120	163	170	192
専修学校・各種学校	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	0	1
職業能力開発校	2	1	3	4	0	3	2	0	0	1	2	0
児童福祉施設	14	17	18	16	14	19	12	11	11	8	24	9
その他	3	1	4	5	5	7	9	3	4	5	4	4
計	161	158	194	229	221	256	266	290	291	336	329	357

(高等養護学校は特別支援学校高等部に含む)

参考資料 3 - 3

【高等学校における特別な教育的支援が必要な生徒の割合】

(発達障害 (LD、ADHD、高機能自閉症等) により、特別な教育的支援を受ける必要があると校内委員会において判断した生徒の割合 (診断の有無は問わない))

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
生徒数 (人)	32,898	32,238	32,540	31,911	32,144	32,470	32,353	31,874	31,019	30,925
対象者数 (人)	710	755	802	897	936	960	1,153	1,338	1,390	1,515
割合	2.16%	2.34%	2.46%	2.81%	2.91%	2.96%	3.56%	4.20%	4.48%	4.90%

高等学校における特別支援教育実態調査 (毎年9月1日調査) より

4 将来の社会の姿

10～15 年先の社会の姿として、以下のことが考えられる。

- ・人口減少と高齢化の更なる進行
- ・第4次産業革命を通じた Society5.0 の実現
- ・大規模災害などの発生リスク
- ・コロナ禍を経た新しい生活様式の定着
- ・持続可能な社会の実現（SDGs）を目指した取組
- ・多様な価値観が尊重される社会を目指した取組 等

将来の社会の姿として、想像はできるが予測できないことが起こりうるということを前提にしておく必要がある。

5 高校への希望や期待

詳細は、「資料 1 『魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート』結果」及び「資料 2 これからの滋賀の県立高校の在り方に関する意見聴取について」を参照

（1）生徒の立場から

<中学生・高校生 7,688 人回答の主な意見>

- ・文武両道に励みたい。
- ・友達をたくさんつくりたい。
- ・勉強だけでなく行事や部活動も充実して楽しめるようにしてほしい。
- ・楽しい授業が受けたい。
- ・少人数指導の充実をしてほしい。
- ・選択科目を増やしてほしい。
- ・大学受験について丁寧にアドバイスなどをもらいたい。
- ・地域・他校との交流を深めたい。
- ・将来何をしたいかなどの夢を見つけない。
- ・高校生活の中で将来のことをじっくり考えたい。
- ・タブレットでの学習を推進してほしい。
- ・リモート授業が、コロナ休校中に数回行われた。分かり易く便利だったので、復習用や補足用に導入してほしい。インターネットを活用した学習を増やしてほしい。
- ・学校の良さや特徴を積極的に宣伝して、県内の生徒により多く伝えてほしい。
- ・資格を取る勉強を増やしてほしい。 等

<大学生等 176 人回答の主な意見>

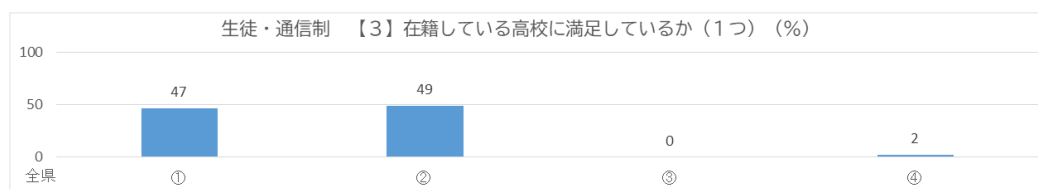
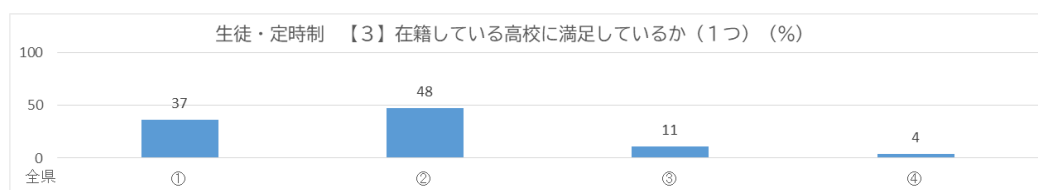
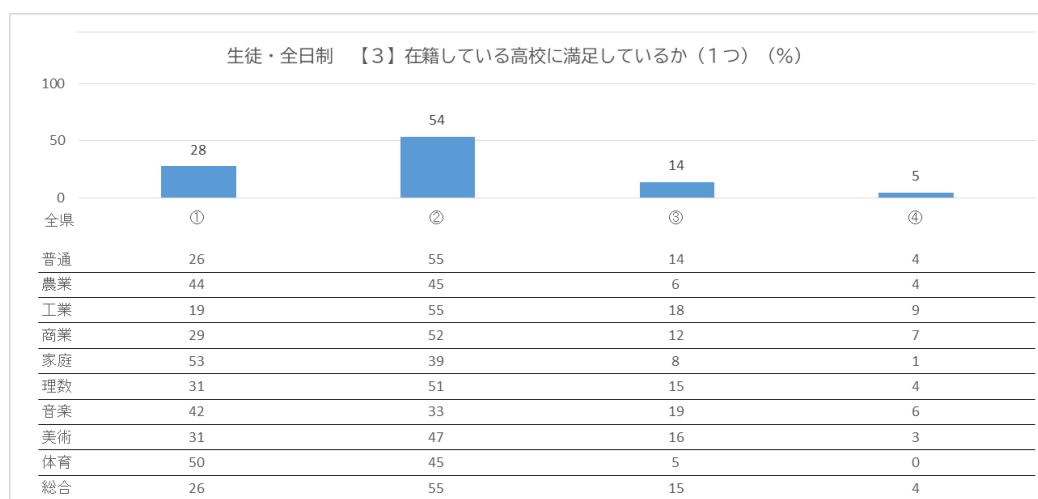
- ・フィールドワークは自分の将来について見据えて考える良い機会だったので、滋賀県の高等学校でもっと取り入れていくべきだと思う。
- ・新しい魅力を作ることよりも、今ある魅力は何かをよく理解し、その魅力を伸ばせるプログラムなどは何か見極めるべきだと思う。
- ・学校行事は生きる力を育成するためには非常に有効な活動。能動的に活動できる取組を増やしていくべきだと思う。

- ・学校行事のみならず、様々な場面でクラスメイトや教職員と団結できる取組をしていくべきだと思います。
- ・ディベートなどの自分の意見を述べる機会や相手の考えを受け入れる機会など、お互いが受け入れ合う機会を設けることも大切であるとする。
- ・キャリア教育がもっとあれば良かったと思う。大学進学の話はあったが、将来の仕事や自分の生き方を考える機会が欲しかった。
- ・キャリア選択の活動が良かった。学年全員を対象に、様々な分野の職場の方のお話を聞く機会があり、そこで大手企業で研究をされている方や銀行で働く方のお話を聞いたことで、将来なりたい職業の参考にすることができた。
- ・社会に出て働いているOBや、大学で学んでいる先輩たち、いろんな分野で活躍されている人と交流できる機会を設け、生徒自身が自分の「ありたい姿」がイメージできるようにするとよいのではと思う。 等

(魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート(高校生対象)より)

Q. あなたは在籍している高校について満足していますか。次の中から1つ選んでください。

①満足している ②ある程度満足している ③どちらかと言えば不満である ④不満である



<全日制> ○82%(①+②)の生徒が満足している。

※体育：満足度が最も高い(95%)

<定時制> ○85%(①+②)の生徒が満足している。

<通信制> ○96%(①+②)の生徒が満足している。

(2) 保護者の立場から＜中学生と高校生の保護者 6,894 人回答の主な意見＞

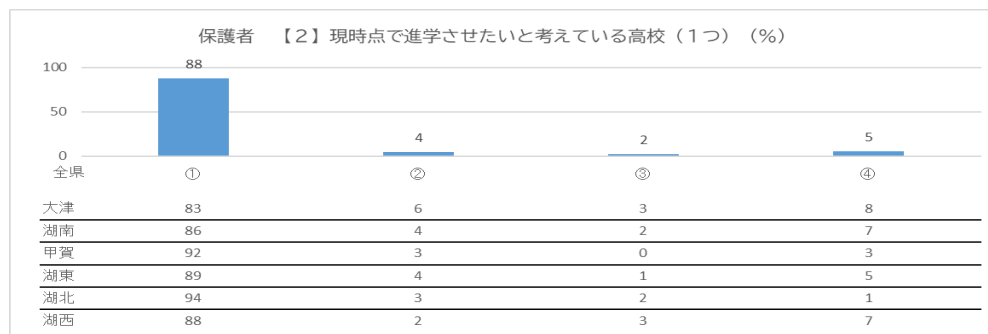
- ・子どもの可能性を拡げてやりたい。
- ・基礎から学べるようにしてほしい。
- ・楽しい高校生活を送ってほしい。
- ・一般的な教養を普通科、専門学科関係なく身に付くように指導してほしい。
- ・社会に出て仕事をしていく上で仕事は一人では出来るものではないので、周りの人とうまくコミュニケーションを取れる人材を育成してほしい。
- ・社会へ出るための自立する力をつけてほしい。
- ・子どもたち自身で考えたりする機会がもっとあると良い。
- ・勉強ばかりでなく、地域と関わったり学んだりできる授業、人間性を深められる高校生活を送れるような行事、校外学習が多くあると良い。
- ・学力向上だけではなく、人間性を高める、人として正しい考え方等を学ぶ場として高校があれば良いと思う。
- ・学習面での充実はもちろんのこと、生徒の生きる力をつけていくためには、学校でしかできない様な人と人とのつながりを大切にするため、部活動や生徒会活動、学級活動などを充実させることが大切だと思います。人と人との関わりから様々なことを学ぶのが学校です。学習面だけなら塾でもできますが、学校でしか学べないことがたくさんあるはずだと思います。
- ・オンライン授業や遠隔授業には力を入れてほしい。

等

(魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート(中学生保護者対象)より)

Q. 現時点でお子様に進学させたいと考えている高校を次の中から1つ選んでください。また、そのように思う理由を書いてください。

①県内の県立高校 ②県内の私立高校 ③県外の私立高校 ④その他



○88%の保護者(中学生は66%)が、「①県内の県立高校」へ進学させたいと考えている。理由としては、「家から近く通学しやすい」、「学費が安い」、「子どもが行きたいと思っている高校が県立高校」という回答が多かった。

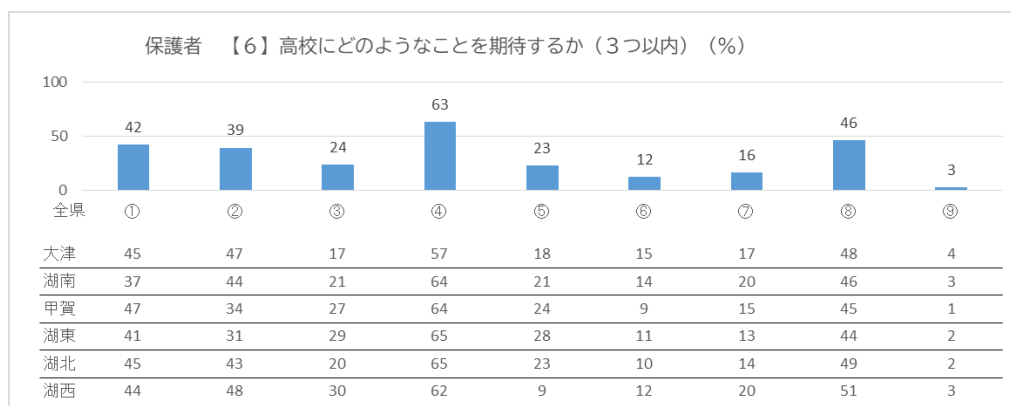
○主な理由

- ①県内の県立高校 (家から近く通学しやすい、学費が安い、子どもの希望、魅力ある学校がある部活動、学校の選択幅がある)
- ②県内の私立高校 (部活動、大学進学)
- ③県外の私立高校 (県内に子どもが学びたい学科がない)
- ④その他 (高等専門学校)

（魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート（中学生保護者対象）より）

Q. あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
- ②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
- ③資格につながる学習ができる。
- ④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
- ⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
- ⑥学校行事が充実している。
- ⑦部活動が盛んである。
- ⑧多くの友人をつくることできる。
- ⑨その他



○「④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる」高校を期待している保護者が最も多い(63%)。

○次いで、多くの友人をつくり、交友関係の幅を広げてほしいと考えている保護者が多い。

※「⑧多くの友人をつくることできる」：46%

○「①基礎的・基本的な学力(42%)」から、「②大学等への進学のための高い学力(39%)」を身に付けられる高校を期待している保護者も多い。

（3）地域社会の視点＜市長会、町村会、市町教育長等の主な意見＞

- ・県内のどこに生まれ育っても、地元で高等学校でキャリア形成をし、地域創生に資する力や思いを育成することができる魅力ある高校教育が推進されなければならないと考える。
- ・地域との協働による地域課題のマッチングに向けた学びから、「社会から学び自らの進路を考える力が付くもの」とも思われる。
- ・高校は地域にとって大切な存在である。地域の人材を育成し、将来的に地域に戻って地域に貢献する人材の育成が高校の大きな役割であると考えている。
- ・県内のどの地域でも様々な学びが提供されるとともに、キャリア形成を保証するような学校づくりをすることも大切であり、自分を高めるとともに、地域の活性化に貢献する生徒の育成にも重点を置く。
- ・在り方検討が最終的に高校再編にならないように要望する。令和4年度からの地域別協議会で地域の声をしっかり聞いてほしい。
- ・地域において1つの高校の存続は大きい。等

(4) 産業界の視点＜県内企業関係者等の主な意見＞

- ・専門的に教育して、高校を卒業してすぐに社会に役立つ人材を育てる必要がある。
- ・施設設備について、今の状況の中でなかなか予算的なところもあって充実していないと思う。企業などと連携し、充実させる必要があるのではないかな。
- ・民間人であっても、基準を満たした人であれば生徒を教えることに参加できる仕組みも必要ではないかな。
- ・資格がとれる仕組みを整えてほしい。 等

(5) 教職員の立場から＜中学校・高校管理職、中堅教諭等の主な意見＞

- ・県立高校の子どもや保護者に特色ある学校づくりはなかなか浸透しない。私立高校に比べるとまだまだアピール不足だと思う。子どもや保護者が気軽に見学できるような取組が必要だと思う。
- ・国境を越えて世界の同世代とつながるカリキュラムを持ち、グローバルコンピテンスの涵養を目指す学校も必要だと思う。
- ・人間性を高めるために、授業はもちろん、部活動や学校行事も大切にし、いろいろな「経験」ができる教育活動を工夫したい。
- ・ICTの活用と授業改善を推進して生徒主体の授業づくりを更に進めていきたい。
- ・生徒が自らの将来を考える機会を増やしたい。
- ・「文武両道」と「地域との連携」を大きな柱として、将来地域に戻り、地域に貢献できる人材づくりに引き続き取り組んでいきたい。
- ・高校を卒業してからの人生にしっかり役立つような経験と知識を生徒たちが得られる場になるように努めていきたい。
- ・学校の規模が小さくなると学校の活気や学園祭等の行事、部活動に影響がある。
- ・集団だからこそできる学びや体験を各学校の特色として打ち出していく必要があると強く感じた。
- ・多様性を認められ、受け入れられるような取組が必要だと思う。
- ・教員全体が各校の特色を生み出せるような思考時間をもてるように、余裕を持てるように変わること、変えることへの支援が必要だと思う。
- ・人口減少地域において、一定の学校規模で教員数も充実した状況を作ることが必要と思う。
- ・外部指導や地域の方との連携で負担が増え、本来やるべき教科指導や部活動指導に力を注ぐことが十分できないことが課題となる。
- ・ある程度「過ごしやすく快適な」環境を用意する必要がある。
- ・社会の変化に合わせて教育を提供することが今後の我々の使命になる。
- ・特別な教育的支援や部活動において専門家をつけることが必要だと思う。 等

Ⅱ これからの滋賀の県立高校の在り方に関する基本的な考え方

1 本県教育の基本理念

本県教育の基本目標は、平成 31 年（2019 年）3 月に策定された滋賀の教育大綱において、「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」と定められている。また、サブテーマとして「人生 100 年を見据えた『共に生きる』滋賀の教育」を掲げ、人生 100 年をより豊かに生きていくために、多様な人と交わりながら、生涯を通じて学び、その学びの成果を地域に生かしていくことで、「人と人」、「人と地域」がともに連携し、滋賀の教育の充実と地域の活性化が良い循環を生み出すことを目指すこととしている。

2 育成すべき生徒像

10～15 年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのための魅力ある高校づくりを検討するに当たり、「将来の社会の姿（P 9）」の整理や、「高校への希望や期待（P 9～）」を踏まえて、本県の高校で育成すべき生徒像を次のとおりとした。

生きる力（自立する力、伝える力、協働する力、創造する力等）がある。

3 高等学校の役割

高校は、上記の「2 育成すべき生徒像」で示した生徒の生きる力（自立する力、伝える力、協働する力、創造する力等）を様々な教育活動の中で育む場となる。

また、中学校における教育の基礎の上に、生徒一人ひとりがもっている好奇心や探究心を更に発展させる場であるとともに、「答えを見つける」教育から「課題を見つけて解決に向けて考え行動する」教育の場となることも求められる。

4 魅力化の視点

「将来の社会の姿（P 9）」で整理した多様な価値観が尊重される多様性のある社会や人口減少社会への対応等を、小中学校との連携や小中学校での学びを十分生かすとともに、高校卒業後の進路となる大学や社会等とも連携・協働しながら、これらの連続性の中で捉え、ICT も活用し、持続可能な形で実施する。また、森・川・里・湖が水系でつながり、近江の心が根付いた「滋賀」ならではの学び、それぞれの県立高校でこそその学びを地域とともに推進する。

5 目指す姿

高等学校の目指す姿として、「生徒が自ら主体的に学び『生きる力』をつけることができる」「生徒が世界につながり活躍するための力をつけることができる」「生徒同士が切磋琢磨し成長できる」「場所や時間を選ばない学びができる」「生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる」「障害のある者となない者が互いに学び合い互いを尊重できる」「生徒が自らに合った学びを選択できる」「教員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている」の 8 つに整理した。

■高校別 ◇県域全体

①生徒が自ら主体的に学び「生きる力」をつけることができる

◇すべての生徒に自分を高める学びが提供されている

◇多様な人との出会いやコミュニケーションを通じて深め発見できる学びが提供されている

②生徒が世界につながり活躍するための力をつけることができる

■グローバル人材や科学技術人材が育成されている

■大学等と連携した高度な専門的学びが提供されている

◇ICTを活用した対話的・協働的な学びが実現できている

③生徒同士が切磋琢磨し成長できる

■学校行事や部活動が活性化している

◇学校でこそ育まれる人と人とのつながりを意識した空間が提供されている

④場所や時間を選ばない学びができる

◇ICTや外部人材を活用し、所属する学校の枠にとらわれない柔軟で多様な学びが提供されている

⑤生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる

■地域の教育資源や人々と関わる学びが提供されている

■産業界と連携した学びが提供されている

⑥障害のある者となない者が互いに学び合い互いを尊重できる

◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる

⑦生徒が自らに合った学びを選択できる

■それぞれの県立高校ならではの魅力や特色が人々に理解されている

◇県内どの地域でも様々な学びが提供されている

■基礎学力充実、不登校、日本語学習等に対応する学びが提供されている

⑧教職員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている

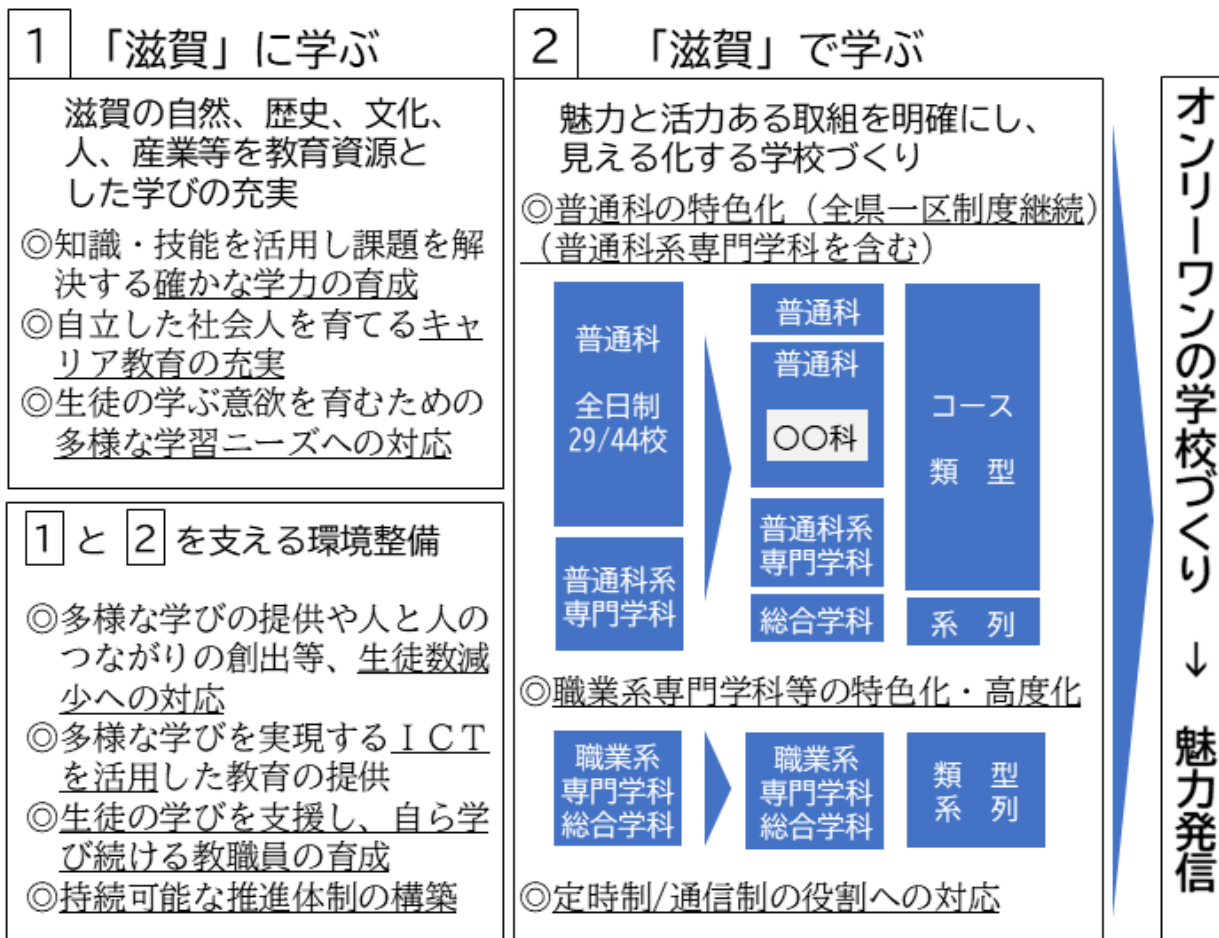
◇授業改善が進むとともに教職員自身の人間性や創造性を高め効果的な教育活動ができている

6 滋賀の県立高校づくりのコンセプト

これからの滋賀の県立高校が目指す姿を実現するため、「多様な生徒一人ひとりが、『滋賀』という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進める」をコンセプトとする。**①**「滋賀」に学ぶとして、滋賀の自然、歴史、文化、人、産業等を教育資源とした学びを充実させ、**②**「滋賀」で学ぶとして、滋賀の県立高校の魅力と活力ある取組を明確にし、見える化する学校づくりを進めるとともに、これらを支える環境整備を行い、オンリーワンの学校づくりに取組み、魅力を発信していく。

滋賀の県立高校づくりのコンセプト

多様な生徒一人ひとりが、「滋賀」という地域から学び、
社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進める



○コース：普通科における教科のうち1教科または複数の教科を重点的に履修することにより、将来の進路への動機づけを強め、個性を生かし、目的意識や意欲をもって学習することができるよう設置するもの。入学者選抜では普通科として募集し、入学許可予定者発表後にコース希望者を募り、1年次から分かれる。

体育コース（伊吹、愛知、水口）、音楽コース（愛知）、SSコース（彦根東）
国際文化コース（北大津、水口）、福祉健康コース（石部）、英語コース（米原）

○類型：文系、理系、看護系のように、生徒が自己の特性、進路等に応じ、学習に計画性、継続性を持てるよう、学校が独自に各教科・科目をあらかじめ配列したもの。2年次以降に分かれる。

○系列：総合学科において、体系性や専門性等において相互に関連する普通科目および専門科目をまとめて設置したもの。教育課程上の総合選択科目群。1年次後半あるいは2年次から分かれる。

メカトロニクス系列（国際情報、長浜北星）、セラミック系列（信楽）

スポーツ科学系列（彦根翔西館）、食と健康系列（甲南）、ビジネス系列（日野）等

参考（滋賀の教育大綱より）

<近江の心>

・先人たちの教えを引き継ぎ、未来につなぐことで、郷土への愛着と道徳性を育てます。

（主な教え）

○中江藤樹先生の教えである「良知（生まれながらにして持っている美しい心）」の心

○糸賀一雄先生の言葉である「この子らを世の光に」の考えにある一人ひとりを大切にする心

○雨森芳洲先生の言葉である「互いに誠を持って交わろう」の考えにある異文化を理解する心

○近江商人の経営の理念である「三方よし」の考えにある公の心

○琵琶湖とともに生き、自然環境を大切にする心

など、それぞれの地域で受け継がれ大切にされてきた先人の心を大切にします。

Ⅲ 論点整理と取組の方向性

- ※ モデル校指定等による取組内容の研究・実践
- ※ 高等専門人材育成に関しては、知事部局における議論と連携

ア 確かな学力を育む

(主な論点)

- ・自分の力で生き抜く力が必要。先生の求める答えに合わせる教育や知識詰め込み教育では生き抜く力は育たない。どのように生きていくか考えられる教育が必要。
- ・一斉指導中心からの脱却を図り、生徒の実態や興味関心に配慮して、ICTの活用等、もっと多様な学習形態で子どもたちの学びを深める部分が必要。
- ・これから生きる生徒達は「与えられる」のではなく、自発的に新たなものを生み出していく必要がある。そういった子どもたちを育成するため、STEAM 教育をはじめとした、様々な取り組みが必要。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善の継続・発展

〔目指す姿①⑧〕

- ・授業改善の推進、研究指定校による先進的な研究・取組と全校への展開

(2) 「読み解く力」をもとにした探究的に学ぶ力を育成

〔目指す姿①〕

- ・探究的な学習の推進、研究指定校による先進的な研究・取組と全校への展開

イ キャリア教育の充実

(主な論点)

- ・とりあえず大学という人が多い。将来を見据えた指導が必要でもっと社会というものを見せる必要がある。キャリア教育を充実すべき。
- ・学校と地域、素材と学びをつなぐことができる人を配置することが必要。
- ・高校だけでなく、小中学校、地域、大学、就職との連携が必要。
- ・2022 年 4 月 1 日から成年年齢が 18 歳に引き下げられることに向けて、高等学校においてもその意識付けを行う教育が必要。
- ・職業に関するキャリア教育が必要。地域社会と連携して、職場見学や職業体験などの機会を設けたり、自己のキャリアプランニングについて学習したりできる機会を増やすべき。

(1) 小中学校での学びの連続性、高校卒業後の進路との接続、地域の教育資源の活用を意識した、体系的・系統的なキャリア教育の推進

〔目指す姿①⑤〕

- ・キャリアパスポートの活用
- ・普通科（普通科系専門学科含む）におけるインターンシップ等の実施
- ・職業系専門学科・総合学科におけるインターンシップやデュアルシステムの実施
- ・行政機関、地域住民、産業界、大学等と連携・協働したフィールドワーク（現地調査）による課題研究や地域の課題解決に向けた学習の推進
- ・行政機関、地域住民、産業界、大学等との連携・協働を推進するためのコーディネーターの配置やコンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置
- ・外部人材の活用
- ・学校間連携の推進
- ・主権者教育の充実（成年年齢の 18 歳引き下げに対応した教育の充実）

※コンソーシアム

一つの目的のもとに、複数の企業・団体などが形成する連合体。

ウ 多様な学習ニーズへの対応

(主な論点)

- ・通級指導が受けられる学校を増やす必要。
- ・日本語指導が必要な生徒への指導が定時制の役割にもなっている。
- ・学び直しや学びの目覚めになるような工夫が必要。
- ・一人ひとりの生徒のペースに合った学びが必要。場が変われば不登校の生徒たちも伸びる。
- ・特別支援教育の対象となる生徒や外国にルーツを持つ生徒に対して、きめ細かな配慮が必要。
- ・学習意欲に乏しい生徒が多い学校は、30人学級にするなどして、教員が生徒に対して手厚く対応できるようにすることが必要。

(1) 特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の充実 [目指す姿⑥]

- ・特別支援教育コーディネーターをはじめとする教員研修の充実
- ・通級による指導の拡大
- ・特別支援学校との連携強化

(2) 不登校生徒支援、日本語指導が必要な生徒対応の充実 [目指す姿⑦]

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した支援体制の充実
- ・日本語指導が必要な生徒に対応する教育の充実
- ・ICT活用による個別最適な学びの実現

(3) 基礎学力充実のための取組の工夫 [目指す姿⑦]

- ・教育課程や少人数指導の工夫等

エ 普通科の特色化（普通科系専門学科を含む）

(主な論点)

- ・学んだことを地域や社会でどう生かすかを系統的に教える必要がある。産学官連携、地域学習、様々な体験、社会や地域とのつながりが大切。
- ・〇〇高校は「文武両道」、△△高校は「とても面見がよく、学びなおしもできる」などのように学校の魅力や特徴をより発揮することが大切。
- ・各高校の魅力・特徴は、特に『普通科』である場合伝わりにくく、横並び的なものとして映ってしまっている。滋賀県は比較的、広域的な通学が可能な県であると思います。それだけ、生徒にとっても選択の幅は広いわけで、それに応えうる情報発信が求められている。
- ・特色化を図る際、学校の主体的な取組が必要であり、各学校が将来どのようなアイデアや構想があるのか聞き取った上で検討すべき。
- ・音楽科は、志望者さえあれば、存続させるのにふさわしい価値をもっている。

(1) 約7割の生徒が通う普通科等の特色化・魅力化を促進する観点から、「普通教科を主とする学科」として普通科以外の学科や特色あるコース、類型等の設置について検討 [目指す姿①②③⑤⑦]

- ・学際科学的な学びに関する学科
- ・地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに関する学科
- ・その他普通教育として求められる教育内容であって、特色・魅力ある教育を実現すると認められる学科
- ・普通科系専門学科
- ・総合学科への改編
- ・コース、類型の設置 等

※新しい学科やコース、類型の例：地域探究、学際融合、環境科学、スポーツ科学
先端科学、環境防災、データサイエンス、歴史観光
保育、地域貢献 等

- ・外部人材の活用（再掲）
- ・行政機関、地域住民、産業界、大学等との連携・協働を推進するためのコーディネーターの配置やコンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置（再掲）
- ・教育課程や少人数指導の工夫等（再掲）

（２）グローバル人材、科学技術人材の育成 〔目指す姿②〕

- ・教科横断的で探究的な学びの拠点となる高校を県内複数校配置
（文部科学省SSH、WWLの指定校等）
- ・大学・研究機関等との連携・協働の推進

（３）普通科系専門学科（音楽・美術等）の学びを継続するための工夫 〔目指す姿⑦〕

- ・教育内容の改善・充実を図るとともに、必要に応じて学科改編、コース化、学級定員の弾力化等を検討
- ・学際科学的な学びに関する学科の設置に向けた研究（再掲）

（４）高校の特色のPR 〔目指す姿⑦〕

- ・小中学生や保護者、地域の方等に高校の特色を知ってもらう機会の確保
- ・HPや動画配信等の充実
- ・学習成果の発信

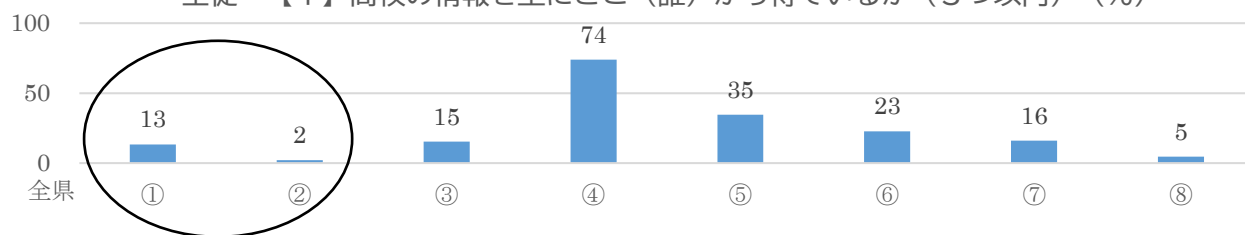
（魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケートより）

Q. あなたは高校の情報を主にどこ（誰）から得ていますか。（得ていましたか。）3つ以内で選んでください。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ①中学校の先生や中学校での進路相談 | ②高校での体験入学、学校説明会 |
| ③高校のホームページ、パンフレット | ④家族・親戚 |
| ⑤友人・先輩 | ⑥学習塾 |
| ⑦インターネット（高校のホームページ以外） | ⑧その他 |

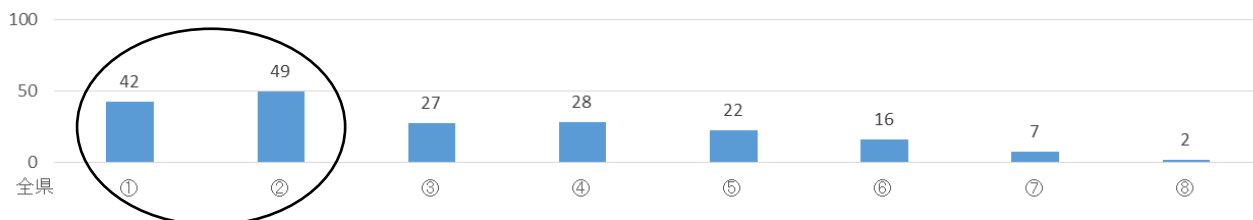
中学１・２年生→

生徒 【１】高校の情報を主にどこ（誰）から得ているか（３つ以内）（％）



高校１・２年生→

生徒・全日制 【１】在籍する高校の情報をどこ（誰）から得たか（３つ以内）（％）



○中学１・２年生は高校の情報を、「④家族・親戚(74%)」や「⑤友人・先輩(35%)」から得ている生徒が多い。

※高校での体験入学や学校説明会は中学３年生が対象となっていることから、中学１・２年生では

「①中学校の先生や中学校での進路相談」、「②高校での体験入学、学校説明会」は少ない。

○高校１・２年生は「②高校での体験入学、学校説明会(49%)」から在籍校の情報を得ていた生徒が最も多く、「①中学校の先生や中学校での進路相談(42%)」からも多くの生徒が情報を得ている。

オ 職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化

(主な論点)

- ・民間人でも生徒を教えることに参加できる仕組みが必要。
- ・工業高校では自分たちで作り地域に出て貢献することで、学校でやっていることは役に立つということを学べる。
- ・すべての業界で情報技術を身に付けた人材が活躍する。A I や I o T を身に付ける教育が必要。
- ・施設・設備については、企業などと連携して充実させる必要がある。
- ・大学や産業界との連携が推進されることが必要。
- ・専門学科の独自性を発揮するには、学校の施設・設備を充実させ学習環境の整備が必要。

(1) 新しい時代に対応した学びの提供や必要な産業分野で力を発揮できる人材育成
〔目指す姿①②③⑤〕

(2) 職業系学科の魅力を伝える方策
〔目指す姿⑦〕

(3) 施設・設備の充実、外部資源の活用
〔目指す姿⑤⑦〕

(4) 高校の特色のP R (再掲)
〔目指す姿⑦〕

- ・小中学生や保護者、地域の方等に高校の特色を知ってもらう機会の確保
- ・H P や動画配信等の充実
- ・学習成果の発信

(滋賀県産業教育審議会の議論を踏まえて記載)

※A I (Artificial Intelligence)

人間が持っている、認識や推論などの能力をコンピューターでも可能にするための技術の総称。

※I o T (Internet of Things)

あらゆる物がインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービス、ビジネスモデル、またはそれを可能とする要素技術の総称。

カ 定時制/通信制の役割への対応

(主な論点)

- ・定時制高校は、不登校を経験した生徒や高校を中退学した経験のある生徒が、学び直しを考えた時など必ず必要となる学校である。
- ・他府県では不登校の生徒への対応を中心とした高校がある。環境を整えれば伸びるといった成功事例を見ていく必要がある。

(1) 多様な生徒の進路保障等を見据えた学びの場の提供
〔目指す姿③⑦〕

キ 生徒数減少への対応

(主な論点)

- ・部活動は特色になるが、学校ごとに役割分担する方法もある。
- ・魅力の出し方は様々であり、全ての高校をサイズ感で統一する必要はない。
- ・特に人口減少地域の小規模校には、学校の特色を発揮しやすい学科の編成等を推進して魅力ある学校づくりを行い、地域の活性化の貢献につなげる必要がある。
- ・少子化の影響を受け、小規模となる高校が増加してくるが、地域市町と密接な協力を得ながら各高校の魅力化と特色化を進め、地域の為に存続させていくことが必要。

- (1) これまで以上に地域と連携・協働した学校づくりを推進 [目指す姿⑤⑦]
 - ・地域活性化の観点から地元支援等の必要性を提言
 - ・高校が所在する市町等との意見交換の場の設定
 - ・行政機関、地域住民、産業界、大学等との連携・協働を推進するためのコーディネーターの配置やコンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置(再掲)
- (2) 多様な学びを実現するための少人数学級の工夫 [目指す姿⑦]
- (3) 市町のまちづくりと連携した特徴的な学科等の設置や磨き上げ [目指す姿⑤⑦]
- (4) 「普通教科を主とする学科」として普通科以外の学科や特色あるコースの設置等について検討(P18参照) [目指す姿①②③⑤⑦]
- (5) 学校行事、部活動等の学校間連携や地域連携についての研究 [目指す姿③]

ク ICTの活用

(主な論点)

- ・ICTを活用した授業をするためには、ハード面を整えるということとともに、ソフト面である教職員の授業も変わっていく必要がある。授業の在り方を研究していく必要がある。
- ・ICTをフルに活用し、インターネット等で授業を行い、単位認定して行くような高等学校があれば多くのニーズがある。

- (1) 全ての高校でICT環境の充実・更新 [目指す姿①④]
 - ・ICTを効果的に活用した授業改革(対面授業、配信)
 - ・ICT活用による個別最適な学びの実現(不登校、長期入院等の生徒を含む)(再掲)
 - ・連携校間オンライン授業の設定
 - ・学校の枠に留まらないつながりの創出
 - ・after コロナ対応
 - ・ICT化が進む学校における協働性、社会性等の育成研究
- (2) ICT活用のコンテンツ等の共有化 [目指す姿①④]
 - ・対面授業の中でのICTの活用
 - ・対面授業とオンライン授業の効果的な併用方法について研究(ハイブリッド授業)
 - ・BYODの導入とネットワーク接続環境やPCのない家庭への支援策を構築
 - ・オンデマンドによる授業配信
 - ・反転授業等への活用
 - ・スタディ・ログの活用による個別最適な学びの実現
 - ・多様な他者と協働した探究的な学びの実現
 - ・PBL型の学び
- (3) 教職員のICTを活用するための研修の充実 [目指す姿①⑧]

※BYOD (Bring Your Own Device)

私物のパソコン・スマートフォン・タブレット型端末などを利用すること。

※PBL (Problem Based Learning、Project Based Learning)

与えられた課題または、自ら設定した課題を解決していく過程で、様々な能力を育成する学習。

ケ 生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成

(主な論点)

- ・魅力ある学校づくりに取り組むのであれば、教員に余裕がなければならない。教員の確保や研修の充実も必要となる。
- ・情報端末を使って授業ができる教員の養成も急務。ＩＣＴを使える教員の雇用も必要。

(１) 優秀で意欲のある人材の確保 [目指す姿⑧]

(２) 研修の充実 [目指す姿⑥⑧]

- ・「滋賀県教員のキャリアステージにおける人材育成指標」に基づく、教職員の資質・能力の向上を目指す研修の充実
- ・教職員のＩＣＴを活用するための研修の充実（再掲）

コ 持続可能な推進体制の構築

(主な論点)

- ・コーディネーターやコンソーシアムなどの地域との連携を進める基盤は大切。
- ・地域とともにある学校づくりに関してコミュニティ・スクールというような取組があるとよい。
- ・あらゆる教育が学校に押し付けられ、さらに学校の魅力化を進めると、教員の業務過多になることが懸念される。教員の支援が必要となる。
- ・学校経営に関して、三つのポリシー（グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を、明確化していく必要がある。

(１) 地域と連携・協働した学校づくりを推進 [目指す姿①⑤]

- ・行政機関、地域住民、産業界、大学等との連携・協働を推進するためのコーディネーターの配置やコンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置（再掲）

(２) 働き方改革の推進 [目指す姿⑧]

- ・「学校における働き方改革取組方針」「学校における働き方改革取組計画」に基づいた取組の推進

(３) 経営方針の明確化 [目指す姿⑦]

IV 将来を見据えた整理

今後、次の項目については、本検討委員会や関係者等で議論する必要がある。

1 県立高校の役割/私学との関係

県立高校と県内私立高校は本県の公教育の充実と発展をともに担っており、県立高校はこれまでから必要に応じて高校改革を実施し、県内私立高校は独自の建学の精神にもとづき特色ある教育を実施している。今後の生徒数が減少していく時代において、公立・私立高校の在り方等について、互いに課題を共有し方向性についての検討が必要となる。

2 学校規模に応じたメリット、デメリット

現在の県立全日制課程の44校は1学年あたり2学級から9学級（令和3年度滋賀県立高等学校募集定員）の学校規模となっており、その規模に応じた生徒の活動や学校経営等の現状を踏まえてメリット、デメリットを整理しておく必要がある。

3 将来に向けた議論の必要性

10年から15年先の生徒数の推移見込みにより想定される学級数をもとに、社会の変化や地域の状況も踏まえた県立高校の在り方を検討する必要がある。

4 現行入学者選抜に関すること

中学校等卒業生の99%が高等学校等へ進学しており、現行の県立高等学校入学者選抜は生徒の主体的な進路選択のうえで大きな役割を果たしてきた。今後の県立高校の在り方を検討し高校改革を進めていくためには、入学者選抜に関することも検討する必要がある。

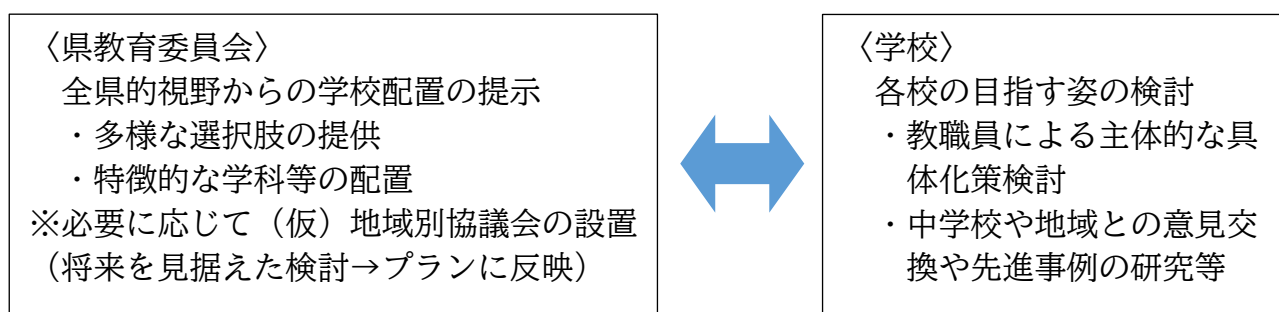
V （参考）基本方針策定後の進め方（案）

1 （仮）魅力化プランの作成（たたき台→意見聴取→案作成）

県教育委員会は、令和3年度中に策定予定の（仮）これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針に基づき、全県的視野から多様な選択肢の提供や特徴的な学科等の配置を示す（仮）魅力化プランのたたき台を提示する。

各学校は、教職員による主体的な具体化策の検討や中学校や地域との意見交換や先進事例の研究等も踏まえて、目指す姿を検討する。

県教育委員会は必要に応じて（仮）地域別協議会を設置し将来を見据えた検討を行う。



2 〈県教育委員会〉個別の実施計画作成

県教育委員会は、（仮）魅力化プランに基づき実施可能と判断する対象校を選定し、個別の実施計画を作成する。

3 〈学校〉個別の実施計画に基づく具体的検討と経営方針策定・公表

各学校は、個別の実施計画に基づき、具体的な検討と経営方針（生徒育成方針、教育課程・実施方針、生徒募集方針等）を策定し公表する。

滋賀県立高等学校再編計画の実施状況について

1	総括	P 3
2	実施状況（概要）	P 4
3	再編実施計画の「再編の具体的な方策」の実施状況	
3-1	新しいタイプの学校の設置	P 12
3-2	統合による新しい学校の設置	P 13
3-3	地域に根ざした学校づくり	P 15
3-4	職業系専門学科の改編等	P 16
3-5	総合学科の充実	P 17
3-6	定時制課程の見直し	P 17
3-7	その他教育内容の充実等	P 18
4	各地域の再編の実施状況	P 19
5	関係資料	
5-1	策定までの経緯	P 20
5-2	再編対象校の入学者選抜状況	P 21
5-3	再編実施計画の年度別進行状況	P 22
5-4	県立高等学校研究指定校一覧表	P 24
5-5	部活動の状況	P 32
5-6	滋賀県立高等学校再編計画に基づく取組状況調査結果	P 38

1 総括

(1) 学校統合

平成24年12月に再編計画を策定し、基本計画の計画期間を概ね10年として魅力と活力ある学校づくりを実施してきた。標準とする学校規模を1学年あたり概ね6学級から8学級とし、地域ごとの生徒数の推移を見据えつつ、標準を下回る規模の学校が多くを占める地域において、学校の統合を行い、地域全体の学校活力の維持向上を図った。

統合により開校した彦根翔西館高校は、「探究（普通）系列」「スポーツ科学系列」「家庭科学系列」「会計ビジネス系列」「情報ビジネス系列」の5つの系列を持つ総合学科の高校として、開校以来、県内の広い範囲から入学者を集めている。また、同じく長浜北高校は、8割以上の生徒が部活動に加入し活動するとともに、卒業生の約7割が大学に進学する湖北地域の中核的普通科高校となっている。学校統合により、子ども達の社会性が涵養できるとともに、部活動の活性化、充実を図ることができた。

(2) 多様な学習ニーズへの対応

新しいタイプの学校として、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、能登川高校を全日制・定時制併置の総合単位制高校に改編した。定時制昼間部では、中学校で不登校などの経験のある生徒が多いものの、始業時間が遅いことや少人数授業の実施により不登校であった生徒も登校し卒業できているといった成果が上がっている。

その他、再編の具体的な方策に記載のあった、「地域に根差した学校づくり（信楽高校の改編）」「職業系専門学科の改編等」「総合学科の充実（長浜北星高校総合学科に福祉系列を設置）」「定時制課程の見直し」については、再編のねらいについて、一定達成できた。

(3) 全ての高校の魅力ある学校づくり

また再編計画では、上記の再編の他に、「全ての高等学校においてそれぞれの教育目標等に応じた魅力ある学校づくりに取り組みます」としており、この間、全県一区制度のもとで、全ての県立高校において、国や県の研究指定も活用しながら、魅力と活力ある学校づくりに取り組んだ。

令和2年1月に実施した県立高校の校長対象の調査では、92%の学校が、魅力と活力ある学校づくりが進んだと回答している。「地域との連携」や「授業の工夫」、「大学や企業との連携」が進んだと回答した学校が多く、地元市町や商工会との連携協定を結び、就業体験等に取り組んでいる高校もある。また、令和2年10月に実施した高校1、2年生を対象としたアンケートでは、在籍している高校に満足している生徒は82%あった。これらのことから、魅力ある学校づくりは一定進展している。

(4) これからの魅力ある学校づくりに向けて

計画策定過程における地域の理解やコンセンサスを得ることが不十分であったとの声もあり、今後は計画策定過程で地域と双方向でやり取りする等、地域を巻き込んだ議論をしていく必要がある。

また、中学校長を対象としたこれからの滋賀の県立高校の在り方に関する意見聴取では、「オンリーワンの高校、その高校ごとの特色をもっと前面に出した学校づくりを進めていく必要がある」や「各高校の魅力・特徴は、特に『普通科』である場合伝わりにくく、横並び的なものとして映ってしまっている」といった意見があり、普通科高校を中心として、今後も更なる特色化、魅力化を継続して進めるとともに、特色や魅力の発信力を強化していく必要がある。

加えて、将来的に生徒数が大きく減少すると見込まれる地域にある学校においては、学校規模の更なる小規模化が進むと想定されるため、市町との連携・協働による高校の魅力化策についても検討していく必要がある。

2 実施状況（概要）

【滋賀県立高等学校再編計画の具体的な方策の実施状況（概要）】

学校	再編内容	ねらい
能登川	新しいタイプの 学校設置 (全定併置 総合単位制)	・多様な学習のニーズに対応 ・様々な学習歴を持つ生徒の「学び合い」
能登川(定)		
彦根翔西館	学校統合 (彦根西＋ 彦根翔陽)	・普通・商業・家庭の系列で編成する総合学科高校を設置 ・主体的な学習を促す多様な学びの充実 ・多様な生徒集団のもと、人間関係形成能力や社会性の育成
長浜北	学校統合 (長浜＋ 長浜北)	・湖北地域の既存の普通科単独校と並び立つ中核的な普通科単独校を設置 ・グローバル社会に生きる国際人を育成するための英語教育を展開 ※中高一貫教育校設置については、P8 参照
信楽	2 学級の 総合学科に改編	・多様な学びを提供し生徒の進路希望等に応じた教育を行う ・地域の教育資源を活用した学習等を取り入れた魅力ある学習活動を展開し、学校活力を向上 ・県外からの入学生を募集 ※信楽高等学校の検証については、P9 参照
長浜農業	農業学科の 小学科改編	・中学生から見て分かりやすい学科体系や名称に変更 ・地域の特色を生かし、消費者や需要者のニーズにあった農業の展開、経営の多角化、大規模経営などの学習内容の充実を通して、将来の本県農業の担い手としての資質と能力を育成
湖南農業		
八日市南		
瀬田工業	工業学科の 小学科改編	・細分化された電気系と情報系の小学科を統合し、中学生から見て分かりやすい学科体系や名称に整理 ・化学系小学科と建設系小学科を設置する学校の見直しにより専門学科としての教育内容の充実を図る。
彦根工業		
八幡工業		
瀬田工業 (定)	学校統合 (瀬田＋瀬田工 業(全))	・全定併置の工業学科として両校のノウハウの蓄積や施設・設備を有効に活用し、専門学科としての教育内容の充実を図る

現状と課題
◎定時制昼間部では、入学後に不登校傾向が改善されるケースが見られている。また、入学者の多くが3年間で卒業できている。 ◎全日制と定時制昼間部の生徒がともに履修できる科目を設定し、学び合いが実現。 ◎学園祭や校外学習で全日制と定時制昼間部が連携。 ◎高大連携講座や高卒程度認定試験の合格科目の単位認定。 △定時制夜間部は単独扱いになる傾向がある。 ※校舎増築
◎「探究（普通）系列」「スポーツ科学系列」「家庭科学系列」「会計ビジネス系列」「情報ビジネス系列」の5つの系列を持つ総合学科の高校として開校。 ◎開校以来、県内広い範囲から入学者を集め、募集定員を充足できている。 ※校舎増築
◎卒業生の約7割が大学に進学し、湖北地域の中核的普通科高校となっている。 ◎全校生徒が取り組む英語教育（学校設定科目「アクティブイングリッシュ」）を展開。 ※新校舎建築
◎信楽焼の伝統工芸士による授業、県立陶芸の森での実習、地元企業での就業体験等、地域の教育資源や人材を活用した教育を展開している。また、地元の要請に応じて陶器まつりのポスター作成等、地域と連携した取組も行っている。 ◎全国募集で意欲ある生徒が毎年2～5名入学している。 △概ね80人の募集定員を充足できているものの、今後も県内外の中学校へのPR活動などで、信楽高校の魅力をさらに発信していく必要がある。
◎3校とも各学科の特色を生かした地域連携の取組を進めている。地域連携の強化により、地域からの評価も高まり、生徒の自尊感情や自己有用感を高めることにつながっている。 △将来、農業関連に就業しようと入学してくる生徒は3割ほどであり、農業の担い手としての志望者を増やすことが必要。 △学校からは教育内容充実のために施設設備の充実を求める声がある。
◎小学科を統合した電気科は、電気系と情報系の2つの類型を設け、資格取得等の指導の充実を図っている。 △学校からは教育内容充実のために施設設備の充実を求める声がある。
◎全日制併置の夜間定時制として、校務運営の工夫が図られている。2年次から機械類型と電気類型の2つの類型の教育課程としている。 △生徒の学習意欲を喚起するとともに、きめ細かな指導ができるよう工夫し、基礎学力の定着に努める必要がある。

学校	再編内容	ねらい
長浜北星	総合学科に 福祉系列設置	・福祉系列は、進路希望等に応じて上級学校へ進学し、さらに福祉に関する学習を深めることができるようにする。 ・普通・工業・商業・福祉の多様な学びの系列で編成する総合学科高校として教育内容の充実を図る。
長浜北星 (定)	総合学科へ改編	・転編入学や3年での卒業を容易にするなど、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育を推進

【県立高等学校の魅力ある学校づくり】

全ての県立 高等学校		・社会の進展、地域や産業界の要請などを踏まえつつ、生徒自らの興味・関心や進路希望等に応じて、学びたい教科や科目等を学習し、将来の生活や職業に役立つ知識・技能を積極的に学ぶことができるよう、全ての高等学校においてそれぞれの教育目標等に応じた魅力ある学校づくりに取り組みます。(滋賀県立高等学校再編基本計画 (P6))
---------------	--	--

現状と課題

◎福祉系列には、介護福祉国家資格の取得を目指す介護福祉類型と保育や介護の基本を学ぶ生活福祉類型の2つの類型を設置。介護福祉類型は、卒業生のほとんどが介護福祉士の国家資格に合格。生活福祉類型は児童福祉や幼児教育分野への進学を目指す生徒が多い。

△福祉人材育成について、福祉系列は一定役割を果たしており、今後もそのニーズはなくなるわけではないため、引き続きその役割を担っていく必要がある。

※実習棟新築

◎教育課程上の工夫により、一定数の生徒が3年間で卒業。

△今後も、学校生活を充実させる活動や、外国籍の生徒への日本語指導等の取組がさらに必要となる。

- ・92%の学校が、魅力と活力ある学校づくりが進んでいると回答（令和2年1月調査）
- ・「地域との連携」が進んだと回答している学校が最も多く、次いで「授業の工夫」、「大学や企業との連携」と回答した学校が多い。
- ・農業学科、工業学科、商業学科では全ての学校が「地域との連携」が進んだと回答
- ・普通科では、「授業の工夫」が進んだと回答した学校が最も多い。
- ・「授業の工夫」が進んだとの回答は、卒業生の10%以上が現役で国公立大学に進学する普通科高等学校で割合が高いが、卒業生の20%以上が就職する普通科高等学校との差は6ポイント
- ・10%以上が現役で国公立大学に進学する普通科高等学校は、「進路指導における実績」が進んだと回答している学校が多く、卒業生の20%以上が就職する普通科高等学校は、「地域との連携」が進んだと回答している学校が多い。
- ・上記以外の普通科高等学校では、「大学や企業との連携」「地域との連携」が進んだとの回答が多く、授業だけでなく、地域や大学、企業との連携も学校の魅力づくりの柱の一つになっている。
- ・1学年の学級規模が3学級あるいは4学級の普通科高等学校では、「授業の工夫」「地域との連携」が進んだとの回答が多い。1学年3学級を学校の努力で4クラス展開して全ての授業で少人数授業ができるよう工夫している学校もある。また、「部活の取組」が進んだとの回答も多く、小規模な学校であるが、体育コースや部活動を特色としてアピールしている学校が多い。

【県立中高一貫教育校設置について】

1. 再編計画（H24.12 策定）の記載

再編基本計画

「新たな中高一貫教育校を設置することは、地域の中学校の学級編成などに及ぼす影響も大きいと考えられることから、当面は既設3校としながら、再編による生徒の動向を見据えつつ検討を行っていきます。」

再編実施計画

「中高一貫教育校については、新校の運営実績等を見定めた上で、新校設置後5年を目途に新校に設置します。」

※ 新校：長浜北高校

2. 設置状況

現在、長浜北高等学校へ中高一貫教育校の設置はしていない。

3. 長浜北高等学校の運営実績等

(1) 卒業後の進路状況

- 卒業生の約7割が大学進学し、湖北地域の中核的な普通科校として一定の成果は出ている。

＜卒業後の進路状況＞ (人)

卒業年	卒業生	大学	短大	専門学校等	就職	その他
H31.3	314 100.0%	201(20) 64.0%	18 5.7%	72 22.9%	7 2.2%	16 5.1%
R 2.3	309 100.0%	221(12) 71.5%	19 6.1%	63 20.4%	2 0.6%	4 1.3%

※()内は国公立大学への進学者数を表す。

(2) 入学者の状況

- 湖北地域最大規模の普通科高校として概ね定員充足できているものの、入学者の大半は長浜市を中心とした湖北地域が占めている。

＜5年間の入学者の中学校等所在地＞						(人)
入学年度	湖北地域			湖東地域	その他	計
		長浜市	米原市			
H28						
（	1,458	1,179	279	38	19	1,515
R2	96.2%	77.8%	18.4%	2.5%	1.3%	100.0%

(3) 湖北地域の児童生徒数

- 今後の湖北地域の小中学校の児童生徒数は減少傾向となっている。

＜湖北地域の小中学校等の生徒数＞ (人)

	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1
生徒数	1,526	1,454	1,495	1,449	1,422	1,421	1,407	1,438	1,360
前年差	▲ 72	▲ 72	▲ 41	▲ 46	▲ 27	▲ 1	▲ 14	31	▲ 78
中3との差		▲ 72	▲ 31	▲ 77	▲ 104	▲ 105	▲ 119	▲ 88	▲ 166

※R1.5.1現在における生徒数（義務教育学校の生徒数を含む）

参考 ＜湖北地域の公立中学校等の1学年生徒数＞

生徒数（R2 中学3年）	～49人	50～99人	100～149人	150人～
中学校数	8校	6校	3校	2校

⇒ 長浜北高等学校は湖北地域からの入学者がほとんどであること、湖北地域の小中学校等の児童生徒数は減少傾向にあることを鑑みると、地域の中学校に影響を及ぼすものと考えられ、現在、長浜北高等学校に中高一貫教育校を設置していない。

【信楽高等学校について】

1. 再編実施計画（H24.12 策定）

「通学上の配慮が必要な地域において、多様な学びの機会を確保し、生徒の進路希望等に応じた教育を行うため、信楽高等学校を普通・セラミック・デザインの3系列を持つ総合学科へ改編します。また、地場産業等の地域の教育資源を活用した教育活動の展開や近隣校との連携、県外からも生徒を受け入れることで、学校活力の維持向上等を目指します。こうした改編を行った後、5年を目途に検証を行い、その評価を踏まえて必要な対応を検討します。」と記載

※ H29年3月：1期生卒業

2. 地域の支援について

- 甲賀市設立の産学連携組織「信楽高等学校地域支援協議会」を中心に、信楽高校の活性化のための具体的支援策や全国募集に向けた取組を実施（財源は、甲賀市からの補助金等を活用）

3. 全国募集について

- 「信楽地域の伝統産業に関わるセラミックやデザインに強い興味・関心があり、将来に対する目的意識が明確な者」（入学者選抜要項選抜）を、5名を限度に全国募集を実施

4. 成果と課題

- 2学級の総合学科に改編し、学校の努力や信楽高等学校地域支援協議会のサポートから概ね80人の募集定員は充足し、地域の協力を得た教育活動は実施できている。
- 全国募集で入学した生徒も、セラミック、デザインに興味をもって入学し、意欲的に信楽焼に関する学習に取り組んでおり、進路先として、芸術系の大学等に進学している。
- 今後の生徒数推移から80人の募集が厳しい状況が見込まれるため、より一層、魅力化を図っていく必要がある。

<入学者選抜の状況>

（人）

入学年度	推薦選抜	全国募集	一般選抜	二次選抜	入学者計
H26	31/32→31	5/ 5→ 5	46/44→44	—	80（充足）
H27	28/32→28	4/ 5→ 4	55/48→48	—	80（充足）
H28	29/32→29	4/ 5→ 4	42/47→42	8/ 5→ 5	80（充足）
H29	24/32→24	2/ 5→ 2	31/54→31	2/23→ 2	59（▲21）
H30	32/32→32	2/ 5→ 2	49/46→46	—	80（充足）
H31	19/32→19	2/ 5→ 2	37/59→37	7/22→ 7	65（▲15）
R 2	23/32→23	5/ 5→ 5	45/52→45	0/ 7→ 0	73（▲ 7）

（受検者数/定員→入学者数）

【全県立高校の学校規模推移】

再編前

【平成24年度】 5学級以下 21校								
学級	校数	大津地域	湖南地域	甲賀地域	湖東地域	湖北地域	湖西地域	
11	1	1 膳所						
10	1	1 東大津						
9	1	1 石山						
8	3	1 大津	1 草津東		1 彦根東			
7	5	2 瀬田工業 大津商業	2 玉川 栗東		1 八幡			
6	14	1 北大津	3 草津 守山 国際情報	3 水口 甲西 水口東	4 河瀬 八日市 彦根工業 八幡工業	1 米原	2 高島 安曇川	
5	9	1 堅田	2 守山北 野洲		2 彦根翔陽 八幡商業	4 長浜 長浜北 虎姫 長浜北星		
4	8		1 湖南農業	1 石部	3 彦根西 能登川 日野	3 伊吹 伊香 長浜農業		
3	4			2 甲南 信楽	2 愛知 八日市南			
262	46	8校	9校	6校	13校	8校	2校	
平均	→ 5.7	7.9	6.0	4.7	5.2	4.8	6.0	
学級数								

再編後

【平成28年度】 5学級以下 16校								
学級	校数	大津地域	湖南地域	甲賀地域	湖東地域	湖北地域	湖西地域	
11	1	1 膳所						
10	2	2 東大津 石山						
9	2		1 草津東		1 彦根翔西館			
8	5	1 大津	1 玉川		2 彦根東 八日市	1 長浜北		
7	5	2 瀬田工業 大津商業	1 守山	1 甲西	1 八幡			
6	13		3 草津 栗東 国際情報	2 水口 水口東	4 河瀬 彦根工業 八幡工業 八幡商業	3 米原 虎姫 長浜北星	1 高島	
5	3	2 堅田 北大津					1 安曇川	
4	5		3 湖南農業 守山北 野洲		1 日野	1 伊吹		
3	7			2 甲南 石部	3 能登川 愛知 八日市南	2 伊香 長浜農業		
2	1			1 信楽				
260	44	8校	9校	6校	12校	7校	2校	
平均	→ 5.9	7.9	6.0	4.5	5.8	5.1	5.5	
学級数								

【令和2年度】 5学級以下 23校								
学級	校数	大津地域	湖南地域	甲賀地域	湖東地域	湖北地域	湖西地域	
11	0							
10	1	1 膳所						
9	3	2 東大津 石山	1 草津東					
8	4	1 大津	1 玉川		2 彦根東 彦根翔西館			
7	6	2 瀬田工業 大津商業	1 守山		2 八日市 八幡	1 長浜北		
6	7		2 草津 国際情報	2 水口 甲西	2 彦根工業 八幡商業	1 米原		
5	9	1 堅田	2 栗東 守山北 野洲	1 水口東	2 河瀬 八幡工業	2 虎姫 長浜北星	1 高島	
4	6	1 北大津	2 湖南農業		1 日野	1 伊吹	1 安曇川	
3	7			2 石部 甲南	3 能登川 愛知 八日市南	2 伊香 長浜農業		
2	1			1 信楽				
245	44	8校	9校	6校	12校	7校	2校	
平均	→ 5.6	7.4	6.0	4.2	5.4	4.7	4.5	
学級数								

(滋賀県立高等学校再編基本計画 P8)

ア 標準とする学校規模

高等学校全日制課程の学校規模については、県立学校のあり方検討委員会の報告を踏まえ、多様な科目の開設など幅広い教育課程の編成、生徒が切磋琢磨する機会の確保、学校行事・部活動など集団活動の円滑な実施など様々な要素を勘案して、1 学年あたり概ね 6 学級から 8 学級を標準とします。

イ 学校の統合等

現在、通学区域が全県一区制のもとであっても、普通科で 8 割程度の中学生在が地域の高等学校に進学する状況にあることなどから、地域ごとの生徒数の推移を見据えつつ、標準を下回る規模の学校が多くを占める地域において、学校の配置バランス、学科の特性、地理的条件などの地域性、学びの多様性の確保等を考慮しながら、学校の統合等を行い、地域全体の学校活力の維持向上を図ります。

(平成 24 年度 12 月定例会議 教育長答弁)

Q 学校規模においては、今後どのように考えていくのか、高校再編計画の全体像としての目的到達点について、伺う。

A 次に、2 点目の学校規模の全体像としての目的到達点についてのご質問でございますが、学校規模については、概ね 1 学年 6 学級から 8 学級を標準としていますが、これはあくまで標準であり、地域や学科の特性等を踏まえ、必ずしも例外なく 6 学級から 8 学級でなければならないと考えているものではありません。

高校再編の目的到達点は、先ほども申し上げましたとおり、社会の変化に対応できる教育課程を充実するとともに、生徒が自らの興味・関心、進路希望等に応じた学習ができたり、学校行事や部活動などの取組を活発に行うことができるなど、県内のどの地域においても、本当に行きたいと思える高校を、生徒が主体的に選択できる状況を創り出すことにあります。

従って、その到達点につきましては、そのときそのときの状況や社会の変化に対応しながら学校規模も含め、子どもたちにとって最もよい教育環境を整備するということであり、10 年という基本計画の期間を設定しているものの、不断に見直しながら、常によりよいものになるようにすべきものと考えております。

こうしたことを踏まえながら、現時点においては、この高校再編計画を早期に策定し、その推進に全力を傾注してまいりたいと考えております。

3 再編実施計画の「再編の具体的な方策」の実施状況

3-1 新しいタイプの学校の設置

能登川高校の改編（H26全日制・定時制併置の総合単位制高校設置）

◇全日制課程普通科を学年制から単位制にするとともに、新たに定時制課程（単位制）普通科を設置し、全日制・定時制併置の総合単位制高等学校とする。

（1 学年 全日制 3 学級 定時制昼間部 1 学級 定時制夜間部 1 学級）

<ねらい>生徒の多様な学習のニーズに対応した柔軟な学びのシステムにより、生徒の主体的な科目選択による学習や、様々な学習歴を持つ生徒の「学びあい」を通して、互いの人間性を高め、自己実現に向けて挑んでいく意欲をはぐくむ教育の推進を図る。

【全日制入学者】

	定員	大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	県外等	計
H26	120				119			1	120
H27	120				120				120
H28	120		3		116			1	120
H29	120		5		110				115
H30	120	1	6	1	110	2			120
R1	120	1	4		114	1			120
R2	120		7		112	1			120

【定時制昼間部入学者】

	定員	大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	県外等	計
H26	40	1	2	1	27	5		3	39
H27	40		5		29	2		4	40
H28	40		1	1	35	2		1	40
H29	40		6		29	4		1	40
H30	40		5		33	1		1	40
R1	40		7		29	3		1	40
R2	40		7	2	25	4		1	39

【定時制夜間部入学者】

	定員	大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	県外等	計
H26	40	1	3	1	28			5	38
H27	40		3		30			4	37
H28	40		3		28			4	35
H29	40		2		20	2		2	26
H30	40		1		18			2	21
R1	40		1		20			1	22
R2	40		2		9	1		2	14

【学校の主な取組】

- ・全日制課程は1 学年 3 学級 120 人を 30 人の 4 学級展開、定時制課程は 20 人の少人数授業による丁寧な学習指導を実施している。
- ・定時制課程昼間部は、午前（10:55～）の始業とし、全日制課程の開講科目の併修も受けられる教育課程としている。
（3 年次の「選択科目（2 単位）」（社会演習・数学 B・音楽鍵盤・フードデザイン 劇表現・映像と表現・国際理解）
- ・全日制課程と定時制課程昼間部は行事や一部の部活動を合同で実施し交流を図っている。
- ・高大連携講座や高卒程度認定試験の合格科目の単位認定している。

◎成果 1

- ・全日制課程は、総合単位制として生徒の進路希望に対応した選択科目を多く設定しており、生徒のニーズに合わせた少人数指導ができ、中途退学する生徒が減るなど、落ち着いた学びができています。

◎成果 2

- ・定時制課程は、中学校で不登校を経験した生徒（昼間部 30 人、夜間部 20 人程度入学）であっても、少人数授業など丁寧な学習指導により落ち着いた学校生活を過ごし、入学後に不登校傾向が改善できている。特に、定時制課程昼間部は、中学校の進路指導での新たなニーズとして、能登川駅に近接する利便性の良い立地であることもあり、湖東地域だけでなく湖南地域や湖北地域の中学校からの入学者が多くなっている。

△課題 1

- ・全日制と定時制昼間部の間では、共通して履修できる選択科目の設置や行事の共同開催の取組があるが、定時制夜間部は単独扱いになる傾向がある。

3-2 統合による新しい学校の設置

学校規模が小規模化していた湖北地域、湖東地域で統合を実施した。統合前の準備は両校とも統合準備室を開設し、教育方針の策定、教育課程、校名、校歌などに係る事務を行った。統合移行期の2年間は、授業は違っても文化祭などの行事や部活動を通して、それぞれの学校が特色を活かしながら高め合うように学校運営し、3校の生徒が打ち解け、切磋琢磨する学校生活となった。

彦根翔西館高校設置（H28彦根西高校と彦根翔陽高校の統合）

◇彦根西高校（普通科・家庭学科）と彦根翔陽高校（総合学科）を統合し、普通・商業・家庭の系列で編成する総合学科高校を設置する。（1 学年 9 学級）

<ねらい> 自己実現に向けて主体的な学習を促す多様な学びの充実を図るとともに、多様な生徒集団のもと、人間関係形成能力や社会性の育成を目指す教育を推進する。

【入学者】

	定員	大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	県外等	計
H28	360	0	6	1	319	31	0	3	360
H29	360	0	12	3	310	34	0	1	360
H30	360	0	8	1	307	44	0	0	360
R1	320	0	5	1	286	26	1	1	320
R2	320	0	10	0	267	42	0	1	320

【学校の主な取組】

- ・5つの系列（探究、スポーツ科学、家庭科学、会計ビジネス、情報システム）の総合学科として開校し、生徒一人ひとりの進路に応じたきめ細かな授業を行い、生徒は大学進学や資格取得などを目指して学習している。
- ・スポーツ科学系列では、旧彦根西高校の体育施設も活用した体育学科並みの実技授業がある教育課程としている。

◎成果 1

- ・統合前の4学級、5学級から学校規模が大きくなり、生徒数、教員数も増え、部活動で全国大会、近畿大会に多数出場するなど学校活力は向上している。
- ・開校後、常に募集定員を充足できており、湖南地域など広い範囲からの入学者がある。

◎成果 2

- ・新設のスポーツ科学系列は40名程の選択者がおり、競技力の向上やスポーツ系大学への進学などの生徒のニーズに対応している。

△課題 1

- ・今後5つの系列の魅力化をさらに進めるため、新しい教育内容の検討や施設設備の充実が必要となる。

(新校)長浜北高校設置 (H28 長浜高校と長浜北高校の統合 H30 校舎移転)

◇長浜高校(普通科・福祉学科)と長浜北高校(普通科)を統合し、普通科単独校を設置(福祉学科は廃止し長浜北星高校総合学科に福祉系列を設置)する。(1学年8学級)

<ねらい>湖北地域の既存の普通科単独校と並び立つ中核的な普通科単独校を設置する。グローバル社会に生きる国際人を育成するための英語教育を展開する。

【入学者】

	定員	大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	県外等	計
H28	320	0	1	0	5	311	2	1	320
H29	320	0	0	0	5	313	0	1	319
H30	320	0	0	0	11	300	3	2	316
R1	280	0	1	0	6	270	1	2	280
R2	280	0	0	0	11	264	4	1	280

【学校の主な取組】

- ・地域の中核となる普通科高校を目指し、英語教育では、全ての生徒に週2時間、ALTを活用した少人数形式の授業「アクティブ・イングリッシュ」があり、生徒は英語で考え、英語を使ってコミュニケーションし意欲的に学習している。
- ・平成28年度から県下初の県立高校のコミュニティ・スクールに指定し、地域や社会に学ぶ実践活動などを実施し、生徒が多様な人との出会いを通じて地域貢献の意識を高めている。

◎成果 1

- ・湖北地域で最大規模の学校で、新校舎のデザインや快適な学校生活の魅力、英語教育やコミュニティ・スクールの特色等が中学生に浸透し、概ね募集定員を充足できている。部活動加入率(約85%)も高く、生徒の満足度は高い。

◎成果 2

- ・卒業後の進路状況として、約7割が4年制大学に進学(R2.3卒309人中221人、H31.3卒314人中201人)しており、虎姫高校と同様に湖北地域の中核的な普通科単独校となっている。

3-3 地域に根ざした学校づくり

信楽高校の学科改編（H26普通科、セラミック科、デザイン科を総合学科に改編）

◇普通・セラミック・デザインの3系列からなる総合学科（2学級）に改編する。セラミックやデザインの学習を特色として県外から入学生を募集（5人限度）する。

<ねらい>選択科目の設定の工夫により多様な学びを提供し、生徒の進路希望等に応じた教育を行う。地場産業関係者、地元陶芸家、大学、県機関、地域の有識者等の協力・連携によって、地場産業である信楽焼を中心とした地域の教育資源を活用した学習等を取り入れた魅力ある学習活動を展開し、学校活力の向上を図る。

※改編後、5年を目途に検証を行い、その評価を踏まえて必要な対応を検討するとされている。

【入学者選抜の状況】

入学年度	推薦選抜	全国募集	一般選抜	二次選抜	入学者計
H26	31/32→31	5/ 5→ 5	46/44→44	—	80（充足）
H27	28/32→28	4/ 5→ 4	55/48→48	—	80（充足）
H28	29/32→29	4/ 5→ 4	42/47→42	8/ 5→ 5	80（充足）
H29	24/32→24	2/ 5→ 2	31/54→31	2/23→ 2	59（▲21）
H30	32/32→32	2/ 5→ 2	46/49→46	—	80（充足）
R1	19/32→19	2/ 5→ 2	37/59→37	7/22→ 7	65（▲15）
R2	23/32→23	5/ 5→ 5	45/52→45	0/ 7→ 0	73（▲ 7）

【学校の主な取組】

- ・信楽焼の伝統工芸士による授業、県立陶芸の森での実習、地元企業への就業体験、成安造形大学の出前授業など、地域の教育資源や人材を活用している。
- ・セラミック、デザイン系列の生徒は、地元の要請に応え陶器まつりのポスター作成、商品開発など、地域と連携した取組を行っている。
- ・全国募集（上限5人）を実施し、セラミック、デザインに興味をもつ生徒を受け入れている。卒業した生徒の半数以上が芸術系の大学や専門学校に進学している。生活面は、信楽高校地域支援協議会が宿舎支援等のサポートをしている。

◎成果1

- ・県下最小規模の1学年2学級の学校であるものの、信楽焼を中心とした地域の教育資源を活用した学校運営により、セラミック、デザインを学ぶ信楽高校の伝統が継承できている。

◎成果2

- ・全国募集で意欲ある生徒が毎年2～5人入学しており、卒業後、滋賀大学等でさらにデザイン等を学ぶ者も出ている。

◎成果3

- ・中学校で不登校の経験のある生徒や特別な支援を要する生徒も多い中、少人数の生徒、教員が力を合わせて、生き生きとした学校生活ができている。

△課題1

- ・概ね80人の募集定員を充足できているものの、今後も県内外の中学校へのPR活動などで、信楽高校の魅力をさらに発信していく必要がある。

3-4 職業系専門学科の改編等

農業学科小学科改編（H26長浜農業高校・湖南農業高校・八日市南高校学科改編）

- ◇長浜農業 生物活用・ガーデン・食品科学・環境デザイン各1学級→農業2・園芸1・食品1
 - ◇湖南農業 農業技術・園芸工学・食品化学・環境緑地各1学級→農業2・花緑1・食品1
 - ◇八日市南 農業技術・食品流通・緑地デザイン各1学級→農業1・食品1・花緑デザイン1
- <ねらい>中学生から見て分かりやすい学科体系や名称に変更するとともに、地域の特色を生かしつつ、消費者や需要者のニーズにあった農業の展開、経営の多角化、大規模経営などの学習内容の充実を通して、将来の本県農業の担い手としての資質と能力を育成する。

工業学科小学科改編（H26 瀬田工業高校・彦根工業高校・八幡工業高校学科改編および集約）

- ◇瀬田工業 機械3学級・電気1・情報電子2・化学工業1→機械3・電気3・化学工業1
 - ◇彦根工業 機械2・電気1・情報技術1・建設1・環境化学1→機械3・電気2・建設1
 - ◇八幡工業 機械2・電気1・情報電子1・建築1・環境化学1→機械2・電気3・環境化学1
- ※ 集約 彦根工業建設科 + 八幡工業建築科 → 彦根工業建設科
彦根工業環境化学科 + 八幡工業環境化学科 → 八幡工業環境化学科
- <ねらい>細分化された電気系と情報系の小学科を統合し、中学生から見て分かりやすい学科体系や名称に整理するとともに、知識や技能の高度化に対応できる基礎的・基本的な学力の確実な習得を図り、多様な工業分野で活躍できる資質と能力を育成する。また、特色ある学校づくりの推進や化学系小学科と建設系小学科を設置する学校の見直し等により、専門学科としての教育内容の充実を図る。

◎成果

<農業>

- ・3校とも各学科の特色を生かした地域連携の取組を進め、実習を通したキャリア教育が魅力となり、概ね定員充足できている。
- ・地域連携の強化により、地域からの評価も高まり、生徒の自尊感情や自己有用感を高めることにつながっている。

<工業>

- ・小学科を統合した電気科は、電気系と情報系の2つの類型の教育課程を設け、資格取得等の指導の充実を図っている。

△課題

- ・将来、農業関連に就業しようと入学してくる生徒は3割ほどであり、農業の担い手としての志望者を増やすことが必要。
- ・農業学科、工業学科ともに、教員の工夫した指導や丁寧な進路指導により、生徒の進路実現に取り組んでいるものの、学校からは、さらなる魅力化を図るために、施設設備の整備を求める声がある。

瀬田工業高等学校と瀬田高等学校の統合

- ◇同一敷地内に設置されている瀬田工業高校（全日制）と瀬田高校（定時制）を統合する。併せて、定時制課程の機械科と電気科を生徒の志望の実態に応じ、機械・電気科とする。
- <ねらい>全日制・定時制を併置した工業学科として、両校が持つノウハウの蓄積や施設・設備を有効に活用し、専門学科としての教育内容の充実を図る。

◎成果

- ・瀬田工業高校全日制と併置の夜間定時制として学校行事の配置や地域連携等の工夫が図られている。2年次から機械類型と電気類型の2つの類型の教育課程とし、職場見学や卒業生を招いた説明会実施するなどきめ細かな指導により進路実現につながっている。

△課題

- ・今後も、勤労の定着を図る指導改善に取り組み、電気工事士の資格取得など、生徒の学びをより一層支援していく必要がある。

3-5 総合学科の充実

長浜北星高校総合学科福祉系列を設置（H26系列追加）

◇全日制総合学科に福祉系列を設置する。

平成26年度長浜高校福祉学科を募集停止

平成28年度長浜高等養護学校を長浜北星高校校地に移転（長浜北星高等養護学校）

＜ねらい＞介護福祉士の国家試験合格を目指すことを重視してきた福祉科教育のあり方を見直し、基礎的・基本的な学習に重点を置き、生徒の進路希望等に応じて上級学校へ進学し、さらに福祉に関する学習を深めることができる形に改める。併せて、総合学科の柔軟な教育課程の中に福祉に関する専門教育を取り込み、生徒の多様なニーズに対応した学習の機会を確保するため、福祉学科を総合学科の系列に改編する。普通・工業・商業・福祉の多様な学びの系列で編成する総合学科高校として、教育内容の充実を図る。

◎成果

・福祉系列には、介護福祉国家資格の取得を目指す介護福祉類型と保育や介護の基本を学ぶ生活福祉類型の2つの類型を設置し、生徒のニーズに対応している。

系列人数 H26 23人 H27 26人 H28 16人 H29 25人 H30 18人 H31 17人

・介護福祉類型は、目的意識の高い生徒が選択しており、夏季休業中の実習や地域の福祉施設での実習を通して、毎年、ほとんどの生徒が介護福祉士の国家試験に合格している。

・生活福祉類型は、1、2年次に福祉の基礎を学び、3年次に保育実習を実施しており、児童福祉や幼児教育分野へ進学できている。

△課題

・福祉人材育成について、福祉系列は一定役割を果たしており、今後もそのニーズはなくなるわけではないため、引き続きその役割を担っていく必要がある。

3-6 定時制課程の見直し

長浜北星高校定時制課程の学科改編（H26 商業科を総合学科に改編）

◇長浜北星高校の定時制課程を学年制の商業学科から単位制の総合学科へ改編する。

（定時制 1学年1学級）

＜ねらい＞普通、商業の系列で編成する総合学科へ改編することにより、転編入学や3年での卒業を容易にするなど、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育を推進する。

彦根東高校定時制課程の廃止（H26 募集停止）

◇普通科の総合単位制高校を湖東地域に設置（能登川高校）することに伴い、彦根東高校の定時制課程（普通科）を廃止する。

◎成果

・4年間の学びである定時制課程において、長浜北星高校、能登川高校では3年間で卒業できる教育課程上の工夫により、一定数の生徒が3年間で卒業できている。

長浜北星高校定時制課程：総合学科に改編し定通併修、技能審査等の単位認定制度設定

能登川高校定時制課程：全日制課程との併修、午前授業の実施

△課題

・今後も、学校生活を充実させる活動や、外国籍の生徒への日本語指導等の取組がさらに必要となる。

3-7 その他教育内容の充実等

○理数や英語教育の充実と大学等との連携強化

理数教育先進校との学校間連携、しがグローバル人材育成事業による英語教育の推進、県内 10 大学や京都大学との連携を実施により、生徒の学習意欲の向上や教員の指導力の向上を図っている。

○地域資源を活かした教育活動の推進

地場産業や地元の人材など地域資源を活かした教育活動を実施し、取組を広報するなど学校の魅力づくりを図っている。

○ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進

特別な支援を要する生徒への支援を行うスタッフの配置、巡回チームや巡回相談員による校内研修で特別支援教育に対する理解を推進している。また、平成 30 年度より、高等学校における通級による指導を愛知高等学校に導入した。

○教職員研修の充実

総合教育センターでの研修や、各学校での授業公開、校内研修において教職員の資質向上が図られている。

【理数教育先進校】

※ SSH（スーパーサイエンスハイスクール）・・・将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する学校として文部科学省が指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を行う取組。現在、膳所高等学校・彦根東高等学校・虎姫高等学校が指定されている。

- (1) 彦根東高等学校 (H16～H18、H19～H23、H24～H28、H29～R3 4 期目)
科学技術人材育成重点校 (H24～26)
- (2) 膳所高等学校 (H18～H22、H23～H27、H28～R2 3 期目)
科学技術人材育成重点校 (H22～H25、H26～H27、H30～R2)
- (3) 虎姫高等学校 (H24～H28、H29～R3 2 期目)

※ 理数科

- (1) 米原高等学校理数科 (S45～)
- (2) 膳所高等学校理数科 (H9～)

【京都大学との連携】

滋賀県教育委員会と京都大学は、大学および高等学校における教育の課題に対して連携し必要な対応を行うことにより教育・研究の充実、発展に資するため、平成 25 年 5 月 9 日に連携協定を締結した。令和元年度は連携指定校の生徒対象に、京都大学で特別講義とパネルディスカッションを実施した。

連携指定校：膳所高校、東大津高校、石山高校、彦根東高校、河瀬高校、虎姫高校
守山高校、水口東高校、安曇川高校、八日市高校、米原高校（11 校）

【しがグローバル人材育成事業による英語教育の推進】

グローバル化に対応した人材の育成を強化するため、本事業内に「教員研修部門」として英語教員ステップアップ事業、「授業改善部門」に英語発信力育成事業、そして「発展的取組部門」に高校生グローバルチャレンジプログラム等を設け、生徒の英語力および英語科教員の指導力の向上を図っている。全県的な取組で指定校は設けていない。

4 各地域の再編の実施状況

○大津地域（大津市）

- ・瀬田工業高校（全日制）と瀬田高校（定時制）を統合し、全日制課程工業学科の小学科を改編し、専門学科としての教育内容の充実を図っている。
- ・理数教育先進校を中心とした理数教育の一層の充実や新しい英語教育の取組の推進など、各学校の更なる魅力づくりを図り、地域全体の教育力の向上を目指している。

○湖南地域（草津市、守山市、栗東市、野洲市）

- ・湖南農業高校農業学科の小学科を改編し、都市近郊型農業を特色として、消費者や需要者のニーズにあった農業の学習を通して、本県農業を担う資質と能力を育成している。
- ・理数教育先進校と連携した理数教育の一層の充実や新しい英語教育の取組の推進など、各学校の更なる魅力づくりを図り、地域全体の教育力の向上を目指している。

○甲賀地域（甲賀市、湖南市）

- ・信楽高校を総合学科へ改編し、多様な学びの機会を確保し生徒の進路希望等に応じた教育を行っている。また、地場産業等の地域の教育資源を活用した教育活動の展開や全国募集により県外の生徒を受け入れ、学校活力の維持向上等を図っている。
- ・新しい英語教育の取組の推進など、各学校の更なる魅力づくりを図り、地域全体の教育力の向上を目指している。

○湖東地域（彦根市、近江八幡市、東近江市、蒲生郡、愛知郡、犬上郡）

- ・能登川高校に柔軟な学びのシステムを特色とする全日制・定時制併置の総合単位制高校を設置した。これに伴い、彦根東高等学校の定時制を廃止した。
- ・彦根翔西館高校を学校統合により開校し、5つの系列からなる総合学科として、学校の教育力の向上と湖東地域全体の学校活力の維持向上を図っている。
- ・八日市南高校農業学科の小学科を改編し、消費者や需要者のニーズにあった農業の展開や経営の多角化（6次産業化）、大規模経営などの学習を通して、本県農業の担い手としての資質と能力を育成している。
- ・彦根工業高等学校工業学科と八幡工業高等学校工業学科の小学科を改編するとともに、学校間での小学科の集約を行い、彦根工業高等学校は建設科、八幡工業高等学校は環境化学科を有する工業高校として特色ある学校づくりを進め、専門学科としての教育内容の充実を図っている。
- ・理数教育先進校を中心とした理数教育の一層の充実や新しい英語教育の取組の推進など、各学校の更なる魅力づくりを図り、地域全体の教育力の向上を目指している。

○湖北地域（長浜市、米原市）

- ・（新校）長浜北高校を学校統合により開校し、実践的な英語力を身につける授業、活気ある学校行事や部活動を特色として、学校の教育力の向上と湖北地域全体の学校活力の維持向上を図っている。
- ・長浜農業高校農業学科の小学科を改編し、広大な農場や施設設備を活用した園芸全般を学習する園芸科を特色として、消費者や需要者のニーズにあった農業の学習を通して、本県農業の担い手としての資質と能力を育成している。
- ・長浜北星高校に介護福祉士の国家試験合格を目指す福祉系列を設置し、普通・工業・商業・福祉の多様な系列で編成する総合学科高校として、学習内容の充実を図っている。
- ・長浜北星高校定時制課程について、生徒の多様なニーズに柔軟に対応できるよう、学年制の商業学科から単位制の総合学科へ改編している。
- ・理数教育先進校を中心とした理数教育の一層の充実や新しい英語教育の取組の推進など、各学校の更なる魅力づくりを図り、地域全体の教育力の向上を目指している。
- ・再編実施計画では「（湖北地域）中高一貫教育校については、新校の運営実績等を見定めた上で、新校設置後5年を目途に新校に設置します」としている。

○湖西地域（高島市）

- ・理数教育先進校と連携した理数教育の一層の充実や新しい英語教育の取組の推進など、各学校の更なる魅力づくりを図り、地域全体の教育力の向上を目指している。

※再編計画とは別に、「湖西地域県立高等学校魅力化方針」を策定し、令和3年4月入学生から、安曇川高校では新系列の設置と普通科募集停止、高島高校では新学科「文理探究科」を設置し、魅力化を図る。

5 関係資料

5-1 策定までの経緯

年	月	経緯
H20	7	「県立学校のあり方検討委員会」設置（6回審議）→ H21. 3 報告
H22	9	「第23期滋賀県産業教育審議会」→「職業学科のあり方について」答申
	8～11	「魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けた意見を聴く会」開催（9回）
H23	7	教育委員会において「滋賀県立高等学校再編計画（原案）」決定・公表
	7～8	県民への説明会等の開催（7か所）
	10	県議会の決議「……慎重な検討とともに生徒や県民への説明、理解を十二分に得よう、強く求める。」
	11	教育委員会で計画策定を24年度に延期の方針を確認
H24	5～8	意見を聴く会（彦根市・長浜市・甲賀市 9か所）
	8	「第24期滋賀県産業教育審議会」→「福祉科教育のあり方について」答申
	10	「滋賀県立高等学校再編計画（案）」の公表
	10～11	再編計画（案）説明会の実施（県内12会場）、県民政策コメント
	12	教育委員会において「滋賀県立高等学校再編計画」を議決

5-2 再編対象校の入学者選抜状況

【学力検査確定出願倍率（二次選抜後の定員未充足人数）】

入試年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
能登川(普)	1.00	1.13	1.28	1.11	1.15	0.89(5)	1.22	1.07	1.11
能登川(定昼)	—	—	1.00	1.21	1.15	1.29	1.07	1.20	0.97(1)
能登川(定夜)	—	—	0.78	0.53(3)	0.55(5)	0.58(13)	0.43(18)	0.48(18)	0.38(25)
彦根西(普)	0.92(1)	1.24	1.05	1.09	—	—	—		
彦根西(家)	0.98(1)	1.11	1.13	1.15	—	—	—		
彦根翔陽	1.13	1.02	1.04	1.12	—	—	—		
彦根翔西館	—	—	—	—	1.04	1.10	1.06	1.11	1.18
長浜(普)	1.05	0.99	1.06	0.98(2)	—	—	—		
長浜北	1.03	1.04	1.05	0.97	—	—	—		
(新)長浜北	—	—	—	—	1.03	0.98(2)	0.98(4)	1.03	1.07
信楽(普)	0.59(10)	0.52(12)	—	—	—	—	—		
信楽(工業)	0.62(19)	0.76(12)	—	—	—	—	—		
信楽(総合)	—	—	1.05	1.15	0.94	0.57(21)	1.07	0.63(15)	0.87(7)
湖南農業	1.15	1.23	1.36	1.23	1.26	1.46	1.18	0.98	0.99
八日市南	1.13	1.21	1.11	1.23	1.32	1.09	1.13	0.92	1.25
長浜農業	1.10	1.10	1.05	1.00	1.19	1.15	1.13	1.10	0.98
瀬田工業	1.38	1.18	0.97	1.14	0.99	1.06	1.01	0.95(0)	0.97(4)
彦根工業	1.09	1.21	1.04	1.13	1.11	1.10	0.96(3)	1.08	0.99(2)
八幡工業	1.22	1.14	1.05	1.04	0.97	1.06	0.91(0)	1.03	0.83(14)
長浜(福祉)	0.75(4)	1.00	—	—	—	—	—	—	—
長浜北星	1.06	1.12	1.01	0.97	1.01	0.96	1.05	1.13	1.03
清陵(昼)	0.75(4)	1.23	1.23	1.10	1.00	1.00(2)	0.80(6)	0.98(1)	1.05
清陵(転編)	1.05	0.90	0.78(8)	0.85(6)	0.43(22)	0.63(14)	0.43(22)	0.20(32)	0.40(23)
清陵馬場	0.85(7)	0.98(2)	1.18	0.95	0.83(7)	0.68(16)	0.80(9)	0.60(16)	0.93(4)
瀬田工(夜)	—	—	0.80(2)	0.83	1.05	0.45(22)	0.70(10)	0.58(16)	0.55(18)
瀬田(機械)	0.40(18)	0.48(16)	—	—	—	—	—	—	—
瀬田(電気)	0.43(19)	0.40(20)	—	—	—	—	—	—	—
彦根東(定)	0.50(10)	0.40(8)	—	—	—	—	—	—	—
彦根工業(定)	0.78(3)	0.43(6)	0.35(10)	0.80	0.95(1)	0.80(4)	0.38(24)	0.48(17)	0.25(30)
長浜北星(定)	0.43(15)	0.53(16)	0.45(19)	0.38(22)	0.45(9)	0.43(16)	0.33(28)	0.45(22)	0.45(22)

5-3 再編実施計画の年度別進行状況

	対象校等	平成 25 年度	平成 26 年度
1	彦根翔西館高校 彦根西高校と彦根翔陽高校の統合	開設準備室(H25.1～設置) 彦根統合新校設置懇話会(5回) 校名公募、決定	開設準備室 彦根統合新校設置懇話会(4回) 校章デザイン募集 制服決定 校舎改築工事
2	長浜北高校 長浜高校と長浜北高校の統合	開設準備室(H25.1～設置) 長浜統合新校設置懇話会(5回) 校名公募、決定	開設準備室 長浜統合新校設置懇話会(3回) 制服決定 長浜高校福祉科募集停止
3	能登川高校 全日制・定時制併置 総合単位制高校設置	改編準備委員会設置(校内) 教育課程等決定 リーフレット作成配付 夜間給食業者決定 夜間照明設備整備	単位制に改編(全日制 3 学級) 定時制課程を設置(募集昼間夜間各 1 学級) 改編移行期(定時制 1 年) 校舎改築工事
4	信楽高校 学科改編 全国募集	教育課程等決定 信楽高校地域支援協議会 全国募集受入れ準備 募集要項全国配付	総合学科に改編 全国募集枠推薦選抜導入 信楽高校地域支援協議会 改編移行期(1 年総合学科)
5	長浜農業 湖南農業 八日市南高校 小学科改編	教育課程等決定	3 つの小学科に改編 改編移行期
6	瀬田工業 彦根工業 八幡工業高校 小学科改編	教育課程等決定	3 つに小学科に改編 改編移行期
7	瀬田工業高校 瀬田高校 統合	教育課程等決定	機械・電気科設置(募集 1 学級) 瀬田募集停止 統合移行期(瀬田 2～4 年)
8	長浜北星高校 総合学科に福祉系列を設置	教育課程等決定 介護福祉士養成校変更申請 校舎等改築工事	福祉系列設置 1 期生 1 年 文部科学大臣変更承認 校舎等改築工事
9	長浜北星高校定時制課程 学科改編	教育課程等決定	総合学科改編(募集 1 学級) 商業学科募集停止 改編移行期(商業 2～4 年)
10	彦根東高校定時制課程廃止		定時制募集停止 (2～4 年在籍)

	対象等	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
1	彦根翔西館	開設準備室(～H28.3) 彦根統合新校懇談会(4 回) 校章、校歌、教育課程等決定 リーフレット作成配付 校舎改築工事 彦根西高校の備品移動	彦根翔西館高校開校(募集 9 学級) 開校式(知事、教育長他) 彦根西、彦根翔陽募集停止 統合移行期 校舎改築工事	統合移行期 彦根西、彦根翔陽閉校式 (副知事、教育長) 彦根西高校校舎お別れ会 彦根西高校解体工事説明会 彦根西高校校舎解体、体育館耐震
2	(新校)長浜北	開設準備室(～H28.3) 長浜統合新校懇談会(3 回) 校章、校歌、教育課程等決定 リーフレット作成配付 長浜高校校舎お別れ会 長浜高校解体工事説明会 長浜高校の備品移動	(新校)長浜北高校開校(募集 8 学級) 開校式(知事、教育長他) 長浜、長浜北募集停止 コミュニティ・スクール指定 統合移行期 長浜高校解体 新校舎工事	統合移行期 長浜、長浜北閉校式 (知事、教育次長) 長浜高校校舎解体 新校舎工事 新校舎PR 移転
3	能登川	改編移行期(定時制 1,2 年) 校舎改築工事	改編移行期(定時制 1～3 年) 校舎改築工事	改編完成(定時制 1～4 年)
4	信楽	信楽高校地域支援協議会 改編移行期(1,2 年総合学科)	信楽高校地域支援協議会 改編完成	信楽高校地域支援協議会
5	農業	改編移行期	改編完成	
6	工業	改編移行期	改編完成	
7	瀬田工瀬田	統合移行期(瀬田 3～4 年)	統合移行期(瀬田 4 年) 瀬田高校閉校式	統合完成
8	長浜北星	福祉系列 1 期生 2 年 校舎等改築工事	福祉系列 1 期生卒業 高等養護学校移転、移行式 校舎等改築工事	校舎等改築工事
9	長北星定時制	改編移行期(商業 3～4 年)	改編移行期(商業 4 年)	改編完成
10	彦根東	定時制(3～4 年在籍)	定時制(4 年在籍)閉課程式	

5-4 県立高等学校研究指定一覧表(平成17年度～)

学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2						
膳 所	学力向上フロンティア																					
	学力向上P(発展)																					
	アクティブハイスクール支援事業(A: 知の世紀)																					
	国: スーパーサイエンスハイスクール																					
	確かな自己実現支援事業																					
										県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業						学びの変革推進		学びの変革発展				
堅 田	アクティブハイスクール支援事業(F: 地域に根ざした)																					
											普通科におけるキャリア教育推進事業							次代を担う生徒のキャリア教育推進事業				
											高齢者ふれあい											
東大津	人権教育研究指定校																					
	アクティブハイスクール支援事業(F: 地域に根ざした)																					
	確かな自己実現支援事業																					
											県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業 英語力向上(しが英語力育成P)				学びの変革推進		学びの変革発展					
北大津	豊かな体験活動推進																					
	アクティブハイスクール支援事業(E: 得意分野)																					
											普通科キャリア教育推進		国: 人権教育研究指定校				未来の担い手					
大 津	アクティブハイスクール支援事業(H: 確かな学力)																					
	国: 道徳教育総合支援事業(道徳教育の抜本的・充実に係る支援事業)																					
											金融教育研究指定校						学びの変革推進		学びの変革発展			
																					地域との協働(アソ)	
																					未来の担い手	
石 山	アクティブハイスクール支援事業(C: 感情を豊かに)																					
											SSH連携校											
											確かな自己実現支援事業											
											県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業											
															学びの変革推進		学びの変革発展					
																未来の担い手						
瀬田工業	キャリア教育実践推進事業																					
	国: 地域産業の担い手育成プロジェクト																					
	アクティブハイスクール支援事業(B: 勤労観・職業人)																					
											職の担い手育成事業											
											確かな自己実現支援事業											
											国: 武道等指導充実											
											専門高校プロフェッショナル人材育成事業				高等学校産業人材育成プロジェクト							
															国: 環境のための地球学習観測プログラム推進事業							
															コミュニティスクール							

学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2		
大津商業	学力向上フロンティア																	
	学力向上P(産業)																	
	アクティブハイスchool支援事業(B:勤労観・職業人)										(E:得意分野)							
	金融教育推進事業										職の担い手育成事業			専門高校プロフェッショナル人材育成事業		高等学校産業人材育成プロジェクト		
大津清陵				アクティブハイスchool支援事業(D:学び直し)														
馬場分校				アクティブハイスchool支援事業(G:国際社会)														
大津清陵(通称)				アクティブハイスchool支援事業(H:確かな学力)														
瀬田	アクティブハイスchool支援事業(D:学び直し)																	
草津東	アクティブハイスchool支援事業(E:得意分野)																	
											県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業		学びの変革推進		学びの変革発展			
											小中高系統的英語教育							
草津	キャリア教育実践推進事業																	
			国:高等学校におけるキャリア教育のあり方研究			アクティブハイスchool支援事業(H:確かな学力)			確かな自己実現支援事業					しが英語力育成P				
													学びの変革推進		学びの変革発展			
玉川	アクティブハイスchool支援事業(H:確かな学力)																	
	国:学力向上拠点形成事業																	
											県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業		国:学習改善調査研究事業					
													国:武道等指導充実		学びの変革発展			
守山	国:中高一貫教育改善充実研究																	
	国:学力向上フロンティア																	
	学力向上P(発展)																	
	アクティブハイスchool支援事業(A:知の世紀)																	
						SSH連携校												
						県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業					国:スーパーグローバルハイスchool							
										学びの変革推進				学びの変革発展				
														SSH連携校				
守山北	アクティブハイスchool支援事業(F:地域に根ざした)																	
				国:高等学校におけるキャリア教育のあり方研究														
																コミュニティースchool		未来の担い手

学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2					
栗 東	アクティブハイスクール支援事業(C:感性を豊かに)																未来の担 い手				
								国:金融教育研究指定校													
								国:人権教育研究指定校													
野 洲	学力向上P (基礎)	アクティブハイスクール支援事業(E:得意分野)								普通科キャ リア教育		国:金融教育研究指定校					未来の担 い手				
湖南農業	アクティブハイスクール支援事業(B:勤労観・職業人)				デュアルシステム実践推進事業		職の担い手育成事業				しが環境教育リーディング事業		確かな自己実現支援事業		国:キャリア教育・就労支援等 の充実事業			未来の担 い手 コミュニティー スクール			
国際情報	国:SEL Hi	学力向上P (英語)	アクティブハイスクール支援事業(G:国際社会)								金融教育推進事業		学びの変革推進					学びの変革発展	未来の担 い手 コミュニティー スクール		
水 口	アクティブハイスクール支援事業(H:確かな学力)				確かな自己 実現支援		普通科におけるキャリア教育 推進事業			アクティブハイスクール支援事業 (F:地域に根ざした)		県立高等学校キャリア形成支 援事業		次代を担う生徒のキャリア教 育推進事業		しが英語 力育成P 高齢者ふ れあい		小中高系統的英語教育	未来の担 い手		
水口東	国:中高 一貫教	国:国語力向上モデ ル事業	アクティブハイスクール支援事業(E:得意分野)								国:人権教育研究指定校		国:確か な学力		確かな自己実現支 援事業		県立高等学校学力向上・ 評価研究指定		国:スーパースーパーグローバルハイスクールアソシエイト		未来の担 い手 コミュニティー スクール

学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2					
石 部	アクティブハイスクール支援事業(F:地域に根ざした)																				
	国:高等学校におけるキャリア教育のあり方研究										県立高等学校キャリア形成支援事業						未来の担い手				
甲 西	国:学力向上拠点形成事業			アクティブハイスクール支援事業(H:確かな学力)										県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業						コミュニティスクール	未来の担い手
甲 南	高等養護学校																				
	国:みんなの専門学校プロジェクト キャリア教育実践推進事業	B:勤労観・職業人		アクティブハイスクール支援事業(F:地域に根ざした)			職の担い手育成事業				確かな自己実現支援事業						次代を担う生徒のキャリア教育推進事業	高等学校産業人材育成プロジェクト			
信 楽	アクティブハイスクール支援事業(F:地域に根ざした)							アクティブハイスクール支援事業(F:地域に根ざした)									高等学校産業人材育成プロジェクト				
彦根東	学力向上P(発展)	国:スーパーサイエンスハイスクール																			
	アクティブハイスクール支援事業(A:知の世紀)					確かな自己実現支援事業			県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業			学びの变革推進			学びの变革発展						
彦根東(定時)	国:交通安全教	アクティブハイスクール支援事業(D:学び直し)																			
河 瀬	国:中高一貫教	アクティブハイスクール支援事業(G:国際社会)																			
	アクティブハイスクール支援事業(F:地域に根ざした)	国:確かな学力の育成に係る実践的調査研究			確かな自己実現支援事業			県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業			しが英語力育成P			学びの变革推進		学びの变革発展					
河 瀬													小中高系統的英語教育					SSH連携校			
																		コミュニティスクール			
河 瀬																		高大接続ICT			

学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
八 幡		アクティブハイスchool支援事業(H:確かな学力)					国:豊かな体験活動			国:外国語能力強化地域形成事業 アクティブハイスchool支援事業(E:得意分野)						未来の担い手
八日市					国:人権教育研究指定校			アクティブハイスchool支援事業(E:得意分野)		英語力向上 県立高等学校学力向上・評価研究指定				学びの変革推進		学びの変革発展
能登川		アクティブハイスchool支援事業(H:確かな学力)					国:学力向上拠点形成事業				国:武道等指導充実					コミュニティースクール 未来の担い手
愛 知	国:学力向上フロンティア 学力向上P(基礎)		アクティブハイスchool支援事業(H:確かな学力)					職の担い手育成事業		普通科におけるキャリア教育推進事業		国:個々の才能を伸ばす特別支援教育に関する研究開発				コミュニティースクール
八日市南	アクティブハイスchool支援事業(B:勤労観・職業人)			デュアルシステム実践推進事業		職の担い手育成事業		確かな自己実現支援事業		しが環境教育リーディング事業		県立高等学校キャリア形成支援事業		専門高校プロフェッショナル人材育成事業 高齢者ふれあい	高等学校産業人材育成プロジェクト	コミュニティースクール
彦根工業	体力向上実践	国:IT人材育成プロジェクト		国:地域産業の担い手育成プロジェクト		アクティブハイスchool支援事業(B:勤労観・職業人)		職の担い手育成事業		確かな自己実現支援事業		県立高等学校キャリア形成支援事業		専門高校プロフェッショナル人材育成事業	高等学校産業人材育成プロジェクト	国:人権教育研究指定校 コミュニティースクール

学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	
八幡工業	学力向上P (産業)																
	国:キャリア教育推進地域指定事業																
	アクティブハイスクール支援事業(B:勤労観・職業人)																
		国:生きる力を育む読書活動推進事業															
			国:地域産業の担い手育成プロジェクト														
				アクティブハイスクール支援事業													
					国:環境のための地球学習観測プログラム推進事業												
						職の担い手育成事業											
							確かな自己実現支援事業										
								しが環境教育リーディング事業									
											専門高校プロフェッショナル人材育成事業		高等学校産業人材育成プロジェクト				
八幡商業	学力向上P (英語)																
		アクティブハイスクール支援事業(B:勤労観・職業人)						(B:勤労観・職業人)									
		金融教育推進事業															
							確かな自己実現支援事業										
								職の担い手育成事業									
									県立高等学校キャリア形成支援事業								
											国:スーパープロフェッショナルハイスクール						
											専門高校プロフェッショナル人材育成事業		高等学校産業人材育成プロジェクト				
	彦根西		アクティブハイスクール支援事業(H:確かな学力)														
		国:学力向上拠点形成事業															
											高齢者ふれあい						
彦根翔陽	学力向上P (基礎)																
		アクティブハイスクール支援事業															
		アクティブハイスクール支援事業(E:得意分野)															
彦根翔西館													次代を担う生徒のキャリア教育推進事業			未来の担い手	
																国:人権教育研究	
日野	国:豊かな体験活動推進事業																
		国:発達障害支援モデル事業		国:高等学校における特別支援教育の研究開発													
		確かな自己実現支援事業															
														次代を担う生徒のキャリア教育推進事業		未来の担い手	

学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2		
長 浜	高等養護学校																	
	アクティブハイスクール支援事業(F:地域に根ざした)																	
	国:豊かな体験活動推進事業									国:外国語能力強化	英語力向上(しが英語力育成P)							
長浜北	国:学力調査研 学力向上P(発展)																	
	国:学力向上拠点形成事業			アクティブハイスクール支援事業(H:確かな学力)														
							国:外国語能力強化	英語力向上(しが英語力育成P)										
(新校)長浜北												学びの変革推進		学びの変革発展				
												小中高系統的英語教育						
												次代を担う生徒のキャリア教育推進事業			未来の担い手			
											コミュニティースクール							
虎 姫	国:学力向上フロンティア 学力向上P(発展)																	
	アクティブハイスクール支援事業(A:知の世紀)																	
					中高一貫教育研究指定校													
							確かな自己実現支援事業											
					SSH連携校		国:スーパーサイエンスハイスクール											
							県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業											
							県立高等学校キャリア形成支援事業											
							国際バカロレアの導入に向けた調査・研究				バカロレア							
											次代を担う生徒のキャリア教育推進事業			未来の担い手				
											学びの変革推進		学びの変革発展					
伊 香	アクティブハイスクール支援事業(E:得意分野)																	
	国:豊かな体験活動推進事業																	
							普通科におけるキャリア教育推進事業											
											コミュニティースクール							
																	未来の担い手	
伊 吹	アクティブハイスクール支援事業(H:確かな学力)																	
	国:人権教育研究指定校																	
											国:武道等指導充実							
																	未来の担い手	

学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
米 原	学力向上P (英語)															
	アクティブハイスクール支援事業(A: 知の世紀)						確かな自己実現支援事業									
							しが環境教育リーディング事業									
							国:外国語能力強化地域形成事業									
							英語力向上 県立高等学校学力向上・評価研究指				学びの変革推進				学びの変革発展	
														SSH連携校		
長浜農業																
	アクティブハイスクール支援事業(B: 勤労観・職業人)						デュアルシステム実践推進事業									
							職の担い手育成事業									
							確かな自己実現支援事業									
							高齢者ふれあい 専門高校プロフェッショナル人材育成事業				高等学校産業人材育成プロジェクト					
長浜北星																
	アクティブハイスクール支援事業(E: 得意分野)						確かな自己実現支援事業									
							県立高等学校キャリア形成支援事業				高等学校産業人材育成プロジェクト					
長浜北星(定時)																
	国:交通安全教育	アクティブハイスクール支援事業(D: 学び直し)														
高 島																
	アクティブハイスクール支援事業(E: 得意分野)						県立高等学校学力向上・評価研究指定校事業									
							英語力向上(しが英語力育成P)									
							高齢者ふれあい									
											学びの変革推進		学びの変革発展			
											小中高系統的英語教育					
											高大接続ICT					
											SSH連携校					
											国: 地域との協働(グローバル)					
	安曇川	国:国語力向上モデル事業														
		中高一貫教育研究指定校														
				アクティブハイスクール支援事業(A: 知の世紀)												
				SSH連携校						SSH連携校						
				確かな自己実現支援事業												
										県立高等学校キャリア形成支援事業		次代を担う生徒のキャリア教育推進事業				
												高等学校産業人材育成プロジェクト				
												高大接続ICT				

5-5 部活動の状況

「2024滋賀国スポ 強化拠点校」 (競技別)

競 技 名		H29年度指定	H30年度指定	H31年度指定	R2年度指定	指定数
陸上競技	男女	草津東高校				3
		大津商業高校				
		彦根翔西館高校				
水泳	競泳	男女	草津東高校			2
			比叡山高校			
	水球	男子	長浜北星高校			2
サッカー	男子	草津東高校				3
		野洲高校				
		八幡商業高校				
スキー	男女				高島高校	1
テニス	男子	光泉高校				2
	女子			栗東高校		
ボート	男子	瀬田工業高校				4
	女子	大津高校		高島高校		
		八幡商業高校				
ホッケー	男子	伊吹高校				2
	女子	伊吹高校				
ボクシング	男女			能登川高校		1
バレーボール	男子			近江高校		4
				比叡山高校		
	女子			近江兄弟社高校		
体操	体操	男女	栗東高校			2
	新体操	女子		近江兄弟社高校		
バスケットボール	男子	光泉高校				4
			八幡工業高校			
	女子	滋賀短大附属高校				
レスリング	男女	栗東高校				2
		日野高校				
セーリング	男女			膳所高校		1
ウェイトリフティング	男女	安曇川高校				2
		堅田高校				
ハンドボール	男子	近江兄弟社高校				4
	女子		彦根翔西館高校			
		立命館守山高校				
自転車競技	男女			瀬田工業高校		1
ソフトテニス	男子		長浜北高校			4
			立命館守山高校			
	女子		長浜北高校			
卓球	男子			近江兄弟社高校		4
				近江高校		
	女子			滋賀学園高校		
相撲	男子			近江兄弟社高校		1
				長浜北星高校		
柔道	男子		比叡山高校			5
			近江高校			
	女子		伊香高校			
ソフトボール	男子		比叡山高校			3
			伊香高校			
	女子		比叡山高校			
フェンシング	男女	玉川高校				2
バドミントン	男子		石山高校			4
	女子		比叡山高校	彦根翔西館高校		
弓道	男女		滋賀短大附属高校	能登川高校		3
			長浜北高校			
			大津高校			
ライフル射撃	男女		近江兄弟社高校			1
剣道	男子	水口高校				
		草津東高校				4
	女子	八幡工業高校				
ラグビー	男子	草津東高校				3
				比叡山高校		
	女子		八幡工業高校			
カヌー	男女	光泉高校		石山高校		3
		大津高校				
		八幡商業高校				
アーチェリー	男女	八日市南高校				2
		草津東高校				
なぎなた	女子	大津商業高校				1
アイスホッケー	男子			彦根翔西館高校		1
		35	24	21		81

(令和元年度滋賀県高体連年報より)

※馬術は男子の部に記載

※校名変更について [長浜西・長浜商工→長浜北星] [甲賀→水口] [彦根南・彦根商→彦根翔陽] [八日市女→滋賀学園] [信楽工→信楽] [大津西→大津] [大津東→膳所] [八幡中央→八幡商業] [守山女子→立命館守山] [滋賀女子→滋賀短附属]

(令和元年度滋賀県高体連年報より)

※校名変更について

〔長浜西・長浜商工→長浜北星〕〔甲賀→水口〕〔彦根南・彦根商→彦根翔陽〕〔八日市女→滋賀学園〕〔信楽工→信楽〕〔大津西→大津〕〔大津東→膳所〕〔八幡中央→八幡商業〕〔守山女子→立命館守山〕〔滋賀女子→滋賀短附属〕

全国高等学校総合文化祭参加一覧表

No.1

	第39回 平成27年度	第40回 平成28年度	第41回 平成29年度	第42回 平成30年度	第43回 令和元年度
期日	7/28～8/1	7/30～8/3	7/31～8/4	8/7～8/11	7/27～8/1
開催地	滋賀県	広島県	宮城県	長野県	佐賀県
開会行事	県代表 (滋賀総文実行委員) 大津	県代表 (美術・工芸部門) 栗東	県代表 (写真部門) 八日市	県代表 (書道部門) 草津	県代表 (美術・工芸部門) 栗東
バレー ド	雨天中止	立命館守山 25名	立命館守山 25名	立命館守山 25名	立命館守山 25名
合 唱	13校合同 (高島・安曇川・膳所・ 石山・水口東・八日 市・日野・愛知・能 登川・比叡山・近 江兄弟社・幸福の 科学学園関西・MI HO美学院) 145名	10校合同 (高島・安曇川・膳 所・水口東・八日市・ 日野・能登川・比叡 山・近江兄弟社・M IHO美学院) 66名	10校合同 (安曇川・膳所・石 山・水口東・八日市・ 日野・能登川・比叡 山・近江兄弟社・M IHO美学院・幸福 の科学学園) 62名	10校合同 (安曇川・膳所・石 山・水口東・日野・八日市・ 能登川・近江兄弟 社・MIHO美学院・ 比叡山) 74名	12校合同 (安曇川・膳所・石 山・水口東・日野・ 八日市・能登川・愛 知・比叡山・光泉・ 幸福の科学関西・M IHO美学院) 78名
吹奏 楽	23校合同 (八日市・河瀬・彦 根東・愛知・彦根西・ 米原・水口東・石部・ 野洲・守山・立命 館守山・国際情報・ 高島・安曇川・大津・ 草津東・玉川・膳所・ 瀬田工業・北大津・ 比叡山・滋賀短大 附属・幸福の科学 学園関西) 546名	膳所 97名	河瀬 93名	甲西 80名	2校合同 (守山北・石部) 43名
日本 音楽	大津・伊吹・彦根東・ 長浜北星・近江兄 弟社 44名	伊吹 6名	大津 23名	彦根東 15名	伊吹 6名
演 劇	水口東・甲西・守山 33名	甲西 (生徒講評委員) 1名			
マー チング バンド・ バント ワリン グ	大津商業・立命館 守山 59名	立命館守山 22名	立命館守山 15名	立命館守山 10名	立命館守山 14名

全国高等学校総合文化祭参加一覧表

No.2

	第39回 平成27年度	第40回 平成28年度	第41回 平成29年度	第42回 平成30年度	第43回 令和元年度
期日	7/28～8/1	7/30～8/3	7/31～8/4	8/7～8/11	7/27～8/1
美術・工芸	東大津・栗東・信楽・玉川・近江兄弟社 7名	東大津・栗東・彦根東・長浜・玉川・近江兄弟社 10名	東大津・彦根東・膳所・玉川・信楽・立命館守山 6名	栗東・八日市南・膳所・彦根東・信楽 7名	東大津・水口東・栗東・河瀬・立命館守山 7名
書道	八日市・大津・膳所・東大津 4名	伊吹・八日市・膳所・伊吹・草津・大津商業 4名	膳所・伊吹・草津・甲西 4名	大津商業・石山・草津・甲西 4名	石山・東大津・大津商業・比叡山 4名
写真	堅田・膳所・石山・八幡 5名	堅田・膳所・石山・水口東・八幡商業 14名	膳所・石山・八日市・瀬田工業・八幡工業 16名	膳所・石山・八日市・水口東・瀬田工業 18名	膳所・石山・水口東・八幡・八日市 23名
囲碁	彦根東 14名	比叡山・彦根東 5名	膳所・比叡山・彦根東 5名	膳所・彦根東 5名	彦根東 5名
将棋	湖南農業・玉川・立命館守山・河瀬 11名	瀬田工業・光泉・立命館守山・玉川 9名	光泉・玉川・立命館守山・虎姫・湖南農業 10名	立命館守山・玉川・彦根東・虎姫・光泉 10名	立命館守山・光泉・湖南農業・彦根東・綾羽・草津 10名
放送	光泉・草津東・東大津・比叡山・守山 14名	光泉・草津東・河瀬 16名	光泉・草津東・東大津・守山 18名	光泉・河瀬・膳所・東大津・草津東 22名	東大津・草津東・河瀬・光泉・比叡山 18名
新聞	彦根東・甲西・八幡工業・石山 8名	彦根東・甲西・八幡工業・石山 8名	彦根東・虎姫・八幡工業・石山・甲西・八日市 15名	彦根東・虎姫・石山・大津・八幡工業・八日市・甲西 14名	彦根東・虎姫・石山・東大津・八幡工業・八日市・甲西 14名
自然科学	膳所・東大津・河瀬・米原・草津東・彦根東・堅田・虎姫・立命館守山・八幡工業・八日市・日野 24名	膳所・河瀬・米原・彦根東・虎姫 10名	膳所・河瀬・米原・彦根東 20名	膳所・彦根東・米原・虎姫 22名	彦根東・米原・虎姫 19名
かるた	膳所・石山・水口東・比叡山 8名	膳所 8名	膳所・石山・大津・清陵・水口東 8名	膳所・大津・清陵・幸福の科学学園 8名	膳所・石山・東大津・水口東 8名

全国高等学校総合文化祭参加一覧表

No.3

	第39回 平成27年度	第40回 平成28年度	第41回 平成29年度	第42回 平成30年度	第43回 令和元年度
期日	7/28～8/1	7/30～8/3	7/31～8/4	8/7～8/11	7/27～8/1
器楽・管弦楽	八幡 12名	八幡 17名	八幡 26名	八幡 25名	八幡 17名
吟詠剣詩舞	守山・河瀬・水口東・ 東大津・大津・長 浜北・長浜・堅田・ 大津商業 23名	3校合同（守山・ 堅田・大津商業） 5名	2校合同（堅田・ 大津商業） 2名		
郷土芸能	水口・MIHO美学 院 20名	MIHO美学院 13名	MIHO美学院 18名	MIHO美学院 13名	MIHO美学院 11名
弁論	膳所・立命館守山・ 盲学校 3名	膳所・MIHO美学 院 2名	膳所・MIHO美学 院 2名	膳所・湖南農業 2名	膳所・MIHO美学 院 2名
文芸	彦根東・膳所 5名	彦根東・膳所 5名	彦根東・膳所 5名	彦根東・水口東 5名	彦根東・水口東 5名

5-6 滋賀県立高等学校再編計画に基づく取組状況調査結果

(令和2年1月～3月実施、全県立高等学校長対象)

滋賀県立高等学校再編基本計画（P6）

社会の進展、地域や産業界の要請などを踏まえつつ、生徒自らの興味・関心や進路希望等に応じて、学びたい教科や科目等を学習し、将来の生活や職業に役立つ知識・技能を積極的に学ぶことができるよう、全ての高等学校においてそれぞれの教育目標等に応じた魅力ある学校づくりに取り組めます。

【概要】

○92%の学校が、魅力と活力ある学校づくりが進んでいると回答

○「地域との連携」が進んだと回答している学校が最も多く、次いで「授業の工夫」、「大学や企業との連携」と回答した学校が多い。

○農業学科、工業学科、商業学科では全ての学校が「地域との連携」が進んだと回答

○普通科では、「授業の工夫」が進んだと回答した学校が最も多い。

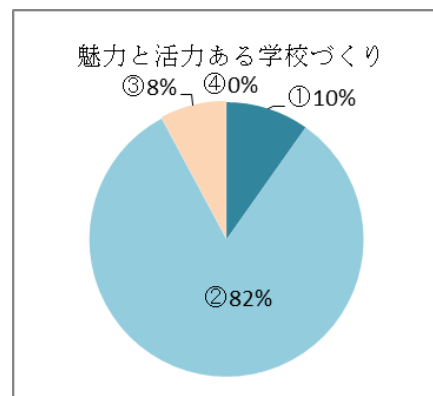
○情報発信については、学校説明会や中学校訪問、ホームページにおける発信はできているが、新聞、テレビ等での情報発信ができている学校は少ない

(1) 魅力と活力ある学校づくりの取組について

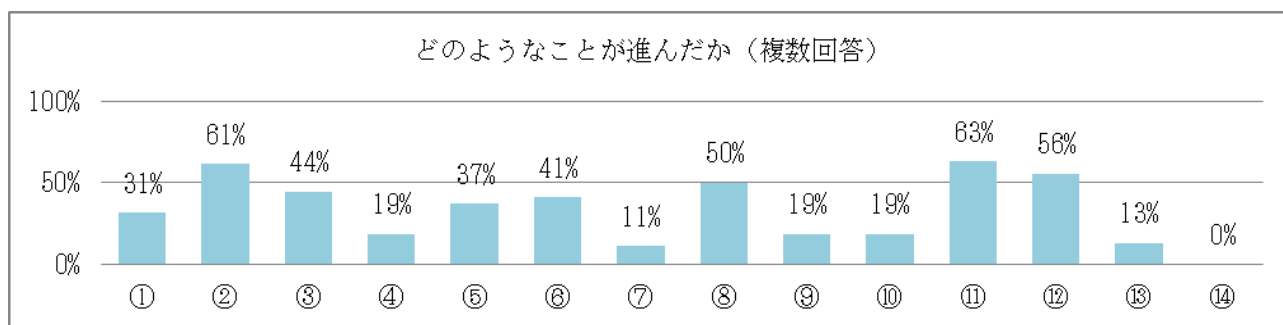
Q. 魅力と活力ある学校づくりは進んでいますか。

① 大変進んでいる ② まあ進んでいる ③ あまり進んでいない ④ 全く進んでいない

○ 高校再編計画策定以降の取組として、92%（①10%、②82%）の学校で、魅力と活力ある学校づくりが進んでいると回答している。



Q. 魅力と活力ある学校づくりで、どのようなことが進みましたか。（複数回答可）



① 多様な教科・科目

② 授業の工夫（習熟度別授業、少人数授業等）

③ 進路指導（進学・就職）における実績

④ コース、単位制、総合学科等の学びのシステム

⑤ 部活動の取組

⑥ 学校行事の工夫

⑦ 資格取得や検定合格

⑧ キャリア教育

⑨ ボランティア活動

⑩ 施設設備の充実

⑪ 地域との連携

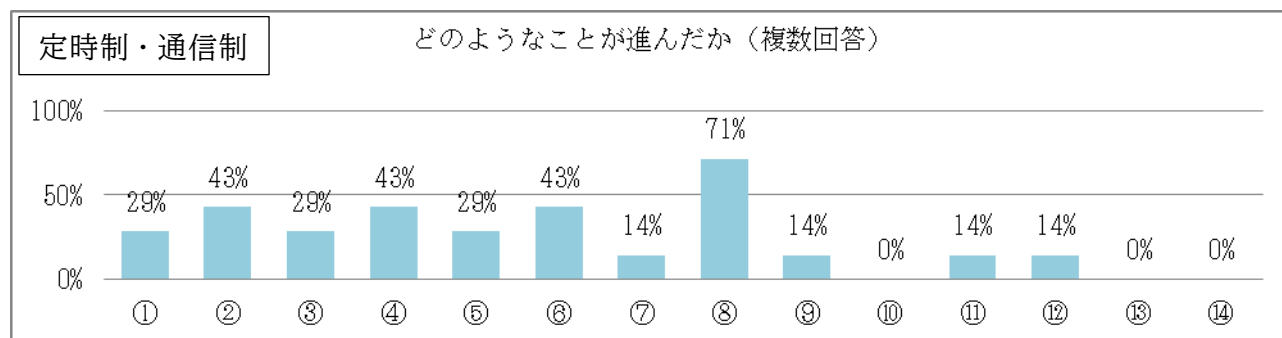
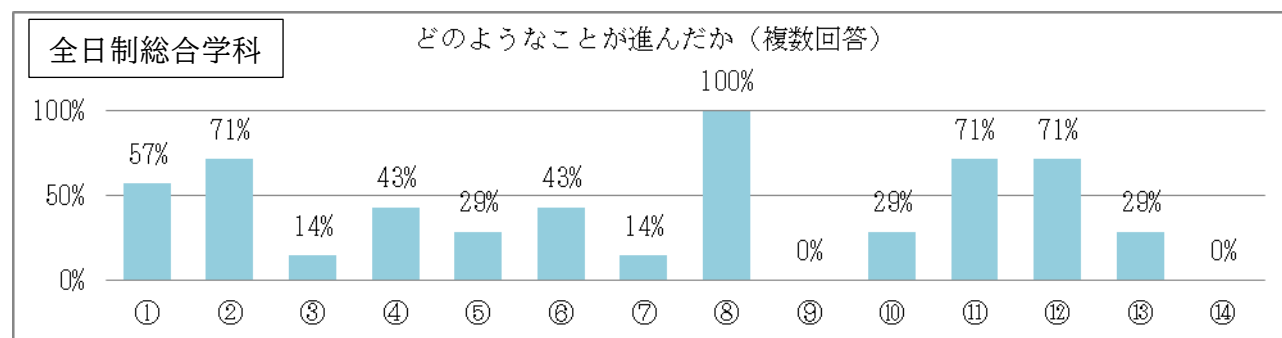
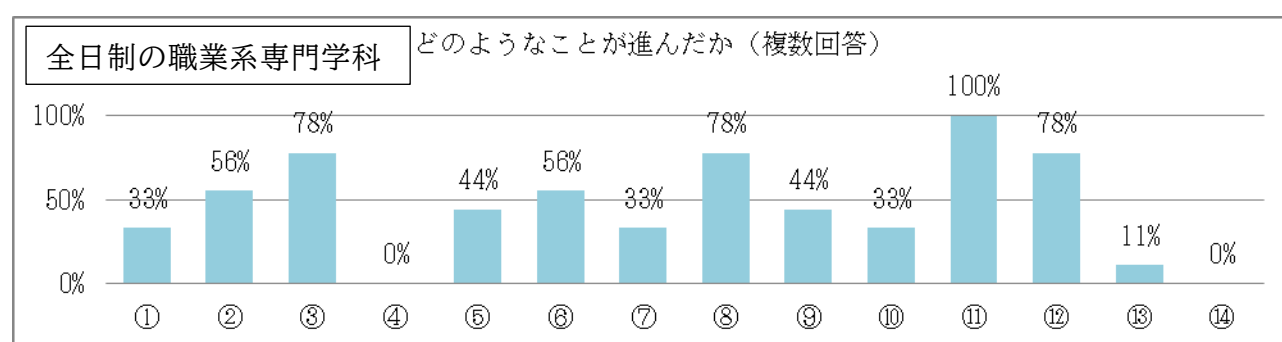
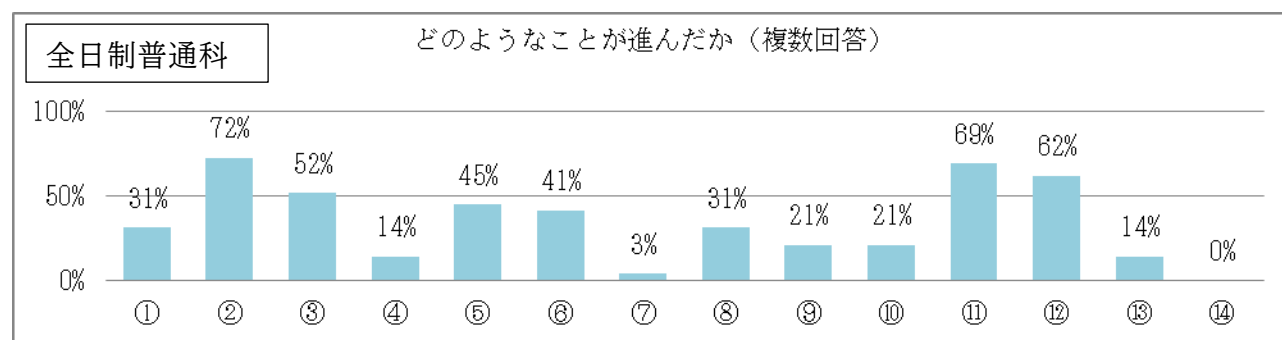
⑫ 大学や企業との連携

⑬ その他（ ）

⑭ なし

- ⑪地域との連携が進んだと回答した学校が63%と最も多かった。
- ②授業の工夫（習熟度別授業、少人数授業等）（61%）、⑫大学や企業との連携（56%）、⑧キャリア教育（50%）が進んだという回答も多い。

※課程・学科別の状況



- 全日制の職業系専門学科では、⑪地域との連携が進んだと回答した学校が100%であった。
- 全日制の総合学科では、⑧キャリア教育が進んだと回答した学校が100%であった。

（２）魅力と活力ある学校づくりの例

【地域との連携（63％）】

○八日市南高校（農業学科）

農業科：農業ふれあいスクール、シーツサミット、しが動物フェスティバル

地元の祭り等への参加

食品科：政所茶プロジェクト、八南レストラン、小学生チャレンジネイチャーキッズ

ここ滋賀やマーガレットステーションにおける食品加工品等の販売

花緑デザイン科：小学校環境ふれあいスクール、愛知川河畔林の会、JR 近江八幡駅花壇整備、水源の森整備、グラウンド芝生化

地域等との連携を強めたことにより、地域からの評価も高まり、そのことが生徒の自信を深め、自尊感情や有用感を高くすることにつながっている。

○愛知高校（普通科）

愛荘町商工会と締結している連携協定に基づいたプレジョブシップ（就業体験、就業前能力育成事業）は、愛荘町だけでなく広く地元企業の協力（R1 年度は 51 事業所の協力）を得られるようになった。事業所からの評価も概ね良好であり、厳しい指摘も次年度の取組に効果的に活用してきた。本校生徒の就職に向けての意識の高揚に大変効果的な取組となっている。

○甲南高校（総合学科）

生物と環境系列：野菜苗販売、ローストチキン製造販売、先進農業者の経営見学

森林科学校外学習、毎週3回の農産物販売等

バイオとかがく系列：小学校出前実験、杣川地域交流、ササユリの里づくり、

親子ものづくり教室、製薬会社見学等

食と健康系列：SA、PAや給食センターのメニュー開発等

福祉と保育系列：保育実習、障害者のスクールボランティア等

教室で座って受ける授業だけでなく、実験や実習を多く取り入れ、地域に出て人と関わることから学ぶ取組を大切にしている。中学校で不登校を経験した生徒もいるが、落ち着いて学習できる居場所があり、先生や地域から自分を認めてもらえる活動が多くあるため、休まず登校できている。

○日野高校（総合学科）

・「日野高カフェ@Home」の取組 → 生徒の感想は資料1-11

課題研究「商品開発販売実習」の授業の一環として、近江鉄道日野駅交流施設を使用して、月1 回生徒がカフェを経営。試行錯誤、失敗と成功を繰り返しながらカフェ経営に取組むことで、企画力、コミュニケーション能力、団結力等が高まり、また、地元住民等に喜んでもらうことで達成感や社会・地域貢献の意識ができ大きく成長している。

・町主催の意見交換行事への高校生参加

町次期総合計画「私たちのまちづくり提案」に高校生が参加し、意見を表明した。また、「近江鉄道で地域を元気にするフォーラム」に生徒代表がパネリストとして出席し、積極的に意見表明した。また、日野町青少年意見発表大会や福祉の集いに参加するとともに、司会や運営として協力している。日野町にある高校として、町の現状や将来を考えた意見を考え、若者としての行動に移すことができている。しかし、まだまだ、一部の生徒の参加行動であり、学校全体でのまちづくり参画の意識を高めていくことが必要である。

・地域住民との連携協力

生徒会地域清掃行事を毎年実施し、地元自治会と協力して、学校周辺の清掃活動に取り組んでいる。「日野祭」の神輿渡御に運動部員が毎年協力したり、「蒲生氏郷まつり」の武者・侍女行列に高校生が衣装を着て参加するなど、伝統行事の継承にも協力している。少子高齢化で伝統行事等への参加者不足のなか、高校生が協力することで、行事が安定して実施されている。また、

高校生も伝統行事に実際に参加することで、地元文化・歴史の理解と次代の担い手としての意識も芽生えている。

【授業の工夫(習熟度別授業、少人数授業等)(61%)】

○玉川高校(普通科)

近年の継続した研究指定校事業の取り組みの中で、特に授業改善に力を入れてきた。教材開発や教材提示の仕方についての探究、アクティブラーニングの活用、ICT の利活用、評価方法の実践研究の他、研究授業や研修会を通じた教員の資質向上の取組等を行った。これら授業の質的向上を目指す取組の中で、意欲的に授業に参加する生徒、理解を深める生徒が増えた。

○河瀬高校(普通科・中高一貫)

平成 29 年度から同窓会の力添えで ICT 機器を順次整備している。プロジェクター・スクリーン・書画カメラを中・高の全教室等に設置し、教材呈示用のノートパソコンを全教職員に配布したりデジタル教科書を購入したりしている。また、タブレット端末も複数クラス分準備して授業に活用している。自校の教員・生徒ともに高く評価している。

【大学や企業との連携(56%)】

○大津商業高校(商業学科)

商業科課題研究(ビジネスインキュベーション)において、高齢者を対象とした旅行の企画、運営や本県の特産物を活用した商品開発および販売実習を行っている。

高齢者を対象とした旅行「高校生と行く、おもいやり旅行」は、(株)どこでも介護、(株)JTBとの連携した企画となっている。新聞などでも取り上げられており、本校の特色ある商業教育を代表するものとなっている。また、本県の特産物を活用した商品開発は、R1 年度は、信楽の(株)山本園の協力を得て、朝宮茶を使ったスイーツを作り、守山市主催の「ココカラフェス」、「ランチ大津京オープンイベント」、産業教育フェア新潟大会などで販売実習を行った。どの実習も商品開発の背景などの説明をし、積極的に地元をアピールすることなどを通して、生徒の地元への愛着心を醸成するよい機会となった。

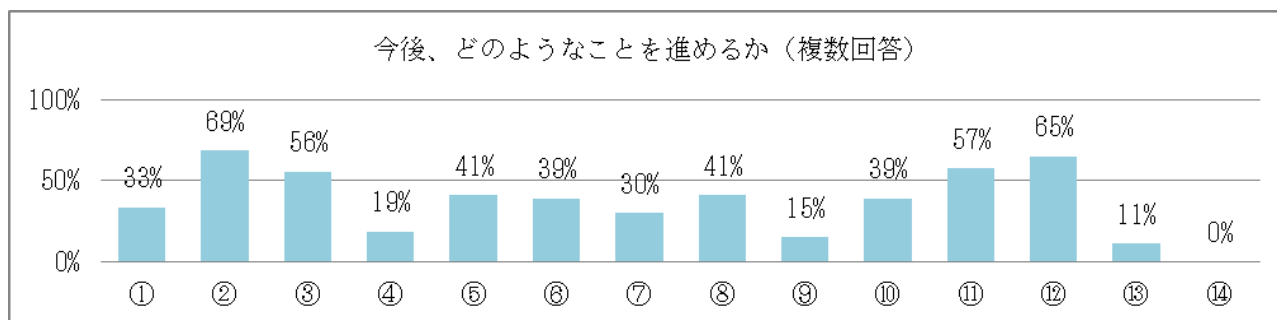
○八幡工業高校(工業学科)

近隣の大学や事業所と連携を進め、時代の変化に即応したものづくり教育を実施し、社会で必要な職業人を育成している。2年生の生徒は、協力企業等 74 社で5日間のインターンシップを行い、働く意義や社会的役割を体験している。連携を図っている龍谷大学をはじめ、立命館大学などへも合格している。

(3) 今後の魅力と活力ある学校づくりについて

Q. 今後、魅力と活力ある学校づくりで、どのようなことを進めますか。(複数回答可)

- | | |
|-------------------------|-------------|
| ① 多様な教科・科目 | ⑧ キャリア教育 |
| ② 授業の工夫(習熟度別授業、少人数授業等) | ⑨ ボランティア活動 |
| ③ 進路指導(進学・就職)における実績 | ⑩ 施設設備の充実 |
| ④ コース、単位制、総合学科等の学びのシステム | ⑪ 地域との連携 |
| ⑤ 部活動の取組 | ⑫ 大学や企業との連携 |
| ⑥ 学校行事の工夫 | ⑬ その他() |
| ⑦ 資格取得や検定合格 | ⑭ なし |

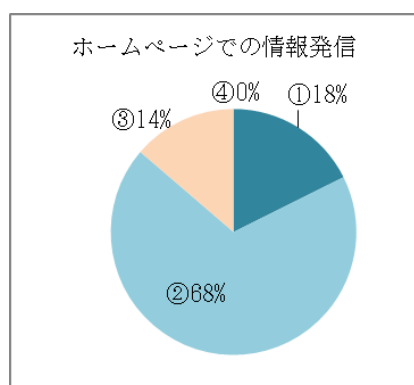
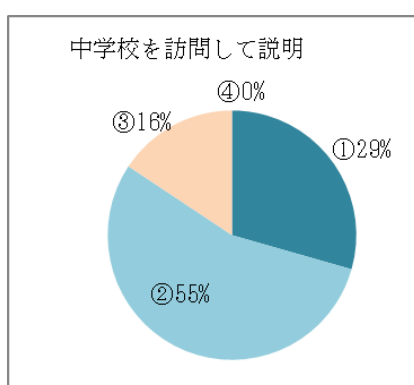
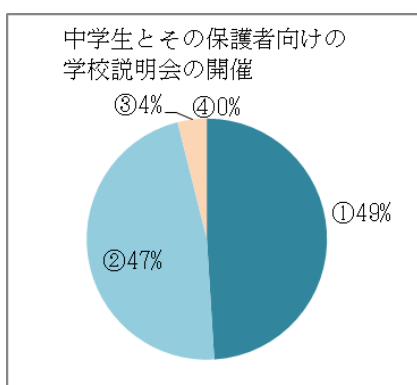


○ ②授業の工夫(69%)、⑫大学や企業との連携(65%)、⑪地域との連携(57%)、③進路指導(56%)を回答している学校が多い。

(4) 魅力と活力ある学校づくりの情報発信について

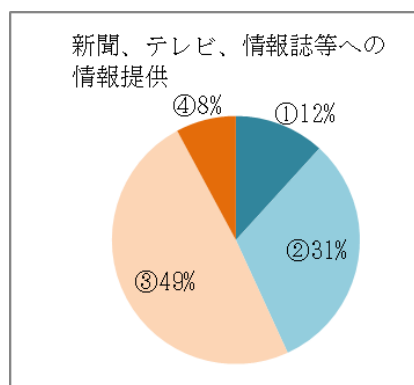
Q. 魅力と活力ある学校づくりの県民や中学校への情報発信はどうか。

- ①十分できている ②まあできている ③あまりできていない ④全くできていない



○ 高校再編計画策定以降の取組として、学校で学校説明会(96%)、中学校訪問(84%)、ホームページでの情報発信(86%)はできていると回答している学校が多い。

△ 新聞、テレビ等への情報提供(43%)による情報発信ができていない学校は半数以下となっている。

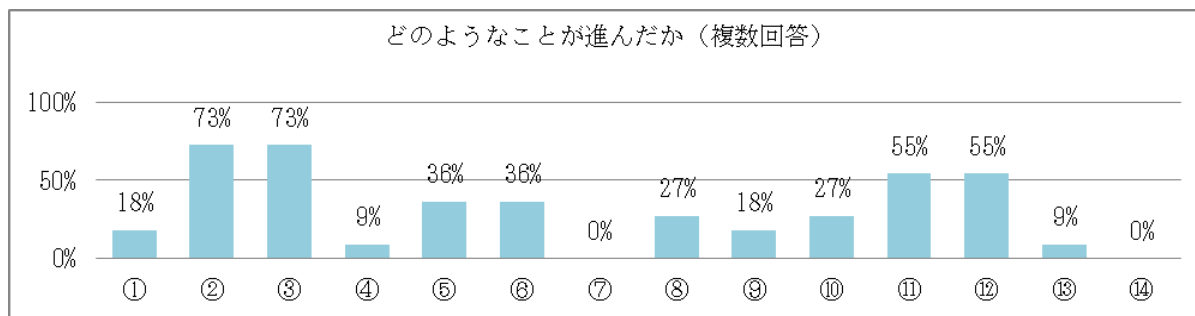


※参考データ

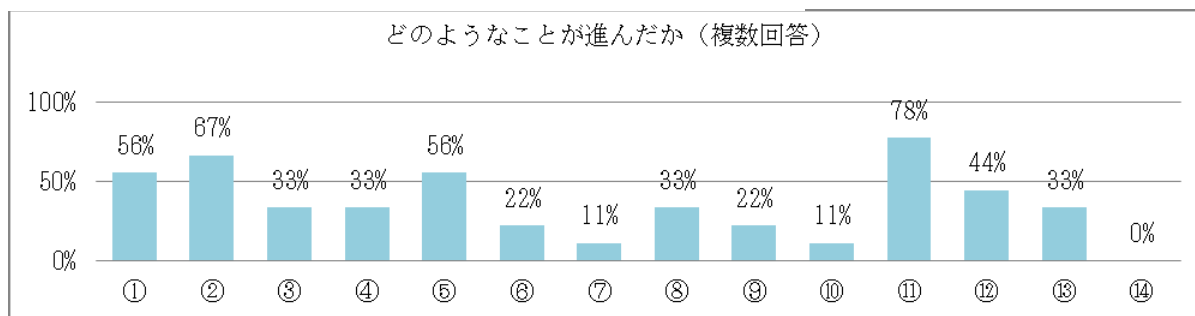
Q. 魅力と活力ある学校づくりで、どのようなことが進みましたか。(複数回答可)

- | | |
|-------------------------|-------------|
| ① 多様な教科・科目 | ⑧ キャリア教育 |
| ② 授業の工夫(習熟度別授業、少人数授業等) | ⑨ ボランティア活動 |
| ③ 進路指導(進学・就職)における実績 | ⑩ 施設設備の充実 |
| ④ コース、単位制、総合学科等の学びのシステム | ⑪ 地域との連携 |
| ⑤ 部活動の取組 | ⑫ 大学や企業との連携 |
| ⑥ 学校行事の工夫 | ⑬ その他() |
| ⑦ 資格取得や検定合格 | ⑭ なし |

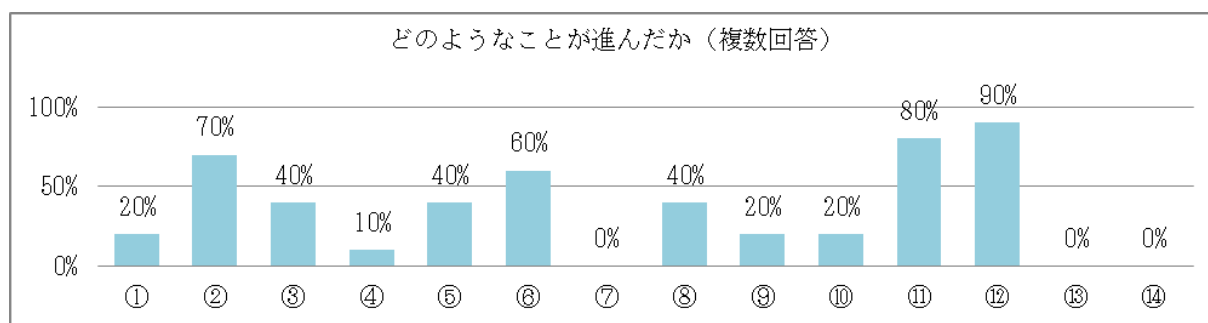
1. 普通科高等学校(卒業生の10%以上が現役で国公立大学へ進学)



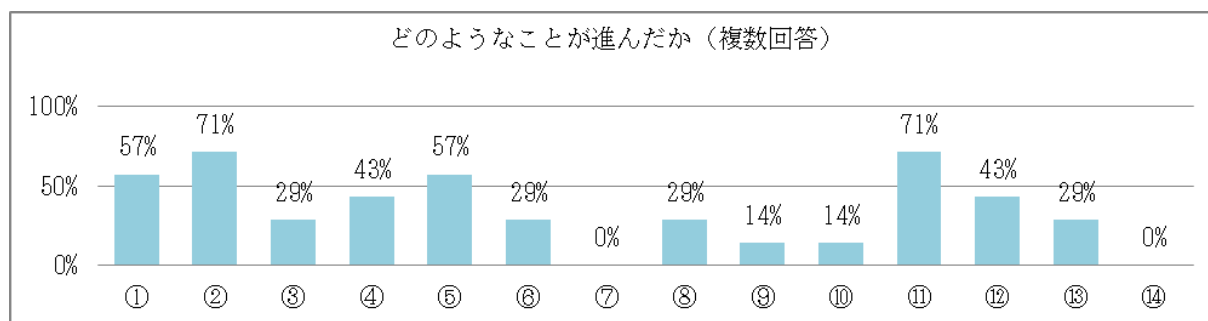
2. 普通科高等学校(卒業生の20%以上が就職)



3. 1、2以外の普通科高等学校



4. 1学年の学級規模が3学級あるいは4学級の普通科高等学校



『魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート』結果

- 1 目 的 これからの滋賀の県立高等学校づくりに生かす基礎資料とする。
- 2 実施時期 令和2年10月
- 3 対 象 ○中学校および義務教育学校
市町立中学校1、2年生徒その保護者
市町立義務教育学校7年生、8年生とその保護者
県内95校中の44校（市町別1～8校）の各学年1学級分の抽出調査
- 高等学校
県立高等学校の1、2年の抽出した学級（46校）の生徒とその保護者

		対象者総数	回答数	回答率
中学校 義務教育学校	生 徒	2,771	2,597	93.7%
	保 護 者	2,771	2,328	84.0%
	合 計	5,542	4,925	88.9%
高等学校	生 徒	5,567	5,091	91.4%
	保 護 者	5,567	4,566	82.0%
	合 計	11,134	9,657	86.7%
総 合 計		16,676	14,582	87.4%

- 目 次 ○中学校および義務教育学校
生 徒アンケート結果 P 2 ～ P 8
保護者アンケート結果 P 9 ～ P 15
- 高等学校
生 徒アンケート結果 P 16 ～ P 25
保護者アンケート結果 P 26 ～ P 36
- ※参考：割合（％）は合計が100％にならない場合もある。
（無回答や四捨五入による）
- アンケート用紙 P 37 ～ P 40
- 骨子イメージ P 41

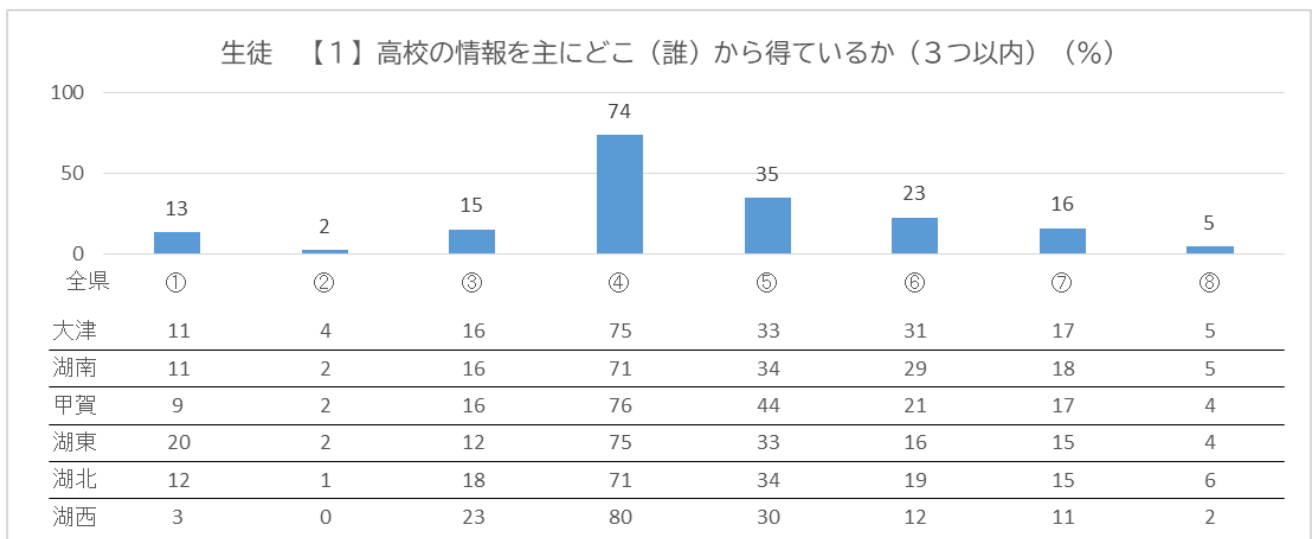
中学校および義務教育学校 生徒アンケート結果

※地域について

大津……大津市
 湖南……草津市、守山市、栗東市、野洲市
 甲賀……甲賀市、湖南市
 湖東……彦根市、近江八幡市、東近江市、日野町
 竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
 湖北……長浜市、米原市
 湖西……高島市

【1】あなたは高校の情報を主にどこ（誰）から得ていますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ①中学校の先生や中学校での進路相談 | ②高校での体験入学、学校説明会 |
| ③高校のホームページ、パンフレット | ④家族・親戚 |
| ⑤友人・先輩 | ⑥学習塾 |
| ⑦インターネット（高校のホームページ以外） | ⑧その他 |



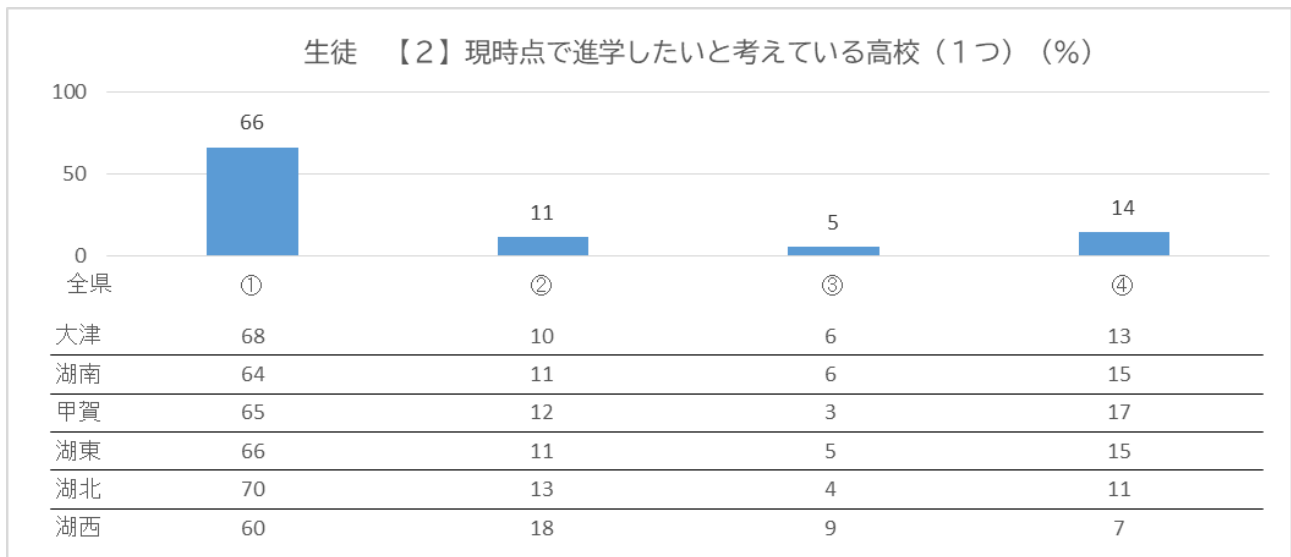
○高校の情報を、「④家族・親戚(74%)」や「⑤友人・先輩(35%)」から得ている生徒が多い。

※高校での体験入学や学校説明会は中学3年生が対象となっていることなどから、中学1・2年生では「①中学校の先生や中学校での進路相談」、「②高校での体験入学、学校説明会」は少ない。
(P15 参照)

○地域別でみると、大津、湖南地域では「⑥学習塾」から情報を得ている割合が高い(約 30%)。

【2】現時点で進学したいと考えている高校を次の中から1つ選んでください。また、そのように思う理由を書いてください。

- ①県内の県立高校 ②県内の私立高校 ③県外の私立高校 ④その他



○「①県内の県立高校」へ進学したいと考えている生徒が最も多い(66%)。理由としては、「家から近く通学しやすい」、「私立よりも学費が安い」、「家族・親戚が通っていたから」という回答が多かった。

○「④その他」と回答した生徒の割合が14%であることから、中学1・2年生の段階では進学したい高校が定まっていない生徒も多い。

○主な理由

①県内の県立高校

- ・家から近く通学しやすい
- ・私立よりも学費が安い
- ・家族・親戚が通っていたから
- ・行きたいと思っている高校が県立高校
- ・親に勧められた

②県内の私立高校

- ・野球等の部活動が強い
- ・施設、整備が整っている
- ・学びたい学科がある

③県外の私立高校

- ・野球等の部活動が強い
- ・県外に行って環境を変えたい

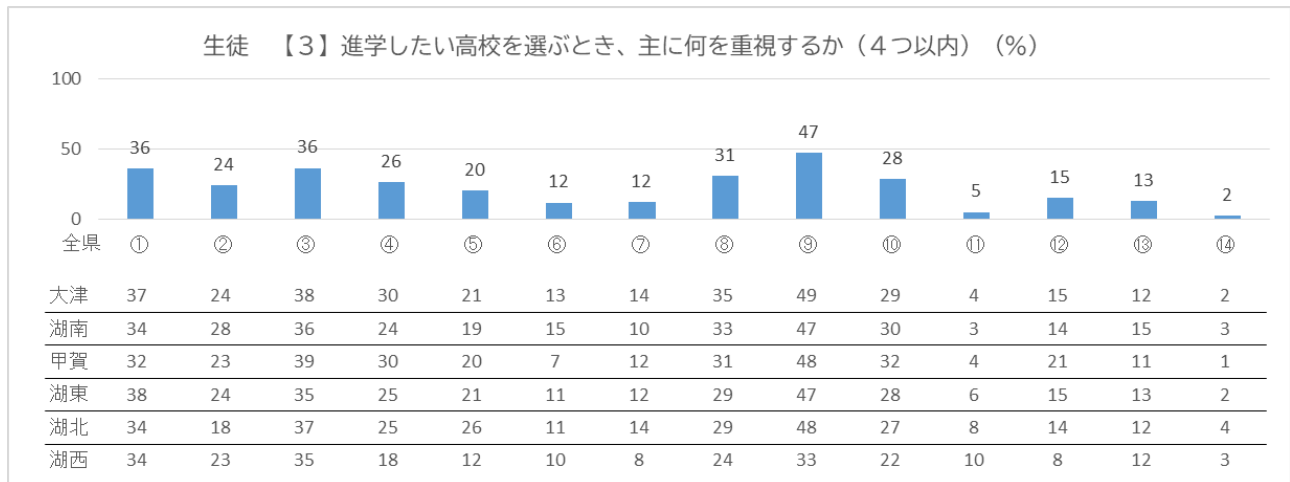
④その他

- ・まだ決まっていない

等

【3】あなたは進学したい高校を選ぶとき、主に何を重視しますか。次の中から4つ以内で選んでください。

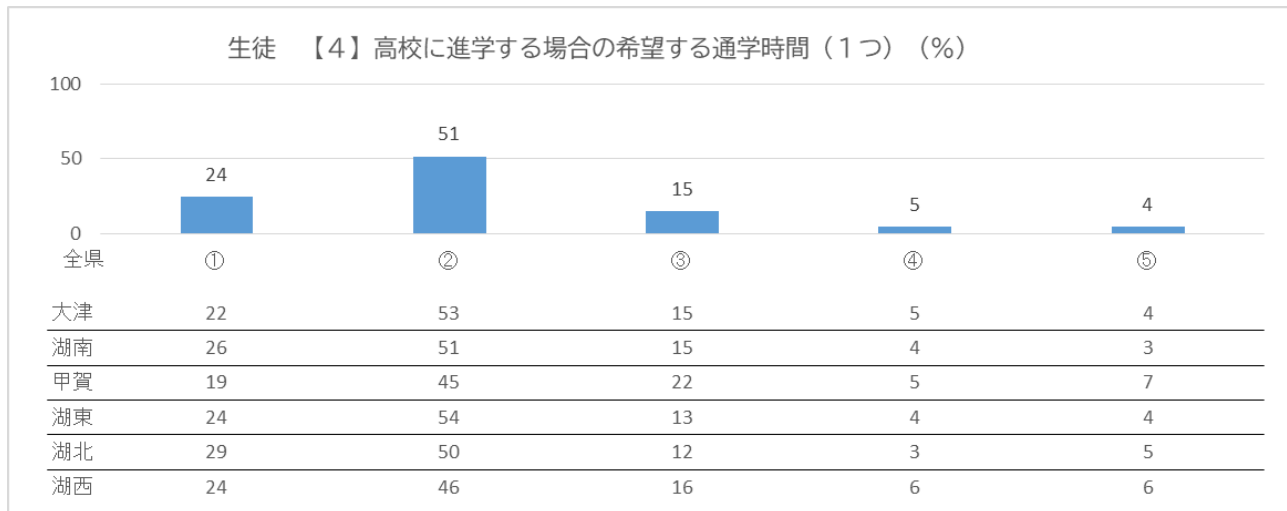
- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ①学びたい学科、学習内容 | ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など） |
| ③部活動 | ④高校卒業後の進路 |
| ⑤校風やイメージ | ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ） |
| ⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） | ⑧自分の適性（自分に向いている等） |
| ⑨自分の成績 | ⑩通学時間（自宅からの近さなど） |
| ⑪家族・親戚の出身校または在籍校 | ⑫友人・先輩と同じ学校 |
| ⑬制服 | ⑭その他 |



○「⑨自分の成績(47%)」、「①学びたい学科、学習内容(36%)」、「③部活動(36%)」、「⑧自分の適性(31%)」を重視して高校を選択する生徒が多い。

【4】あなたは高校に通学する場合、どれぐらいの通学時間を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

①30分以内 ②1時間以内 ③1時間30分以内 ④2時間以内 ⑤その他

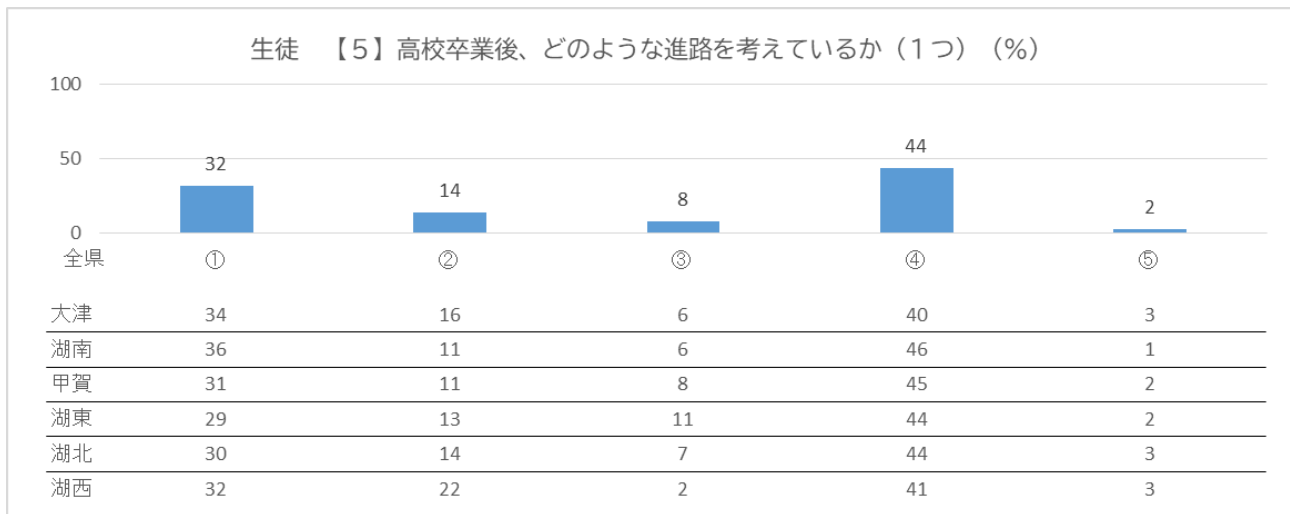


○75%(①+②)の生徒が、1時間以内の通学時間を希望している。

○地域別でみると、甲賀地域は、他地域よりも「③1時間30分以内」まで考えている割合は高い。
(22%)

【5】あなたは、高校卒業後、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職 ④まだ考えていない ⑤その他



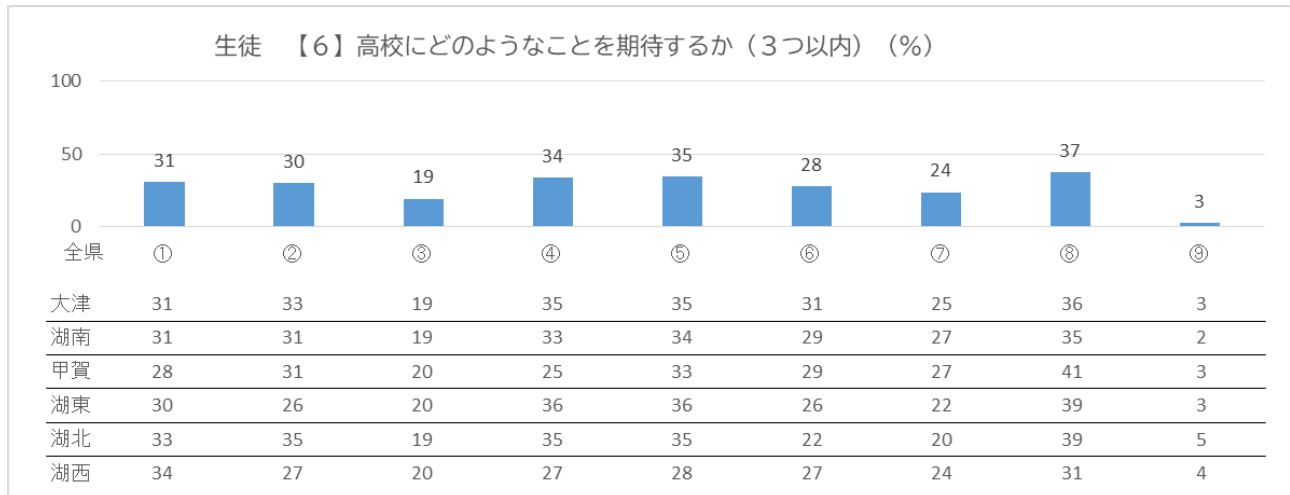
○中学1・2年生では、多くの生徒が高校卒業後の進路をまだ考えていない。

※「④まだ考えていない」：44%

○進路を考えている生徒の中では、「①大学・短期大学」への進学を考えている生徒が最も多い。
(32%)

【6】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
- ②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
- ③資格につながる学習ができる。
- ④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
- ⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
- ⑥学校行事が充実している。
- ⑦部活動が盛んである。
- ⑧多くの友人をつくることできる。
- ⑨その他



○多くの友人をつくることを高校に期待している生徒が最も多い。

※「⑧多くの友人をつくることできる」：37%

○次いで、「⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる(35%)」、「④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる(34%)」の回答が多い。

【7】 これからの滋賀の県立高校又はあなたが行きたいと思う学校が、さらに魅力ある学校になるためには何が必要か。

○主な意見

＜施設・設備等について＞

- ・施設、設備が整っており、きれいな校舎（特にトイレ）。
- ・学生寮をつくる。
- ・食堂がほしい。
- ・自習室がある学校。
- ・交通の便がいいところにある学校（駅から近い等）。

＜学習について＞

- ・基礎的、基本的な学力を身に付けられ、大学への進学レベルの学力も身に付けられるような学校。
- ・中学校ではできないような体験や校外学習を、高校で体験できるようにしてほしい。
- ・楽しい授業が受けたい。
- ・資格が取りやすい勉強ができる。
- ・多様な選択科目を設定してほしい。
- ・自分が興味ある科目などをもっと選べる学校。
- ・将来何をしたいかなどの夢を見つけたい。
- ・タブレットを導入して教科書やノート等の荷物を減らし、電子上で学習内容をまとめられるようにする。
- ・オンライン授業を取り入れる。

＜部活動・学校行事等の学校生活について＞

- ・勉強だけでなく行事や部活動も充実して楽しめるようにしてほしい。
- ・文武両道に励みたい。
- ・部活動の種類が多い学校。強い部活動がある学校。
- ・この学校にしかない名物となる学校行事をつくる。
- ・地域・他校との交流を深めたい。
- ・友達をたくさんつくりたい。
- ・明るく楽しい学校生活を過ごしたい。
- ・いじめのない安心安全な学校。
- ・先生と仲良くしたい。

＜その他＞

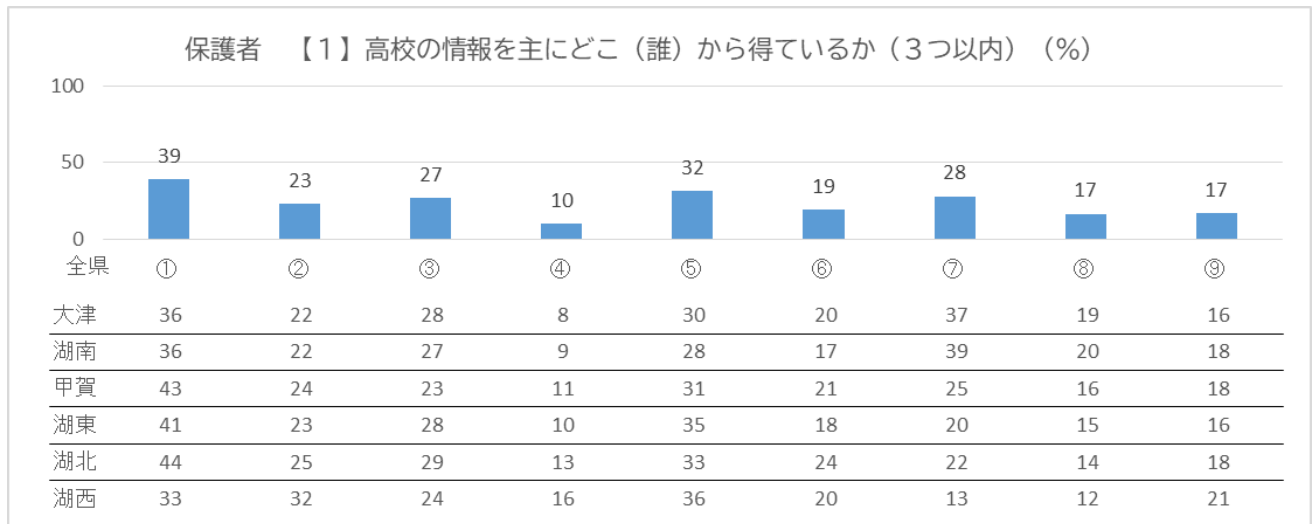
- ・募集定員を増やしてほしい。
- ・1クラスの生徒数を少なくしてほしい。
- ・学力に関係なく、誰でも好きな高校に行けるようにする。
- ・生徒の意見を取り入れる。
- ・厳しすぎない校則。
- ・スマホの持ち込み自由な学校。
- ・私立のようにかわいい制服にする。
- ・アルバイトをしてもよい学校。
- ・優しくておもしろい先生がいてほしい。
- ・各高校の特色や魅力が深くまで知られていないので、もっと情報発信したらよいと思う。
- ・中学1年生の頃から高校に触れる機会をつくる。

等

中学校および義務教育学校 保護者アンケート結果

【1】あなたは高校の情報を主にどこ（誰）から得ていますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| ①中学校の先生や中学校での進路相談 | ②高校での体験入学、学校説明会 |
| ③高校のホームページ、パンフレット | ④お子様本人 |
| ⑤家族・親戚 | ⑥お子様の友人・先輩 |
| ⑦学習塾 | ⑧インターネット（高校のホームページ以外の情報） |
| ⑨その他 | |

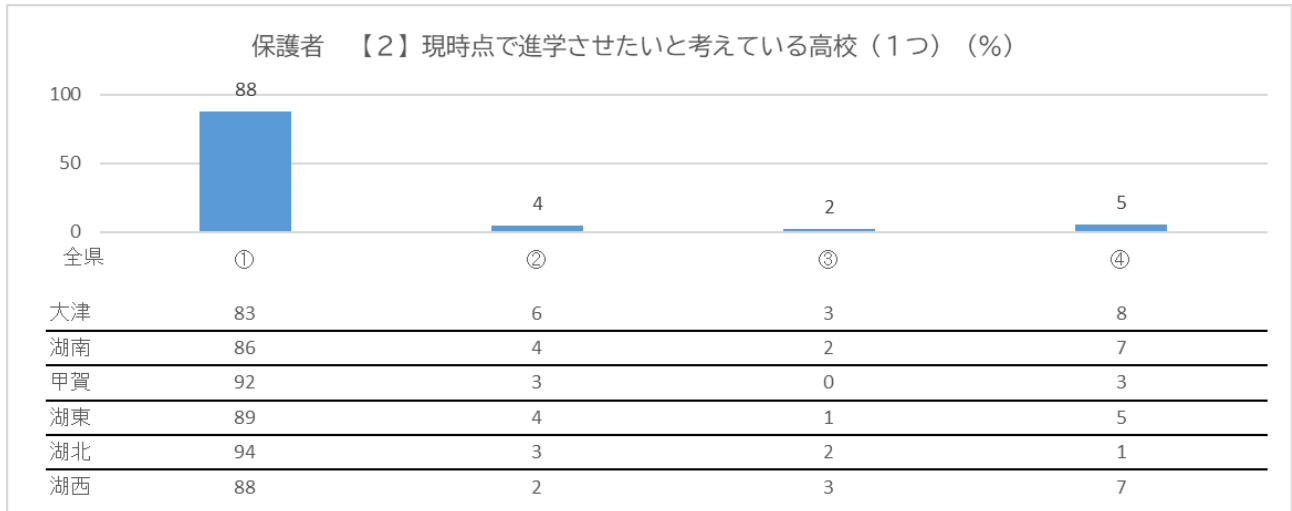


○「①中学校の先生や中学校での進路相談(39%)」から高校の情報を得ている保護者が最も多く、「⑤家族・親戚(32%)」からも多くの保護者が情報を得ている。

○地域別でみると、大津、湖南地域では「⑦学習塾」から情報を得ている割合が高い(約 38%)。

【2】現時点でお子様に進学させたいと考えている高校を次の中から1つ選んでください。また、そのように思う理由を書いてください。

- ①県内の県立高校 ②県内の私立高校 ③県外の私立高校 ④その他



○88%の保護者(中学生は66%)が、「①県内の県立高校」へ進学させたいと考えている。理由としては、「家から近く通学しやすい」、「学費が安い」、「子どもの希望」という回答が多かった。

○主な理由

①県内の県立高校

- ・家から近く通学しやすい
- ・学費が安い
- ・子どもの希望
- ・魅力ある学校がある
- ・部活動
- ・学校の選択幅がある

②県内の私立高校

- ・部活動
- ・大学進学

③県外の私立高校

- ・県内に子どもが学びたい学科がない

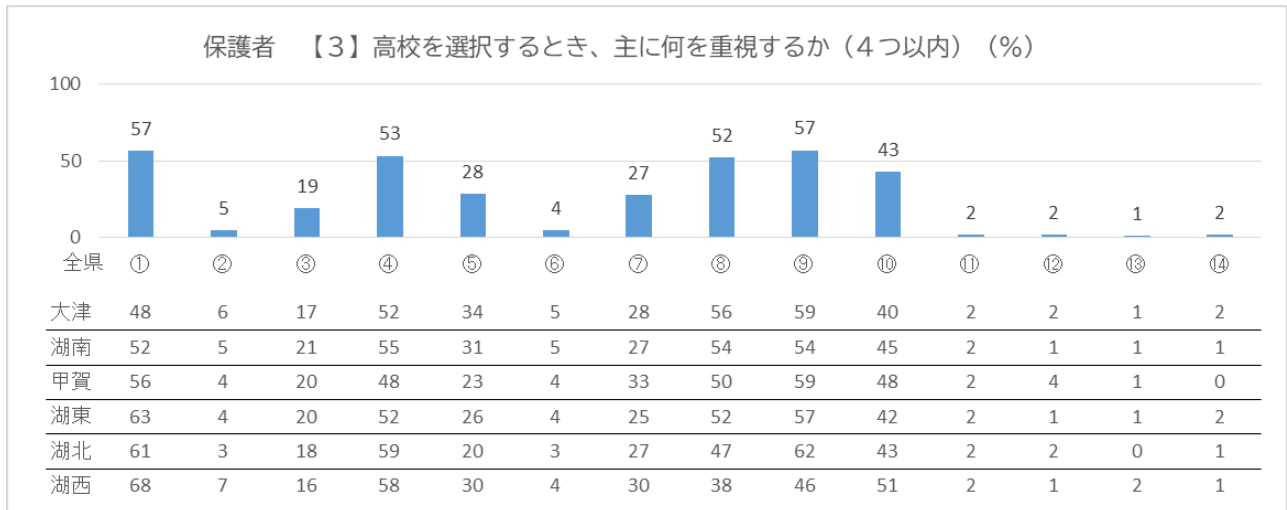
④その他

- ・高等専門学校

等

【3】あなたはお子様が高校を選択するとき、主に何を重視しますか。次の中から4つ以内で選んでください。

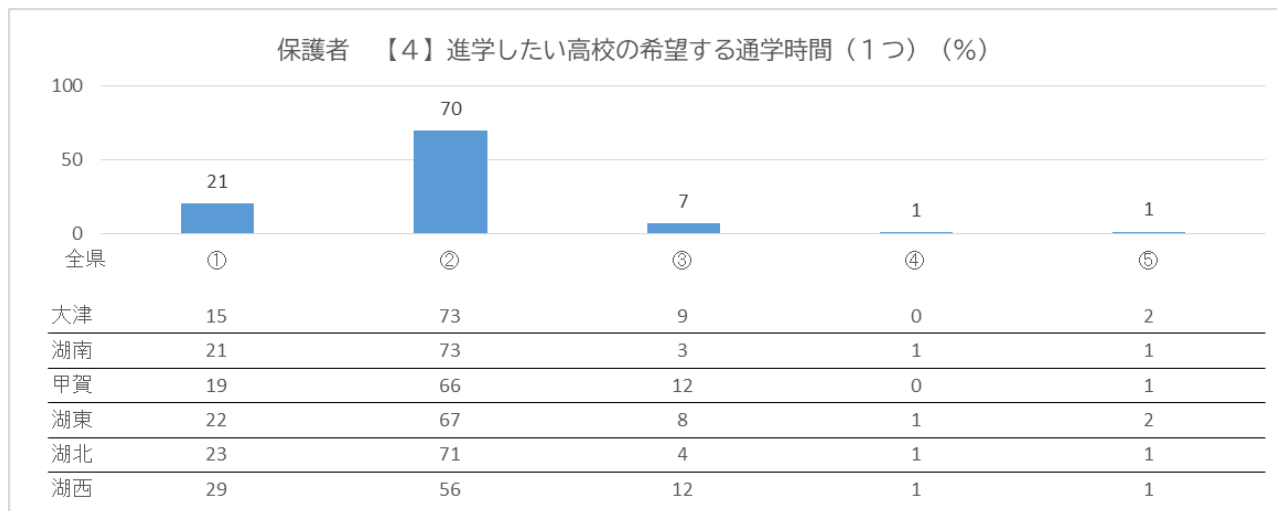
- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ①学びたい学科、学習内容 | ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など） |
| ③部活動 | ④高校卒業後の進路 |
| ⑤校風やイメージ | ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ） |
| ⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） | ⑧お子様の適性（お子様に向いている等） |
| ⑨お子様の成績 | ⑩通学時間（自宅からの近さなど） |
| ⑪お子様の家族・親戚の出身校または在籍校 | ⑫お子様の友人・先輩と同じ学校 |
| ⑬制服 | ⑭その他 |



○「⑨子どもの成績（57%）」を踏まえて、「①学びたい学科・学習内容(57%)」、「④高校卒業後の進路（53%）」、「⑧子どもの適性(52%)」を重視して高校を選択する保護者が多い。

【4】お子様の進学したい高校について、どれぐらいの通学時間を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

①30分以内 ②1時間以内 ③1時間30分以内 ④2時間以内 ⑤その他

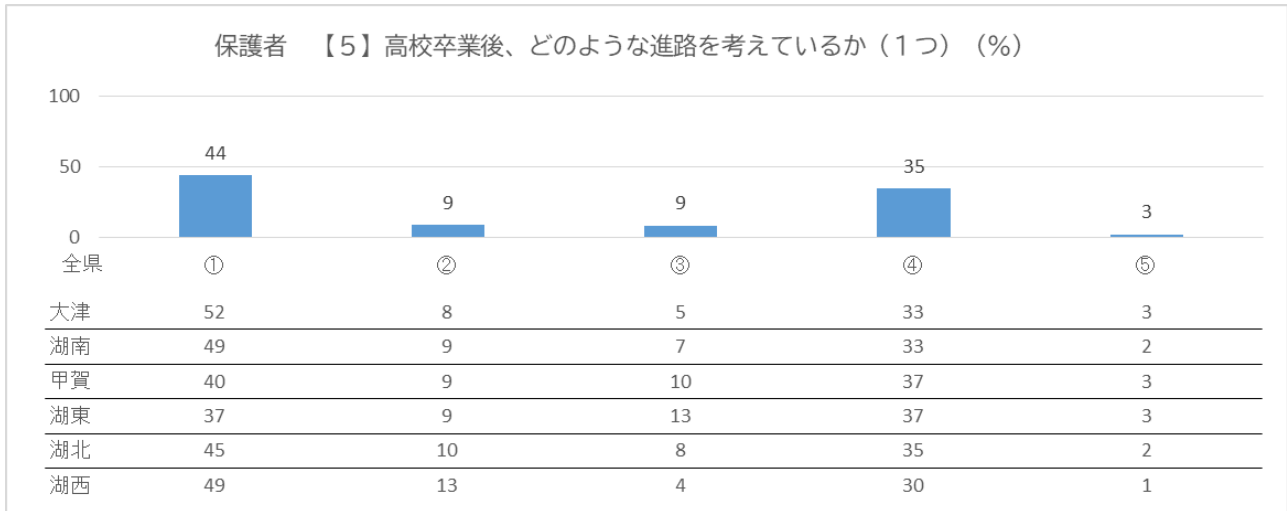


○91%(①+②)の保護者が、1時間以内の通学時間を希望している。

○地域別でみると、甲賀、湖西地域は、他地域よりも「③1時間30分以内」まで考えている割合が高い（甲賀、湖西地域ともに12%）。

【5】あなたは、お子様が高校に進学した場合、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。次の中から1つ選んでください。

①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職 ④まだ考えていない ⑤その他

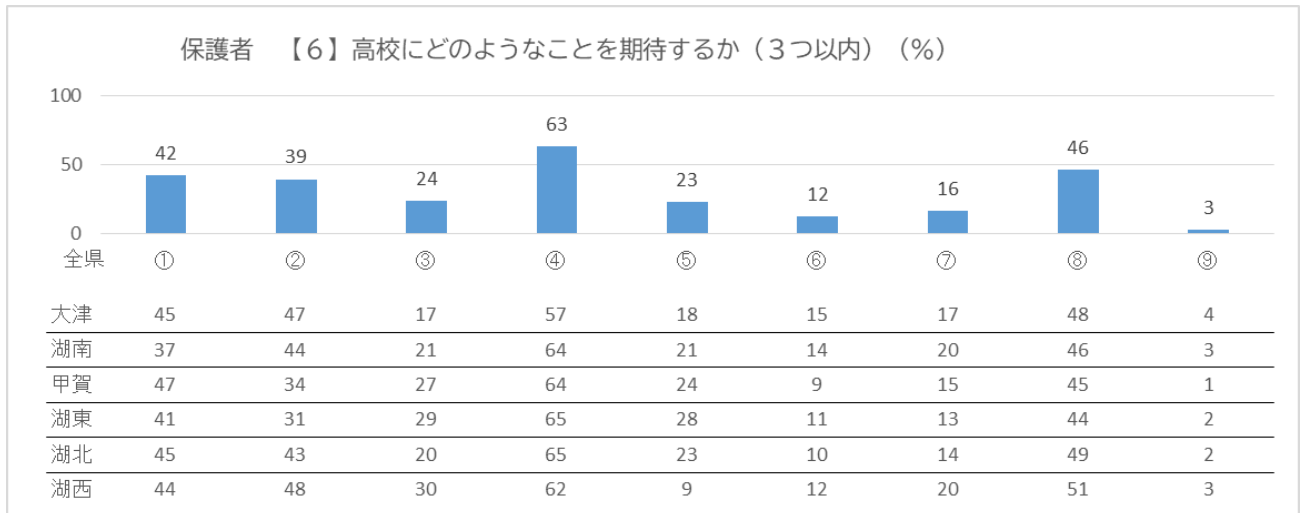


○「①大学・短期大学」への進学を考えている保護者が最も多い(44%)。

○「④まだ考えていない」と回答した保護者も多い(35%)。

【6】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
- ②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
- ③資格につながる学習ができる。
- ④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
- ⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
- ⑥学校行事が充実している。
- ⑦部活動が盛んである。
- ⑧多くの友人をつくることできる。
- ⑨その他



○「④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる」と回答した保護者が最も多い(63%)。

○次いで、多くの友人をつくり、交友関係の幅を広げてほしいと考えている保護者が多い。

※「⑧多くの友人をつくることできる」：46%

○「①基礎的・基本的な学力(42%)」から、「②大学等への進学のための学力(39%)」を身に付けられる高校を期待している保護者も多い。

【7】教育委員会では、今年度『滋賀県立高等学校在り方検討委員会』を設置し、今後の滋賀の県立高校の在り方について検討しています。このことに関して、これからの県立高校がさらに魅力と活力ある学校づくりを進めるために必要だと思ふことがあれば書いてください。（記述）

○主な意見

＜施設・設備等について＞

- ・私立高校のように施設（トイレや教室）をきれいにする。
- ・食堂を作してほしい。

＜学習について＞

- ・子どもの可能性を拡げてやりたい。
- ・基礎から学べるようにしてほしい。
- ・学習面における丁寧なフォロー。
- ・大学進学に向けた、きめ細かな指導。
- ・子どもが将来希望の職業に就けるようなサポート。
- ・学習塾に行かなくても、補習等を充実させて高校だけで学力が向上できるようにしてほしい。
- ・子どもたち自身で考えたりする機会がもっとあるとよい。
- ・勉強ばかりでなく、地域と関わったり学んだりできる学習、人間性を深められるような行事、校外学習が多くあるとよい。
- ・教科書だけでなく、i P a dなどの情報機器を活用して授業の幅を広げてほしい。学習環境やスクールカウンセラーの配置等を、私学のように充実させてほしい。
- ・I C Tの環境整備を進め、オンライン授業を普及することで学校の境界のない教育活動が可能ではないか。子どもにとっても選択肢が増え、幅広くより社会活動に近い授業が可能になり、魅力的な学校になると思う。
- ・しっかりと学習や部活動に励むことができる学校をつくる。
- ・県立高校は、私学に比べると授業内容、進学のフォローなどが乏しい印象を受ける。普通科より特色のある専門学科を増やし、進学や就職に繋げる教育ができればいいと思う。
- ・学業の成績だけでなく、本人の興味や関心に沿った高校選択ができるように、多様な学科または特色ある高校を増やしてほしい。
- ・グローバル社会に対応できるスキルを身に付けることができる学校をつくる。
- ・発達障害等、障害を抱えている生徒の進学先の選択肢が増え、共生社会の実現に近づける学校づくりを進めてほしい。

＜部活動・学校行事等の学校生活について＞

- ・強い部活動がある学校をつくる。
- ・厳しい社会をたくましく生きていく力を育んでほしい。
- ・主体性と自立心を育む教育が必要だと思う。自立心を育むことで、生徒一人ひとりが自信を持ち、適切な進路選択につながる。
- ・楽しい高校生活を送ってほしい。
- ・いじめのない学校。

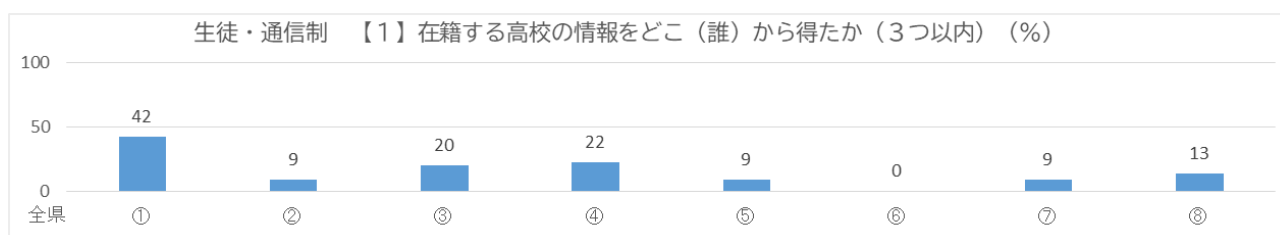
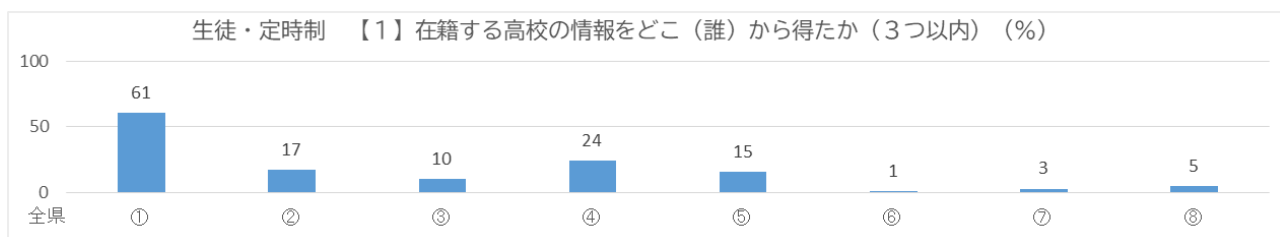
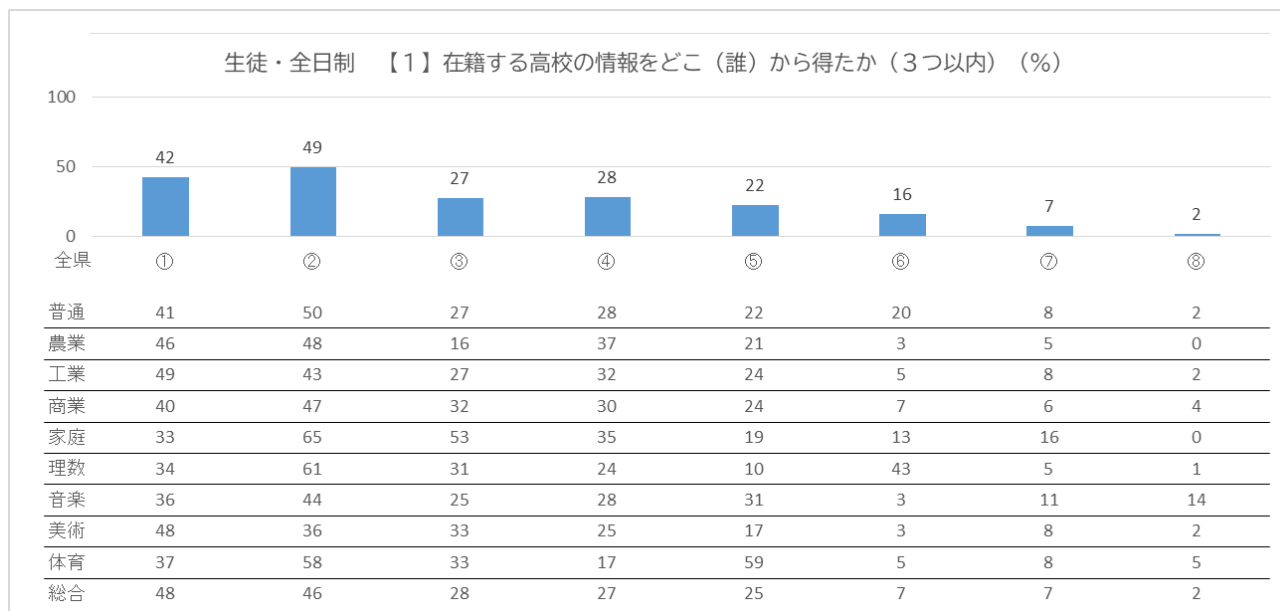
＜その他＞

- ・校則が厳しすぎる。先生が説明できないような校則はなくす。
- ・1学級30人くらいにしてほしい。
- ・他府県から転入してきた者にとっては、滋賀県の高校のことはほとんど分からない。各高校の特徴をアピールし、魅力や特色を発信できる場を多く設けていただければと思う。各校の違いが比較しやすく具体的な検討がしやすいと、本人も家族も安心して県立高校への進学ができる。
- ・教職員の資質向上。 等

高等学校 生徒アンケート結果

【1】高校に入学する前、あなたは在籍する高校の情報を主にどこ（誰）から得ることができましたか。次の中から3つ以内で選んでください。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ①中学校の先生や中学校での進路相談 | ②高校での体験入学、学校説明会 |
| ③高校のホームページ、パンフレット | ④家族・親戚 |
| ⑤友人・先輩 | ⑥学習塾 |
| ⑦インターネット（高校のホームページ以外） | ⑧その他 |



<全日制>

○「②高校での体験入学、学校説明会(49%)」から在籍校の情報を得ている生徒が最も多く、「①中学校の先生や中学校での進路相談(42%)」からも多くの生徒が情報を得ている。

※家庭：「③高校のホームページ、パンフレット(53%)」の割合が、他学科と比べると高い。

※理数：「⑥学習塾(43%)」の割合が、他学科と比べると高い。

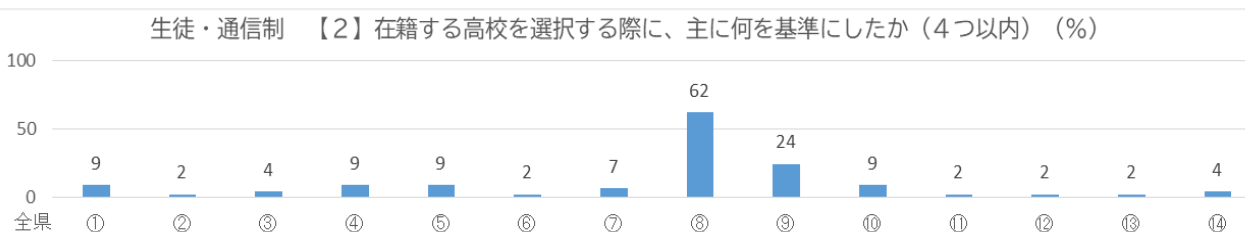
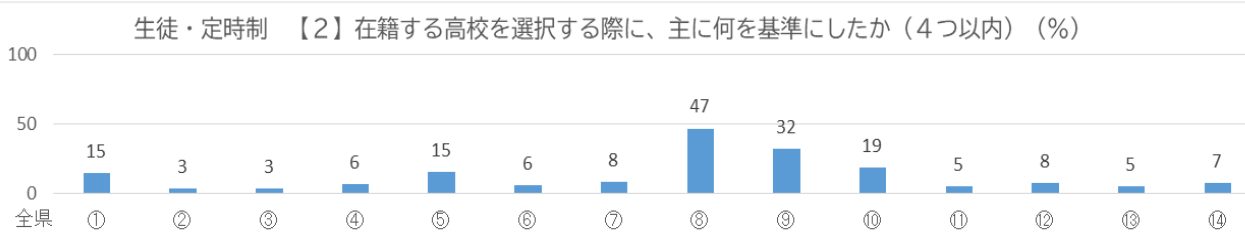
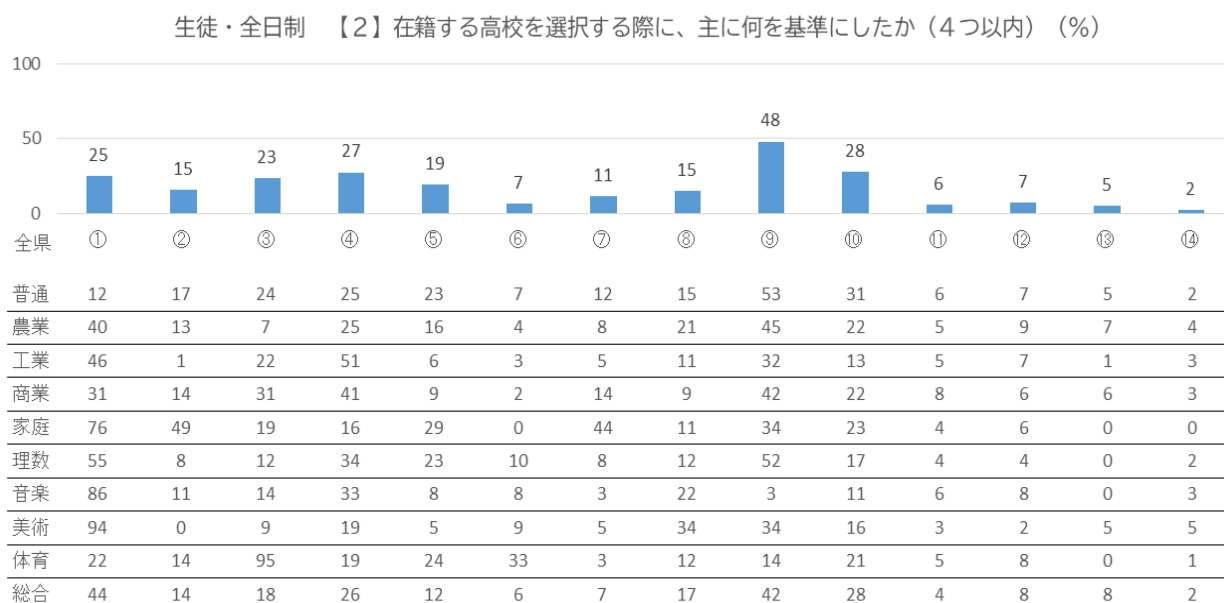
※体育：「⑤友人・先輩(59%)」の割合が、他学科と比べると高い。

<定時制・通信制>

○「①中学校の先生や中学校での進路相談(定 61%・通 42%)」から在籍校の情報を得ている生徒が最も多く、「④家族・親戚(定 24%・通 22%)」からも多くの生徒が情報を得ている。

【2】高校に入学する前、あなたの在籍する高校を選択する際に、主に何を基準にしましたか。次の中から4つ以内で選んでください。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ①学びたい学科、学習内容 | ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など） |
| ③部活動 | ④高校卒業後の進路 |
| ⑤校風やイメージ | ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ） |
| ⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） | ⑧自分の適性（自分に向いている等） |
| ⑨自分の成績 | ⑩通学時間（自宅からの近さなど） |
| ⑪家族・親戚の出身校または在籍校 | ⑫友人・先輩と同じ学校 |
| ⑬制服 | ⑭その他 |



<全日制>

○「⑨自分の成績(48%)」を基準に、「⑩通学時間(28%)」や「④高校卒業後の進路(27%)」等を踏まえて在籍校を選択した生徒が多い。

※家庭・音楽・美術：「①学びたい学科、学習内容(家 76%・音 86%・美 94%)」の割合が高い。

※体育：「③部活動(95%)」や「⑥学校の施設・設備(33%)」の割合が、他学科と比べると高い。

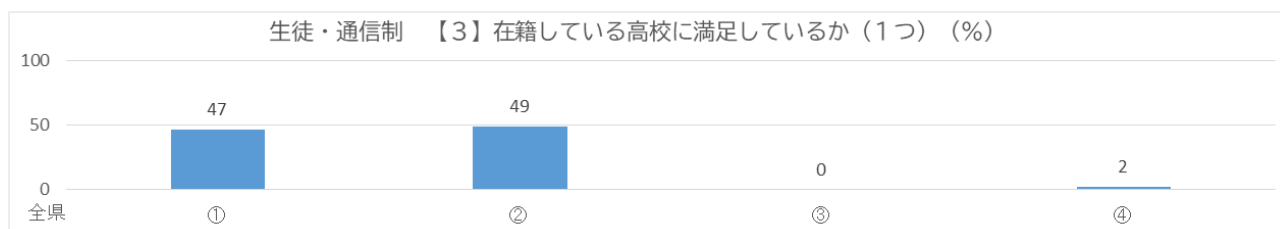
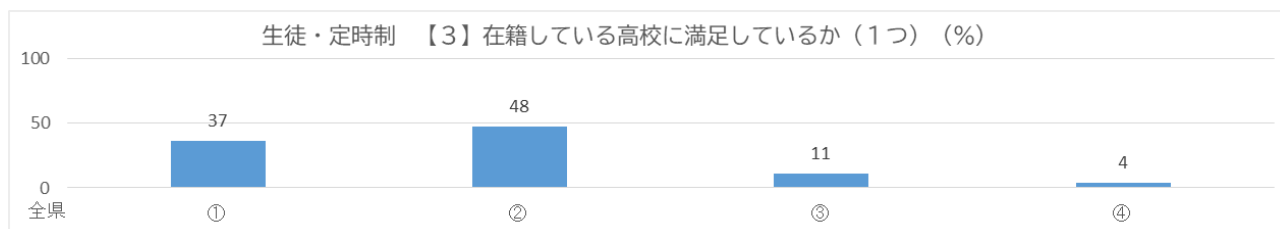
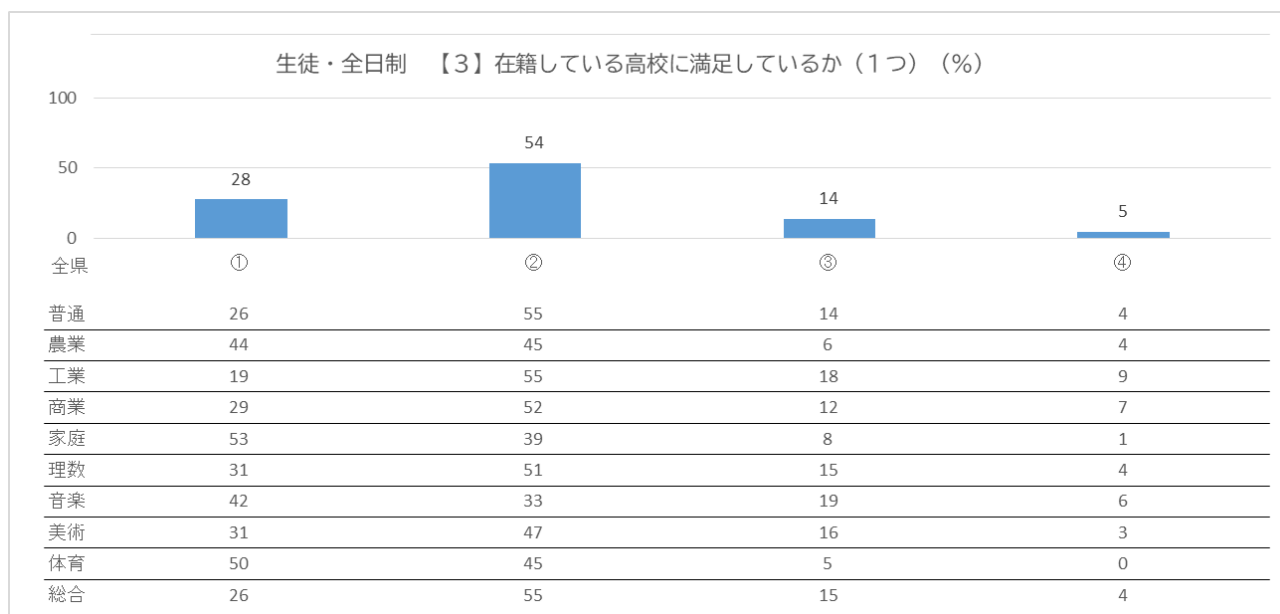
※音楽：「⑨自分の成績(3%)」の割合が、他学科と比べると低い。

<定時制・通信制>

○「⑧自分の適性(定 47%・通 62%)」や「⑨自分の成績(定 32%・通 24%)」を基準に在籍校を選択した生徒が多い。

【3】あなたは在籍している高校について満足していますか。次の中から1つ選んでください。

①満足している ②ある程度満足している ③どちらかと言えば不満である ④不満である



<全日制>

○82%(①+②)の生徒が満足している。

※体育：満足度が最も高い(95%)。

<定時制>

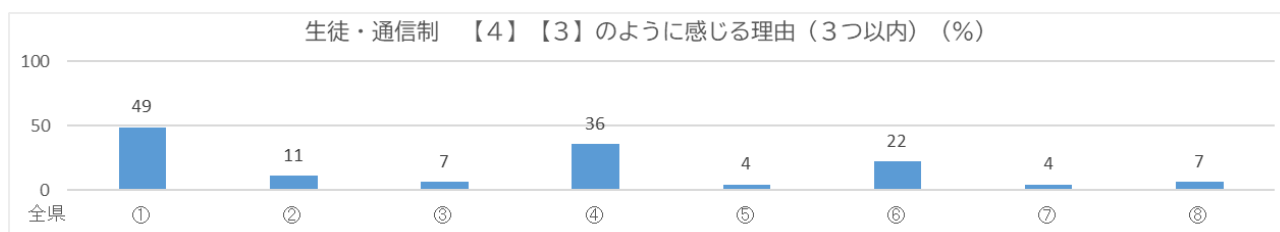
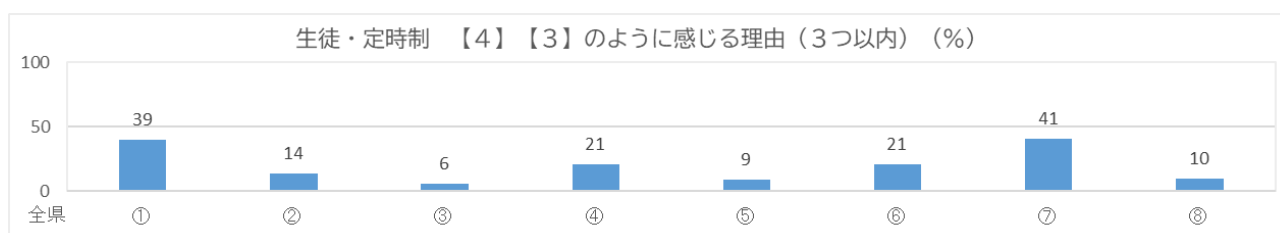
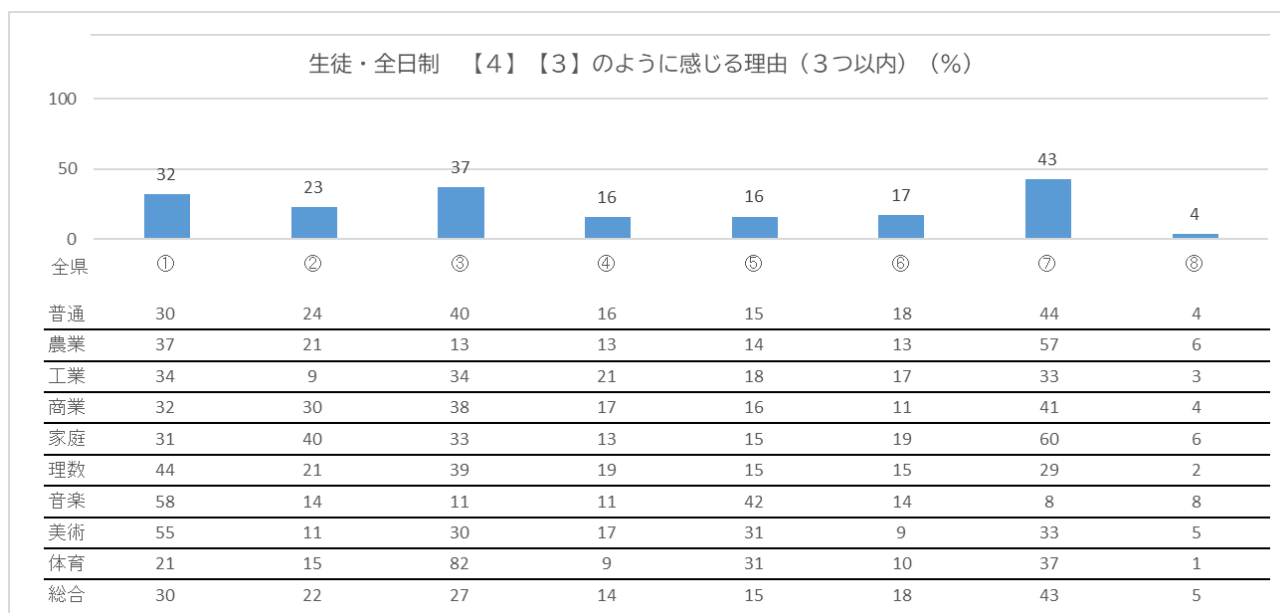
○85%(①+②)の生徒が満足している。

<通信制>

○96%(①+②)の生徒が満足している。

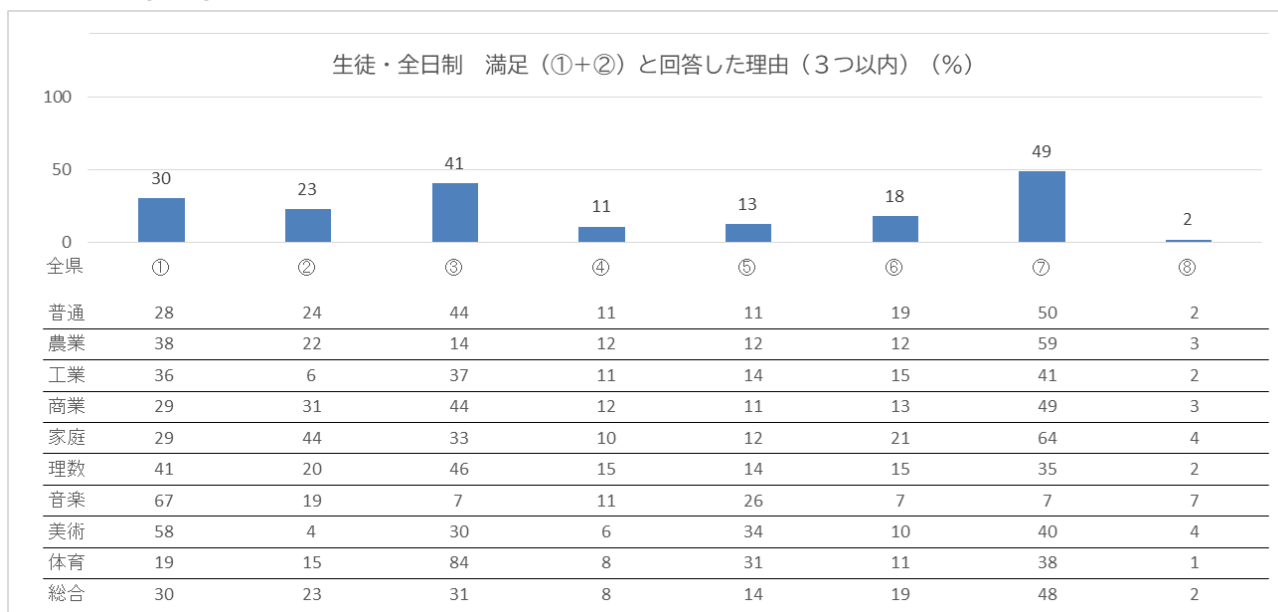
【4】【3】で、あなたがそのように感じる理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①授業 ②学校行事 ③部活動 ④校風や教育方針
⑤学校の施設・設備 ⑥通学時間 ⑦友人や先輩との関係 ⑧その他



<補足>

◇満足(①+②)と回答した理由(全日制)

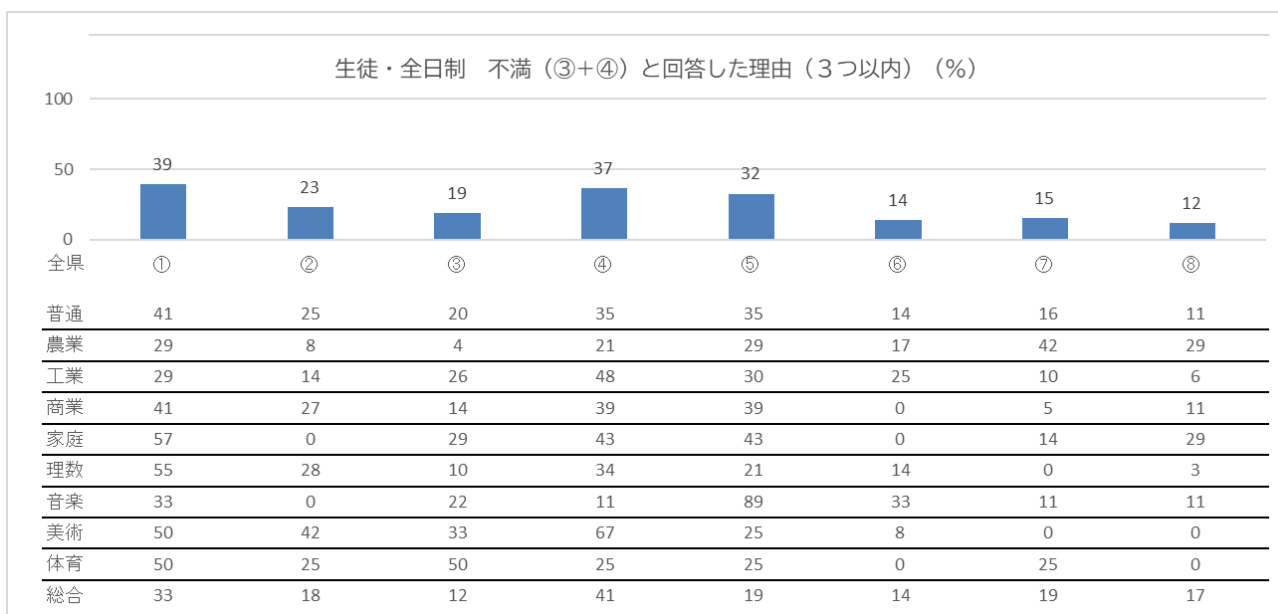


○「⑦友人や先輩との関係(49%)」、「③部活動(41%)」、「①授業(30%)」に満足しているという回答が多い。

※理数・音楽・美術：「①授業(理 41%・音 67%・美 58%)」の割合が高い。

※体育：「③部活動(84%)」の割合が最も高い。

◇不満(③+④)と回答した理由(全日制)



○「①授業(39%)」、「④校風や教育方針(37%)」、「⑤学校の施設・設備(32%)」に不満があるという回答が多い。

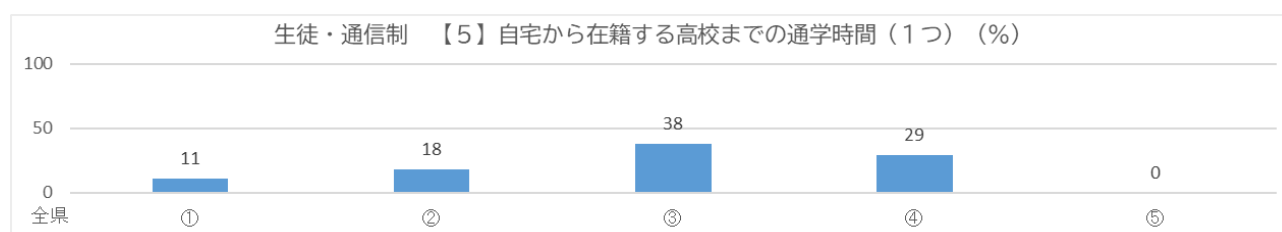
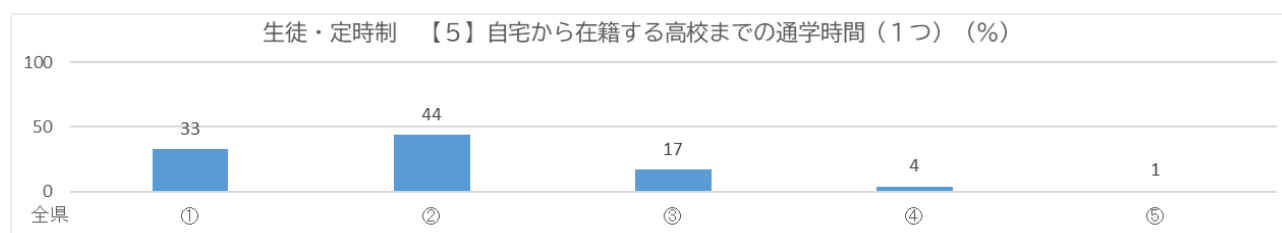
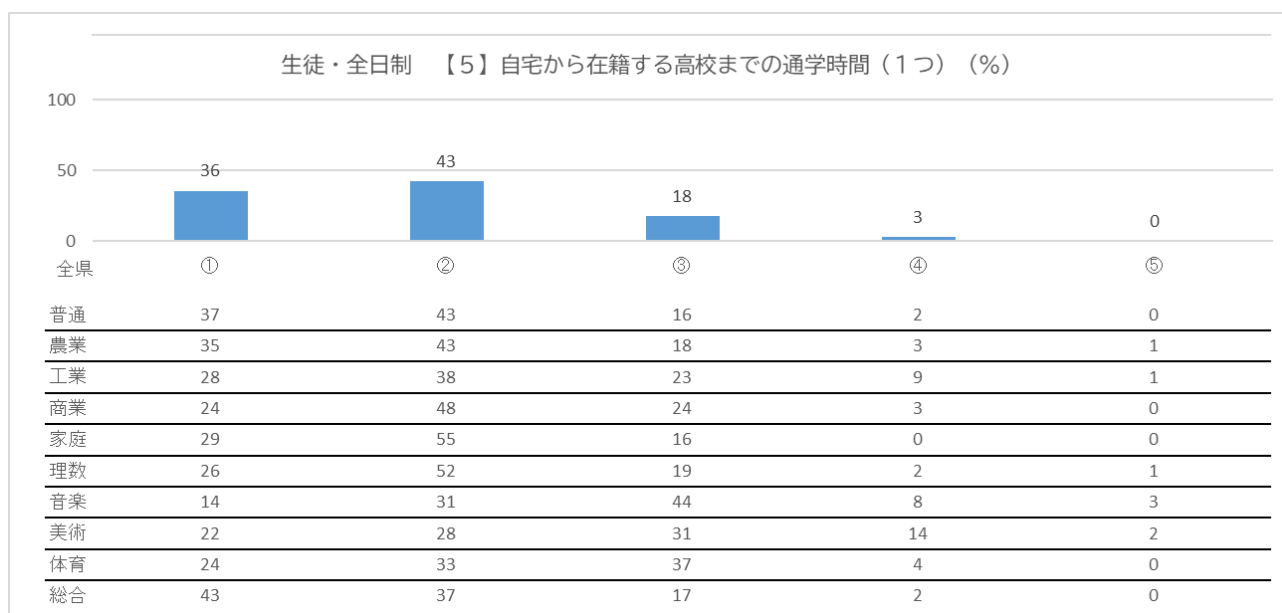
※最も「①授業」の割合が最も高いのは家庭(57%)

※農業：「⑦友人や先輩との関係(42%)」の割合が高い。

※音楽：「⑤学校の施設・設備(89%)」の割合が高い。

【5】あなたの自宅から在籍する高校までの通学時間はどれくらいですか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分未満 ②30分以上1時間未満 ③1時間以上1時間30分未満
④1時間30分以上2時間未満 ⑤2時間以上



<全日制>

○79%の生徒が1時間未満(①+②)の通学時間であり、その中でも「②30分以上1時間未満(43%)」と回答した生徒が最も多い。

※音楽・美術・体育：「③1時間以上1時間30分未満」の割合が最も高い。
(音 44%・美 31%・体 37%)

※総合：「①30分未満(43%)」の割合が最も高い。

<定時制>

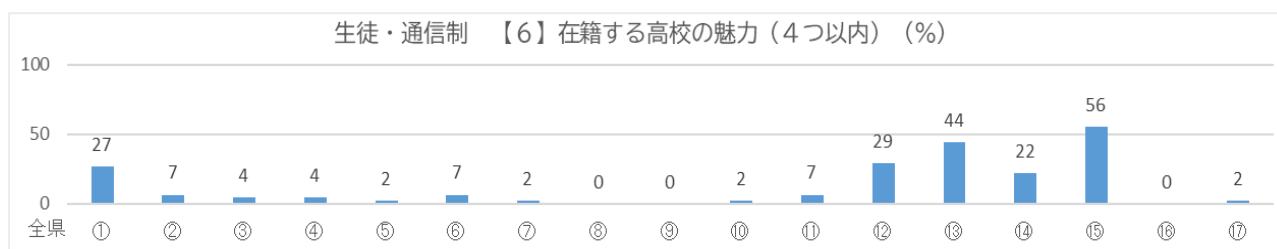
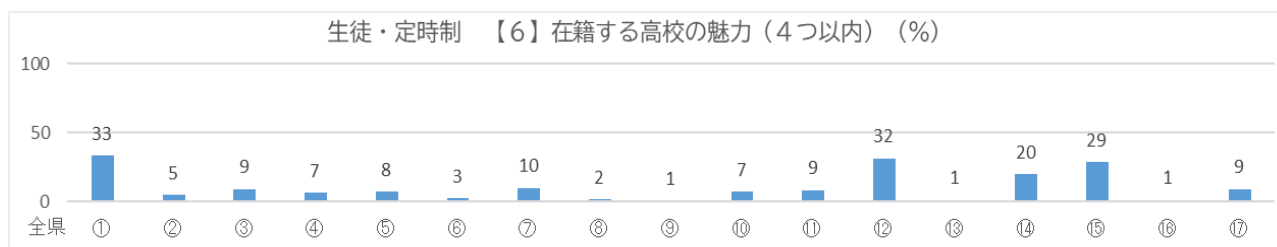
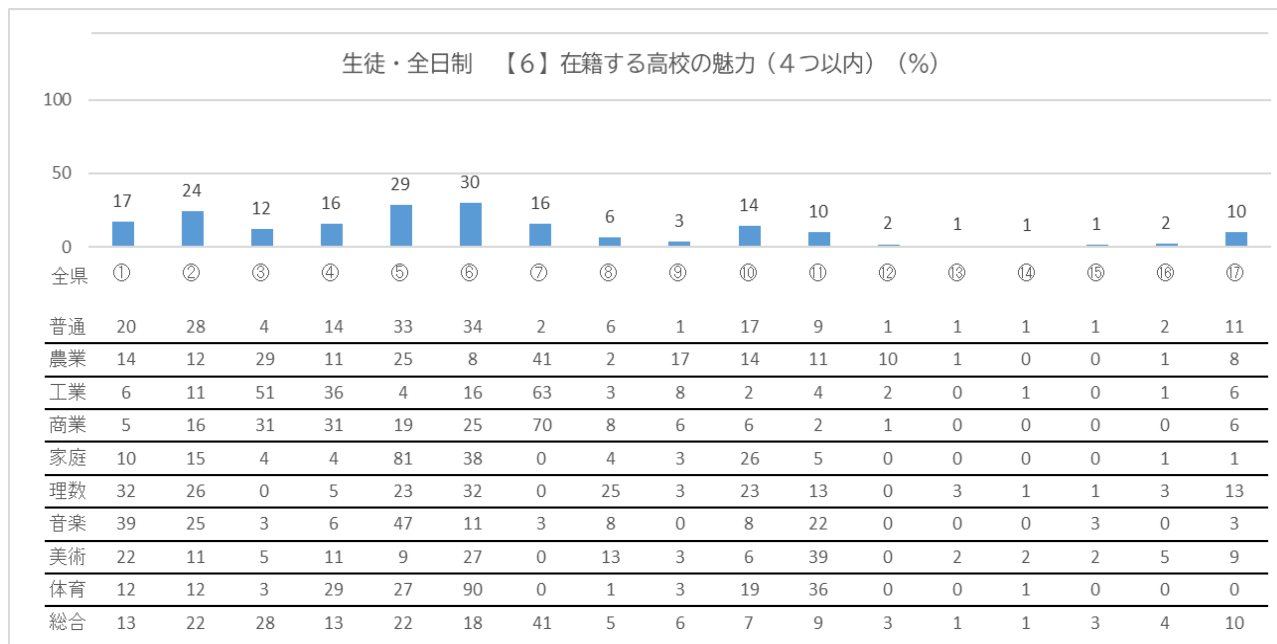
○77%の生徒が1時間未満(①+②)の通学時間であり、その中でも「②30分以上1時間未満(44%)」と回答した生徒が最も多い。

<通信制>

○「③1時間以上1時間30分未満(38%)」と回答した生徒が最も多い。

【6】現在、あなたの在籍する高校の魅力はどのようなことだと思いますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ①学習指導の充実(少人数授業、補習等) | ②進学に向けた指導 |
| ③就職に向けた指導 | ④生活面の規律(あいさつなど) |
| ⑤学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行等) | ⑥部活動 |
| ⑦資格取得や検定合格 | ⑧大学・短期大学との連携 |
| ⑨地域や企業との連携 | ⑩校風やイメージ |
| ⑪学校の施設・設備 | ⑫働きながら学べる |
| ⑬自宅での学習を中心として学べる | ⑭全日制に比べて経済的な負担が少ない |
| ⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる | ⑯その他 |
| ⑰魅力はない | |



<全日制>

○「⑥部活動(30%)」や「⑤学校行事(29%)」に魅力を感じている生徒が多い。

※農業・工業・商業・総合：「⑦資格取得や検定合格(農41%・工63%・商70%・総41%)」と「③就職に向けた指導(農29%・工51%・商31%・総28%)」の割合が高い。

<定時制>

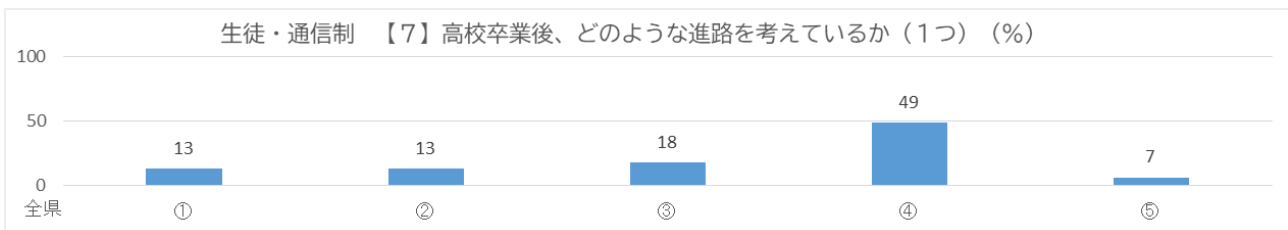
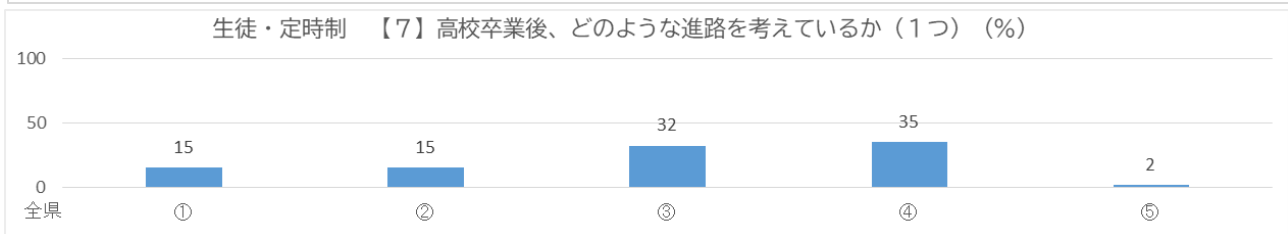
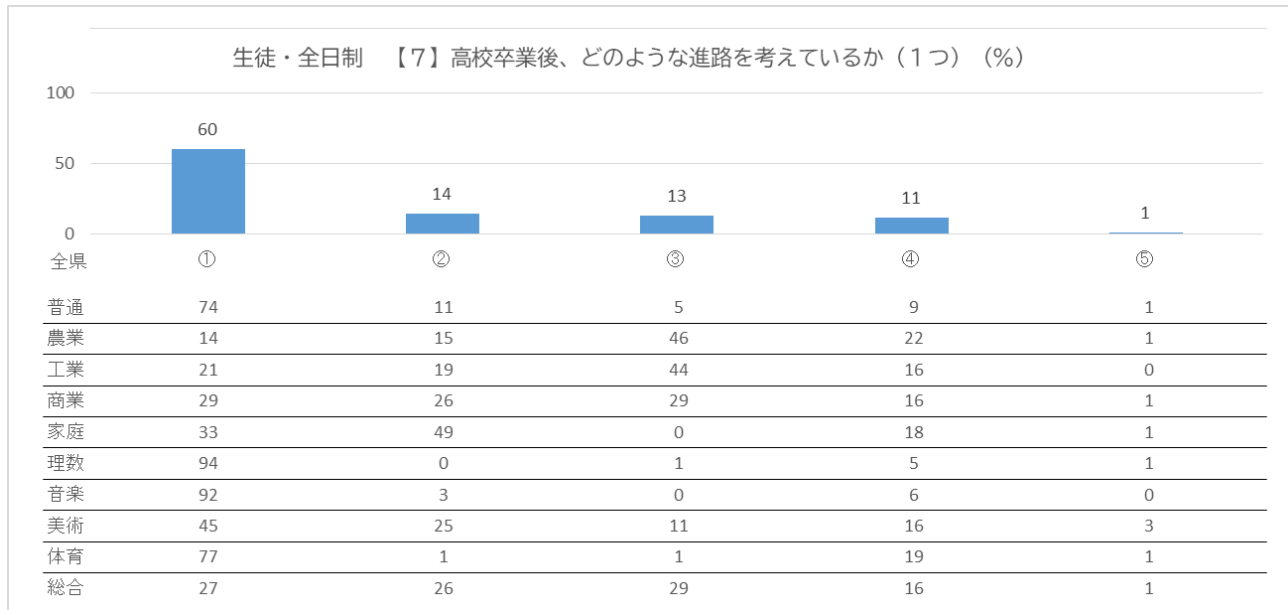
○「①学習指導の充実(33%)」や「⑫働きながら学べる(32%)」ことに魅力を感じている生徒が多い。

<通信制>

○「⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる(56%)」ことに魅力を感じている生徒が多い。

【7】あなたは、高校卒業後、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他



<全日制>

○「①大学・短期大学」への進学を考えている生徒が最も多い(60%)。

※普通科系：「①大学・短期大学」の割合が高い(理 94%・音 92%・体 77%・普 74%)。

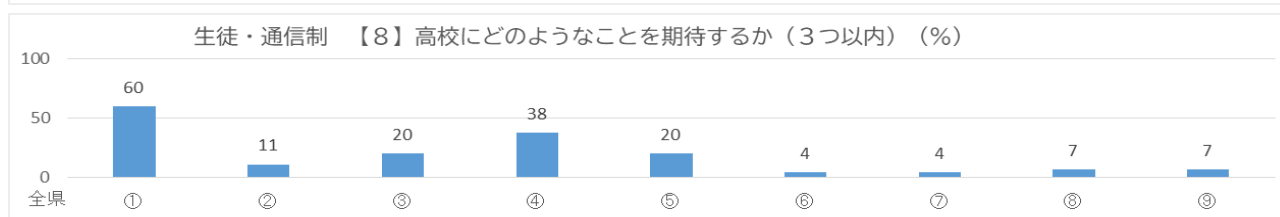
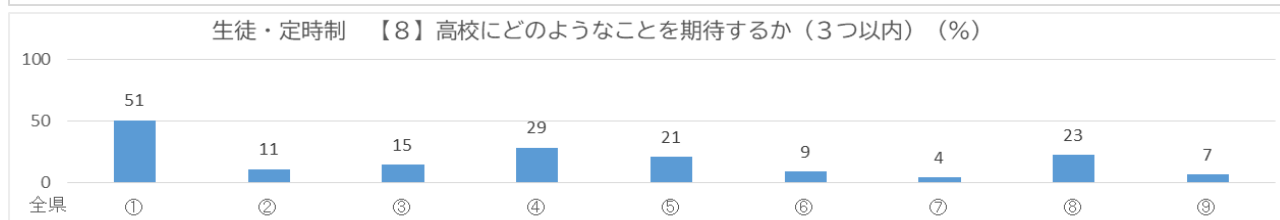
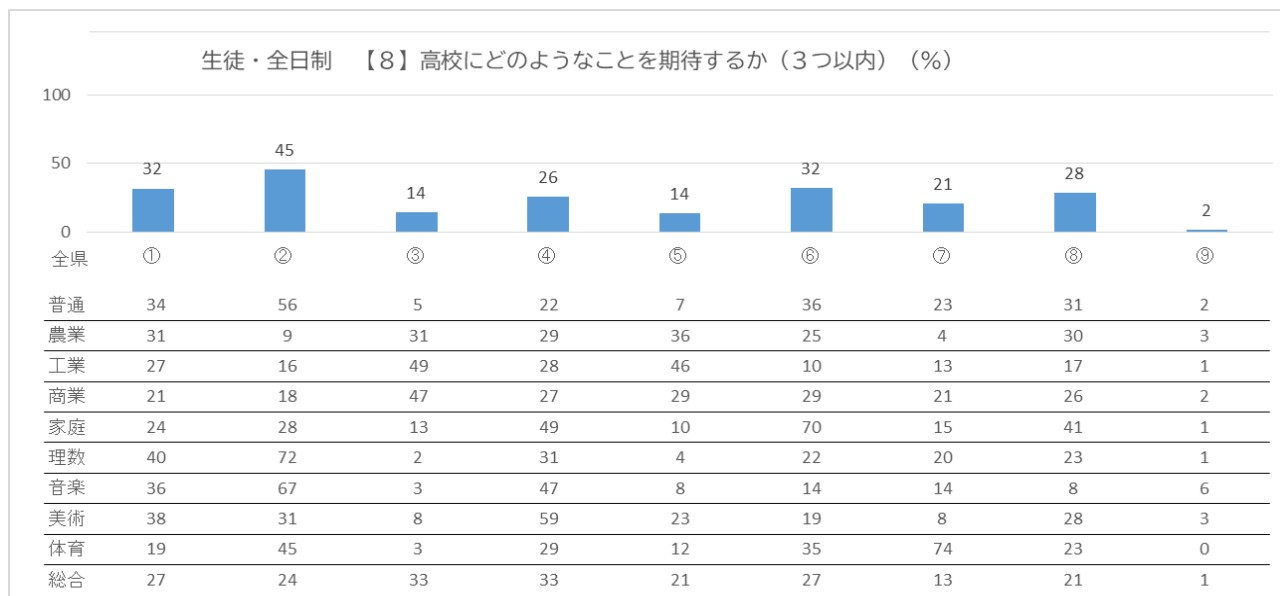
※職業系：「③就職」の割合が高い(農 46%・工 44%・商 29%・総 29%)。

<定時制・通信制>

○「④まだ考えていない」と回答した生徒が多い(定 35%・通 49%)。

【8】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
- ②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
- ③資格につながる学習ができる。
- ④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
- ⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
- ⑥学校行事が充実している。
- ⑦部活動が盛んである。
- ⑧多くの友人をつくることできる。
- ⑨その他



<全日制>

- 「①基礎的・基本的な学力(32%)」から「②大学等への進学のための学力(45%)」を身に付けたいと考えている生徒が多い。
- 「⑥学校行事が充実している(32%)」と回答した生徒も多い。
 ※農業・工業・商業・総合：「③資格につながる学習ができる(農31%・工49%・商47%・総33%)」や「⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる(農36%・工46%・商29%・総21%)」の割合が高い。
 ※体育：「⑦部活動が盛んである(74%)」の割合が高い。

<定時制・通信制>

- 「①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる」と回答した生徒が多い(定51%・通60%)。

【9】これからの滋賀の県立高校又はあなたの在籍する学校が、さらに魅力と活力ある学校になるためには何が必要だと思いますか。書いてください。(記述式)

○主な意見

＜施設・設備等について＞

- ・施設、設備が整っており、教室やトイレなどがきれいな学校。
- ・校舎をリニューアルしてほしい。
- ・通信環境が整備された学校。
- ・食堂や売店がある学校。
- ・自習室を設置してほしい。

＜学習について＞

- ・選択科目を増やしてほしい。
- ・少人数指導を充実してほしい。
- ・丁寧で分かりやすい授業。
- ・大学に進学するための力を身に付けることができる授業。
- ・大学受験について丁寧にアドバイスなどをもらいたい。
- ・日常的に補習等の時間を設け、学習に不安を抱える人が安心して授業を受けられるようにする。
- ・資格を取る勉強を増やしてほしい。
- ・専門知識をより深く学べるようにしてほしい。
- ・多様な専門学科をつくる。
- ・リモート授業が、コロナ休校中に数回行われた。分かり易く便利だったので、復習用や補足用に導入してほしい。インターネットを活用した学習を増やしてほしい。
- ・タブレットでの学習を推進してほしい。
- ・他の学校とは違う独特な授業や行事があればいいと思う。

＜部活動・学校行事等の学校生活について＞

- ・部活動や学校行事が充実した学校。
- ・部活動の種類を増やしてほしい。強い部活動がある。
- ・勉強と部活動の両立ができるように、部活動の練習時間を適切に設定してほしい。
- ・文化祭や体育祭では、他校や地域の子どもたちを呼んで盛り上げる。
- ・高校生活の中で将来のことをじっくり考えたい。
- ・地域や他校との交流を深める。
- ・いじめがなく楽しい学校。
- ・先生と生徒の関わりがもっと増えて、お互いの信頼が高まればいいと思う。

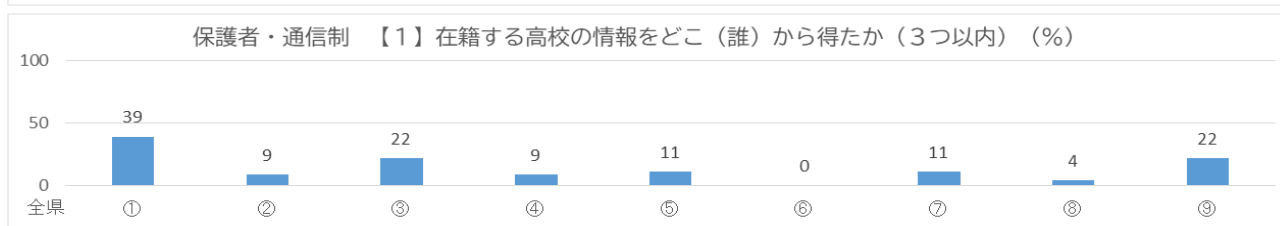
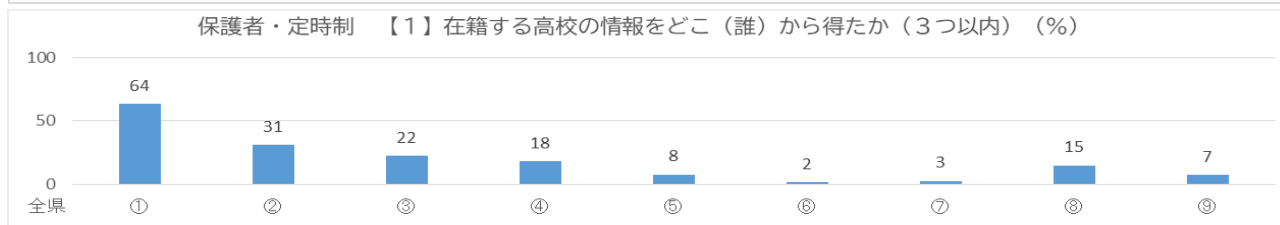
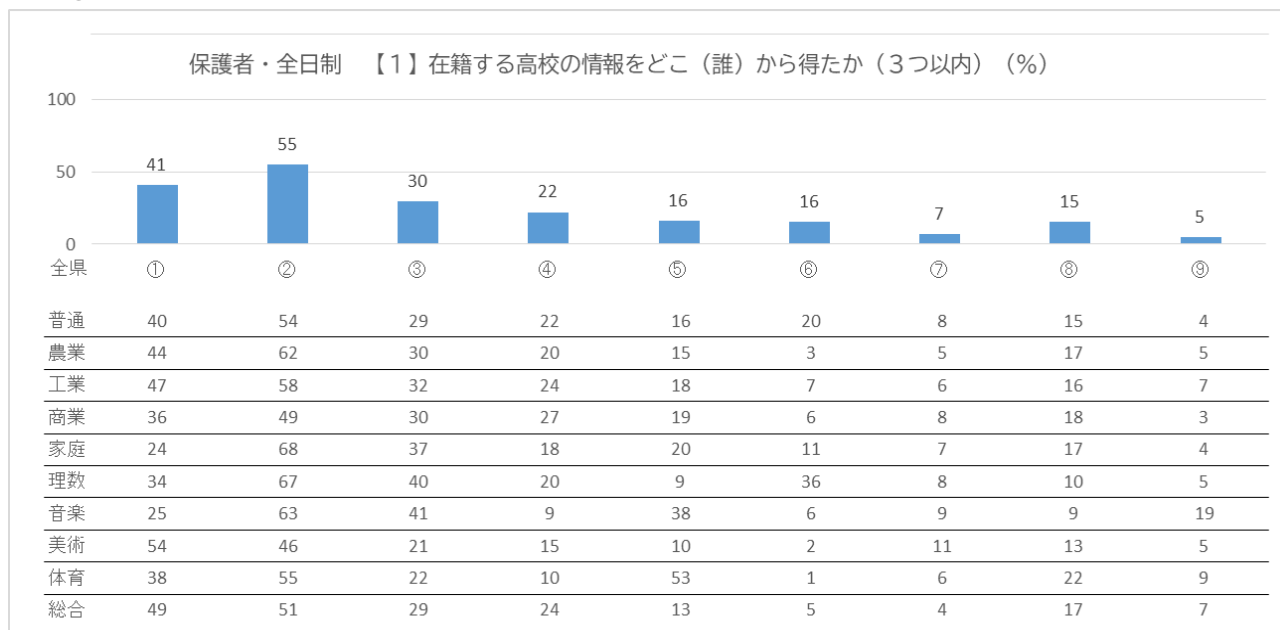
＜その他＞

- ・それぞれの個性を発揮できる学校。
- ・規律を守り挨拶ができる学校。
- ・時代に合わせた校則にする。理解できない校則は廃止する。
- ・アルバイトを認めてほしい。
- ・スマホを自由に使えるようにしてほしい。
- ・かわいい制服にする。
- ・制服だけでは体温調整が難しいので、パーカーやセーター等の重ね着を認めてほしい。
- ・生徒の意見に耳を傾けてほしい。
- ・電車の本数を増やしてほしい。
- ・学校の良さや特徴を積極的に宣伝して、県内の生徒により多く伝えてほしい。
- ・ホームページを見やすくする。 等

高等学校 保護者アンケート結果

【1】あなたは、お子様が入学する前、お子様の在籍高校の情報を主にどこ（誰）から得ることができましたか。次の中から3つ以内で選んでください。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| ①中学校の先生や中学校での進路相談 | ②高校での体験入学、学校説明会 |
| ③高校のホームページ、パンフレット | ④家族・親戚 |
| ⑤お子様の友人・先輩 | ⑥学習塾 |
| ⑦インターネット（高校のホームページ以外の情報） | ⑧お子様本人 |
| ⑨その他 | |



<全日制>

- 「②高校での体験入学、学校説明会(55%)」から在籍校の情報を得ている保護者が最も多く、「①中学校の先生や中学校での進路相談(41%)」からも多くの保護者が情報を得ている。

※理数：「⑥学習塾(36%)」の割合が、他学科と比べて高い。

※体育：「⑤お子様の友人・先輩(53%)」の割合が、他学科と比べて高い。

<定時制>

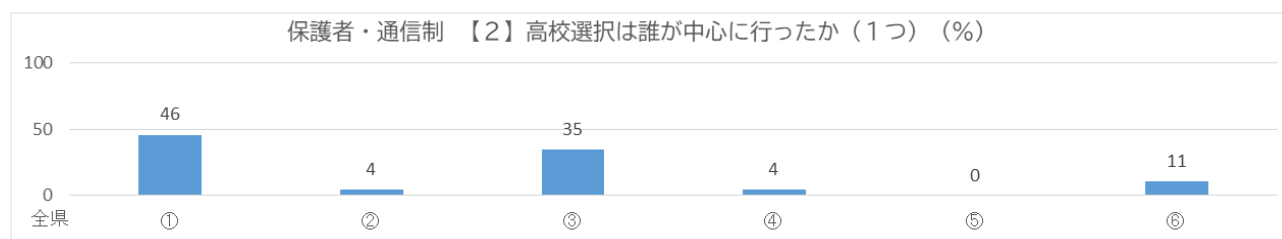
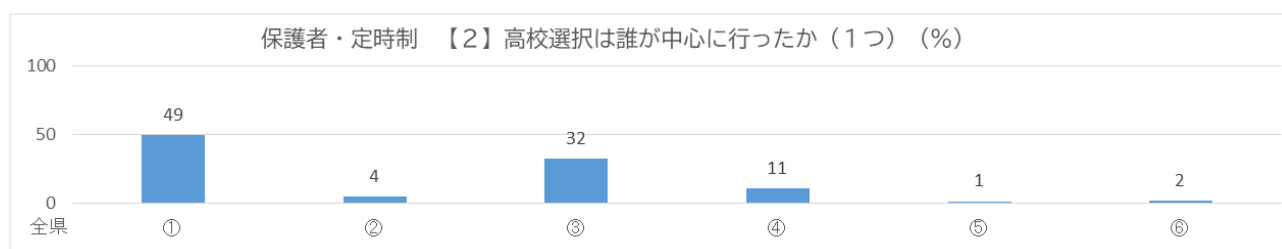
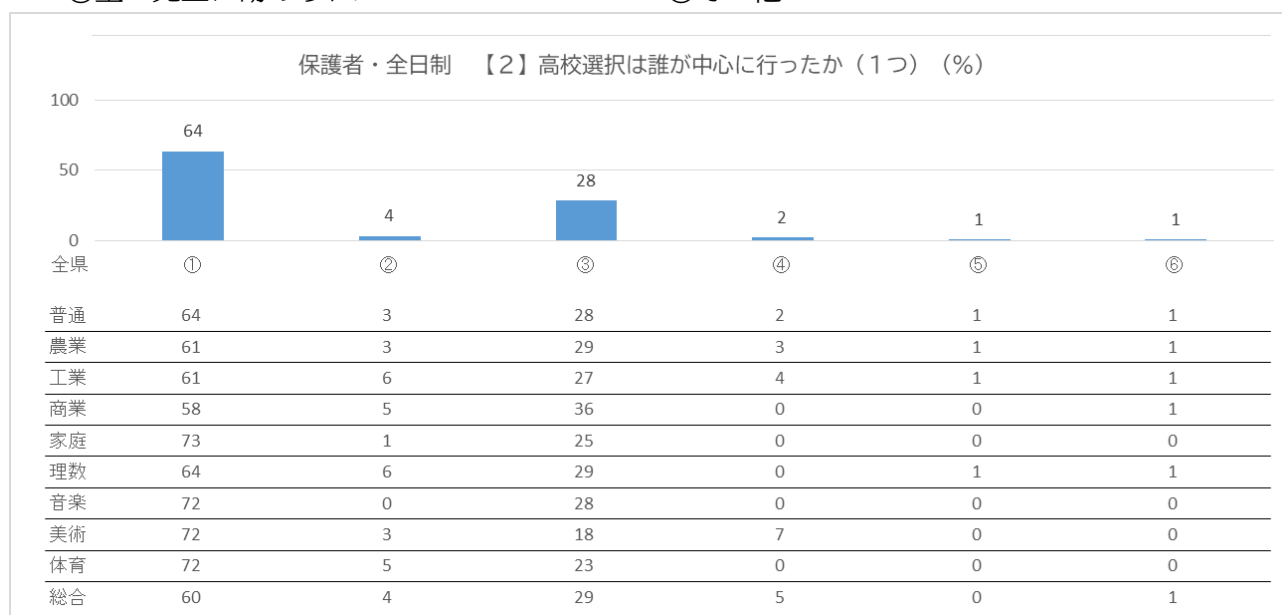
- 「①中学校の先生や中学校での進路相談(64%)」から在籍校の情報を得ている保護者が最も多く、「②高校での体験入学や学校説明会(31%)」からも多くの保護者が情報を得ている。

<通信制>

- 「①中学校の先生や中学校での進路相談(39%)」から在籍校の情報を得ている保護者が最も多い。
- 全日制・定時制と異なり、「②高校での体験入学、学校説明会(9%)」から情報を得ている保護者は少ない。

【2】お子様の在籍する高校の選択は誰が中心になって行いましたか。最もあてはまるものを次の中から1つ選んでください。

- | | |
|---------------|---------------|
| ①子どもの希望を尊重した | ②親が勧めた |
| ③子どもと親でよく相談した | ④中学校の担任に勧められた |
| ⑤塾の先生に勧められた | ⑥その他 |



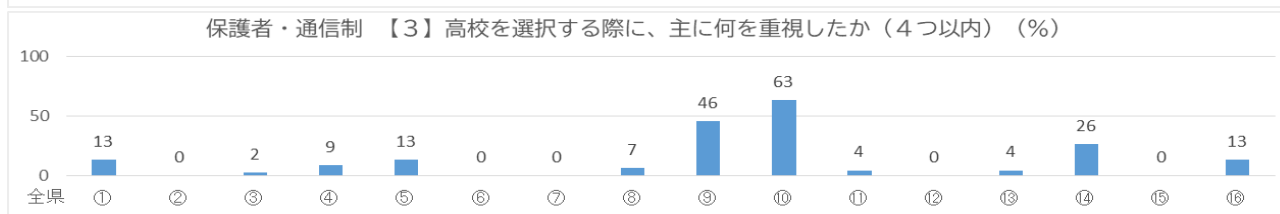
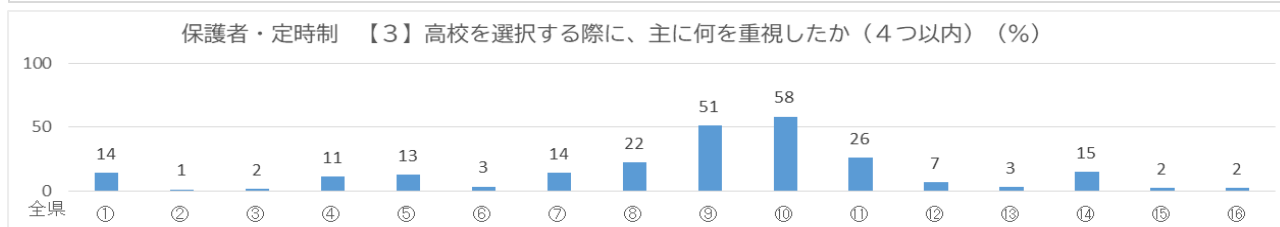
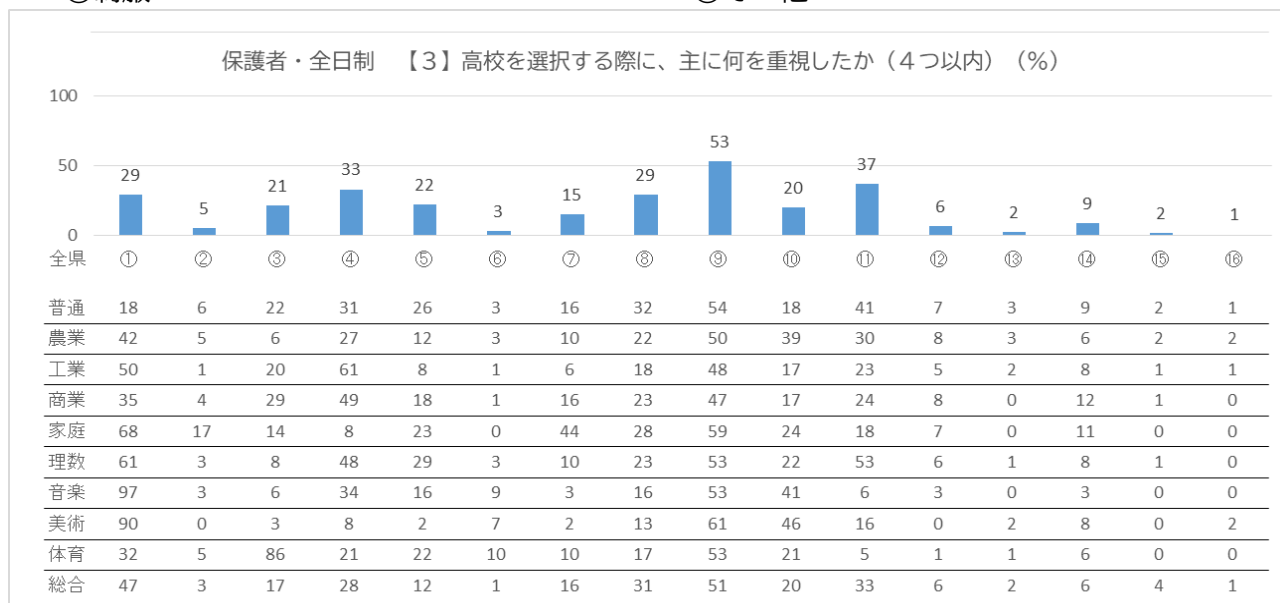
<全日制・定時制・通信制>

○「③子どもと相談(全 28%・定 32%・通 35%)」の上、「①子どもの希望を尊重(全 64%・定 49%・通 46%)」して高校を選択した保護者が多い。

※定時制と全日制美術科では「④中学校の担任に勧められた(定 11%・美 7%)」の割合が、他と比べて若干高い。

【3】あなたは、お子様が高校を選択する際に、主に何を重視しましたか。次の中から4つ以内で選んでください。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ①学びたい学科、学習内容 | ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など） |
| ③部活動 | ④高校卒業後の進路 |
| ⑤校風やイメージ | ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ） |
| ⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） | ⑧通学時間（自宅からの近さなど） |
| ⑨お子様の希望 | ⑩お子様の適性（お子様に向いている等） |
| ⑪お子様の成績 | ⑫お子様の家族・親戚の出身校または在籍校 |
| ⑬お子様の友人・先輩と同じ学校 | ⑭経済的負担 |
| ⑮制服 | ⑯その他 |



<全日制>

○「⑨子どもの希望を尊重(53%)」した上で、「⑪子どもの成績(37%)」や「④高校卒業後の進路(33%)」等を踏まえて在籍校を選択した保護者が多い。

※普通・理数：「⑪お子様の成績(普 41%・理 53%)」の割合が、他学科と比べると高い。

※音楽：「⑪お子様の成績(6%)」の割合が、他学科と比べると低い。

※家庭・理数・音楽・美術：「①学びたい学科、学習内容」の割合が高い。

(家 68%・理 61%・音 97%・美 90%)

※工業・商業：「④高校卒業後の進路(工 61%・商 49%)」の割合が高い。

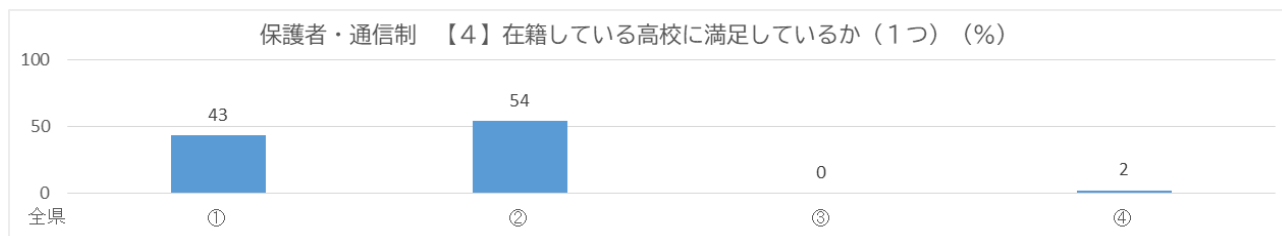
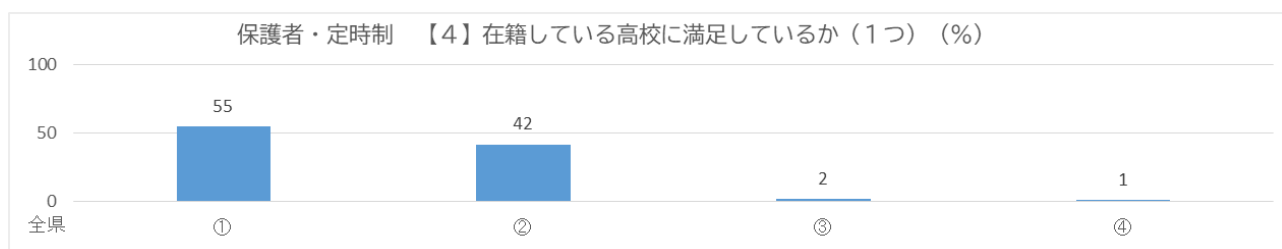
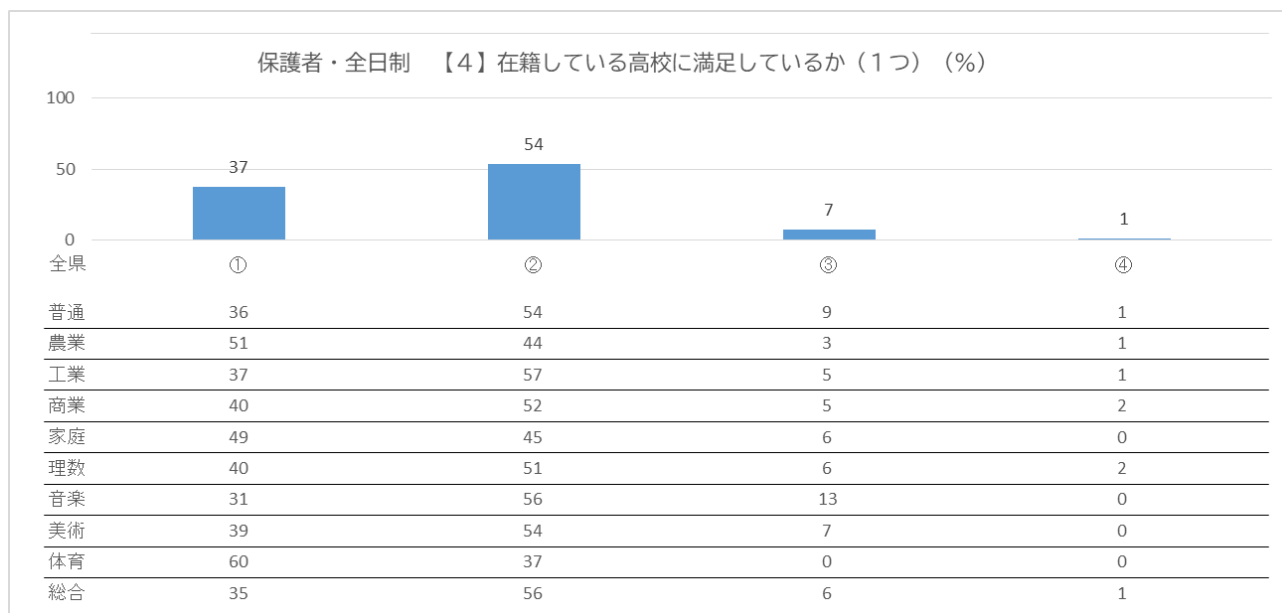
※体育：「③部活動(86%)」の割合が高い。

<定時制・通信制>

○「⑩子どもの適性(定 58%・通 63%)」や「⑨子どもの希望(定 51%・通 46%)」を考慮して在籍校を選択した保護者が多い。

【4】 あなたはお子様が在籍している高校について満足していますか。次の中から1つ選んでください。

①満足している ②ある程度満足している ③どちらかと言えば不満である ④不満である



<全日制>

○91%(①+②)の保護者が満足している。

※体育：満足度が最も高い(97%)。

<定時制>

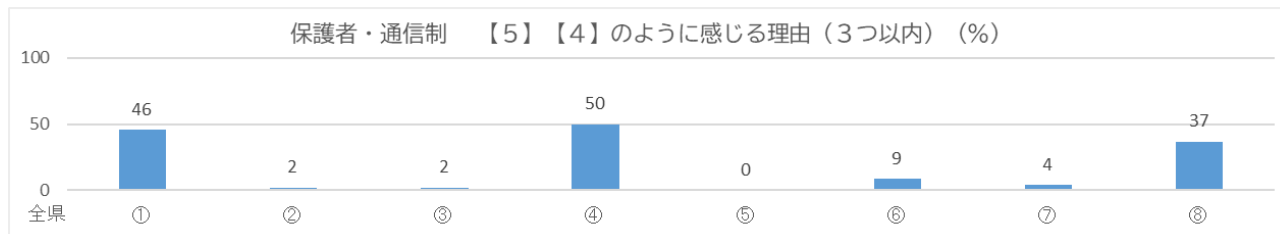
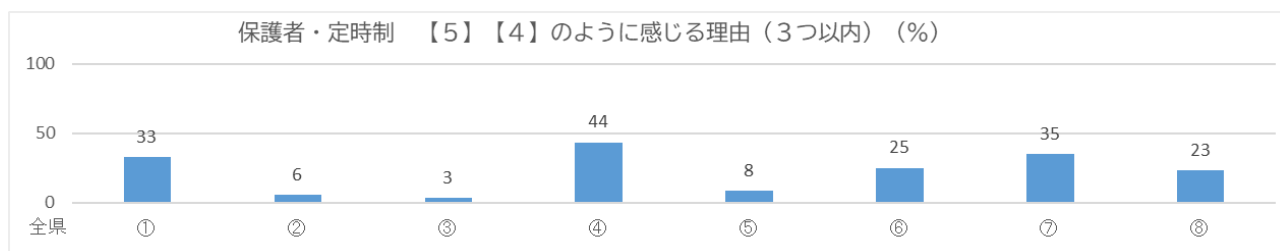
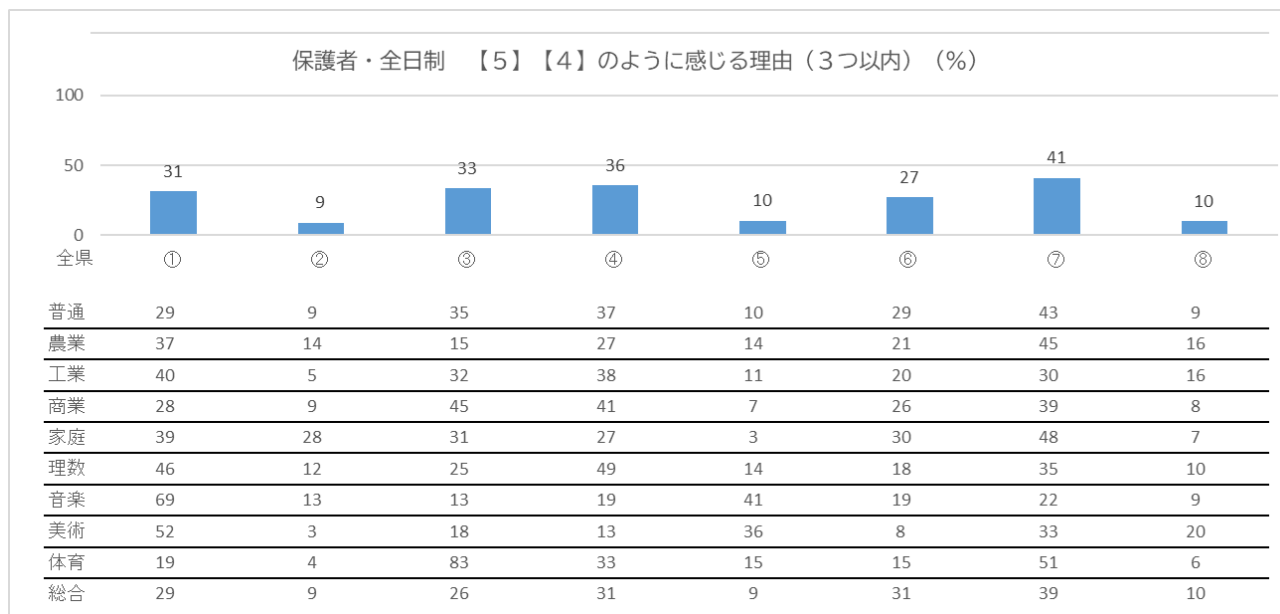
○97%(①+②)の保護者が満足している。

<通信制>

○97%(①+②)の保護者が満足している。

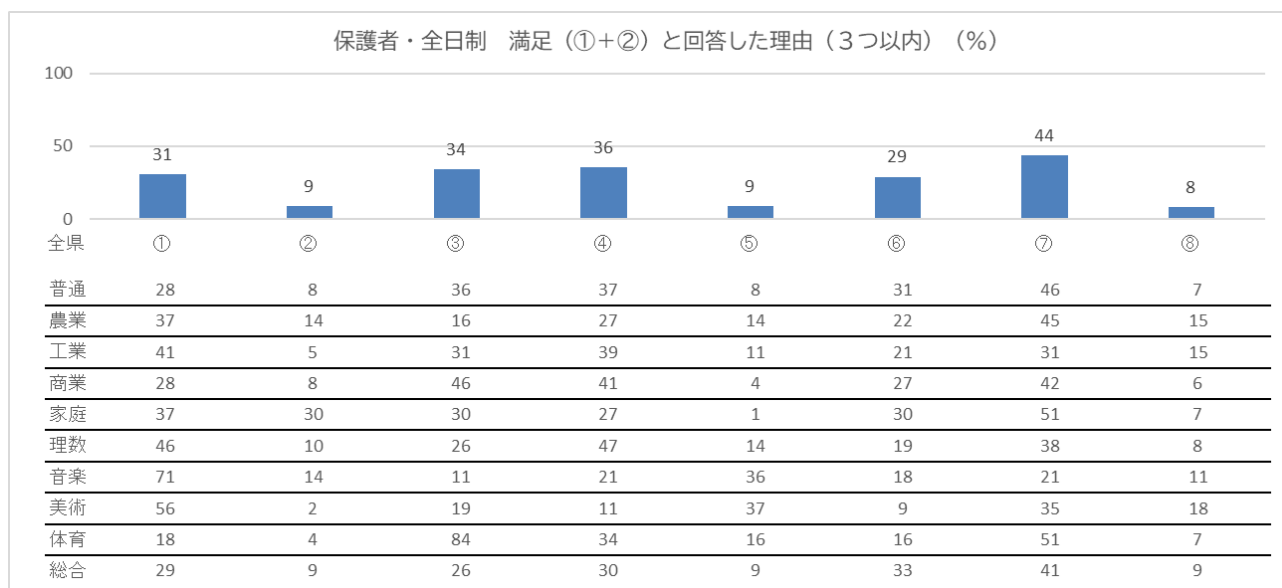
【5】【4】で、あなたがそのように感じる理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①授業 ②学校行事 ③部活動 ④校風や教育方針
⑤学校の施設・設備 ⑥通学時間 ⑦友人や先輩との関係 ⑧その他



<補足>

◇満足（①+②）と回答した理由（全日制）



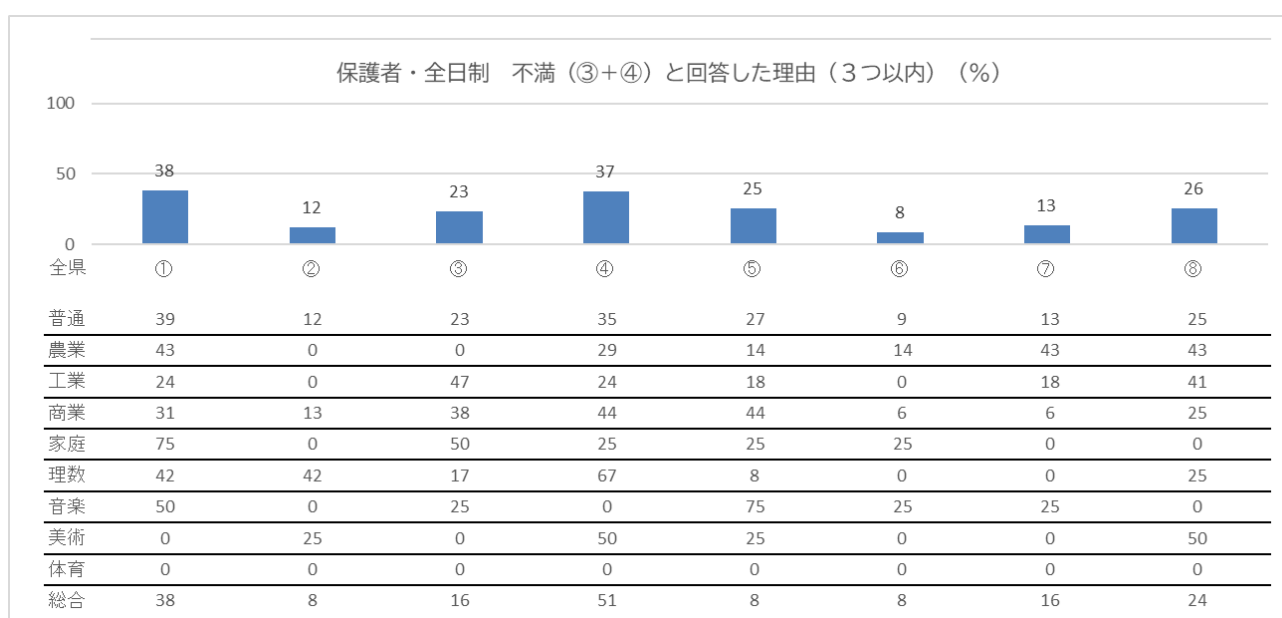
○「⑦友人や先輩との関係(44%)」、「④校風や教育方針(36%)」、「③部活動(34%)」に満足しているという回答が多い。

※工業・理数・音楽・美術：「①授業(工 41%・理 46%・音 71%・美 56%)」の割合が高い。

※体育：「③部活動(84%)」の割合が最も高い。

※その他：「先生が親身になって指導してくれる」等

◇不満（③+④）と回答した理由（全日制）



○「①授業(38%)」、「④校風や教育方針(37%)」、「⑤学校の施設・設備(25%)」に不満があるという回答が多い(⑧その他 26%)。

※最も「①授業」の割合が高いのは家庭(75%)

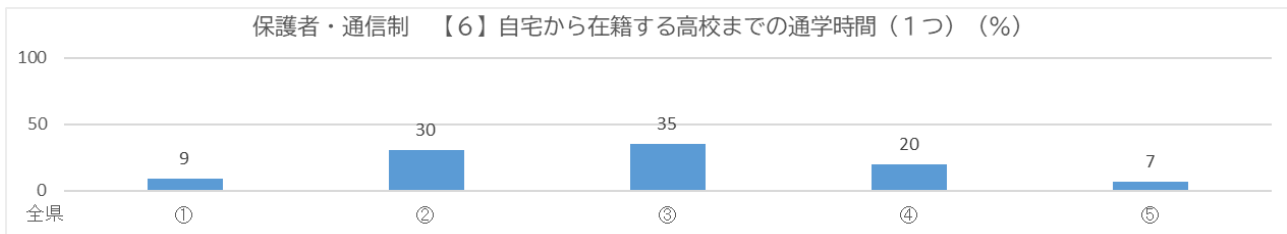
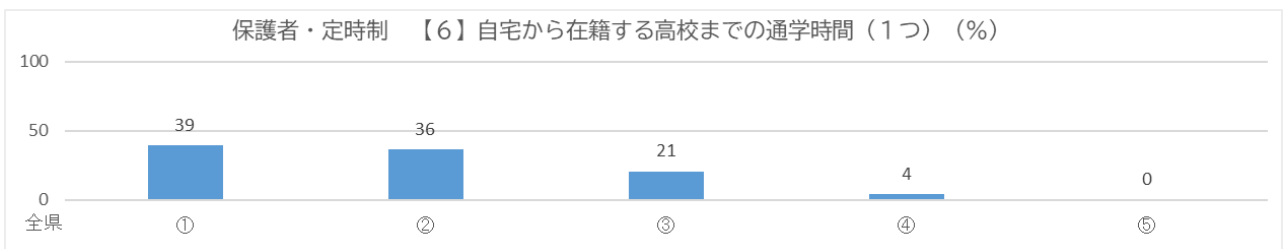
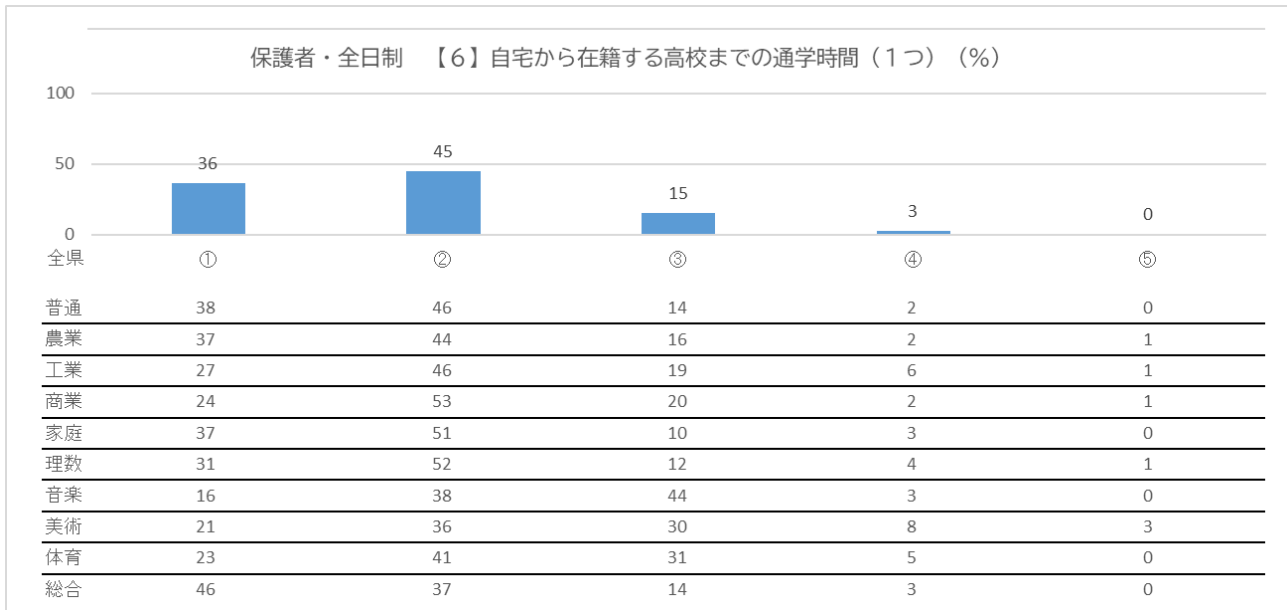
※農業：「⑦友人や先輩との関係(43%)」の割合が高い。

※音楽：「⑤学校の施設・設備(75%)」の割合が高い。

※その他：「適切な指導をしていない先生がいる」等

【6】あなたのお子様が在籍する高校までの通学時間はどれくらいですか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分未満 ②30分以上1時間未満 ③1時間以上1時間30分未満
④1時間30分以上2時間未満 ⑤2時間以上



<全日制・定時制>

○「②30分以上1時間未満(全45%・定36%)」と回答した保護者が最も多い。

※音楽：「③1時間以上1時間30分未満(44%)」の割合が最も高い。

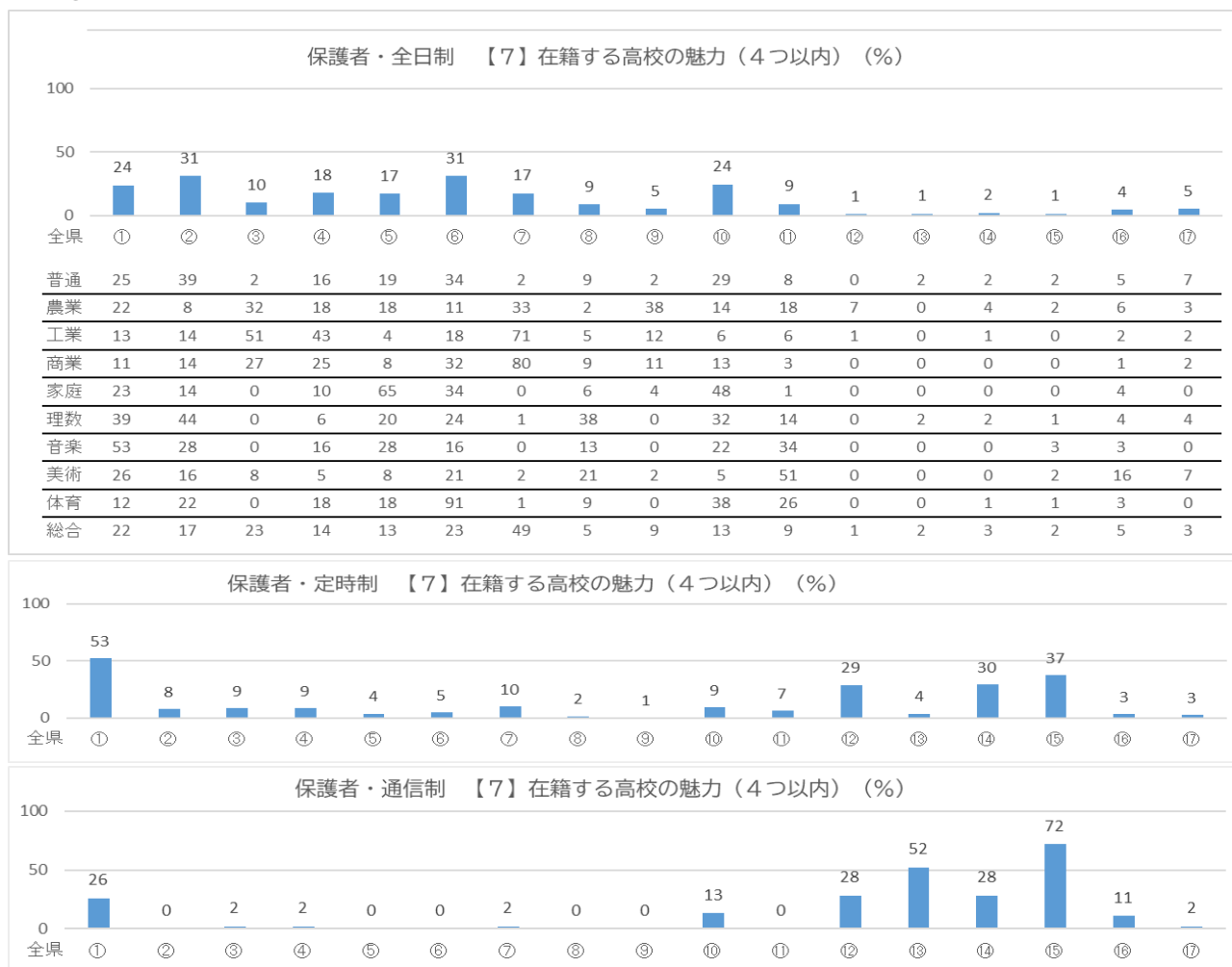
※総合：「①30分未満(46%)」の割合が最も高い。

<通信制>

○「③1時間以上1時間30分未満(35%)」と回答した保護者が最も多い。

【7】あなたは、現在、お子様の在籍高校の魅力はどのようなことだと思いますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ①学習指導の充実(少人数授業、補習等) | ②進学に向けた指導 |
| ③就職に向けた指導 | ④生活面の規律(あいさつなど) |
| ⑤学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行等) | ⑥部活動 |
| ⑦資格取得や検定合格 | ⑧大学・短期大学との連携 |
| ⑨地域や企業との連携 | ⑩校風やイメージ |
| ⑪学校の施設・設備 | ⑫働きながら学べる |
| ⑬自宅での学習を中心として学べる | ⑭全日制に比べて経済的な負担が少ない |
| ⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる | ⑯その他 |
| ⑰魅力はない | |



<全日制>

- 「②進学に向けた指導(31%)」や「⑥部活動(31%)」に魅力を感じている保護者が多い。
- ※農業：「⑨地域や企業との連携(38%)」の割合が最も高い。
- ※工業・商業・総合：「⑦資格取得や検定合格(工 71%・商 80%・総 49%)」の割合が最も高い。
- ※家庭：「⑤学校行事(65%)」の割合が最も高い。
- ※美術：「⑪学校の施設・設備(51%)」の割合が最も高い。

<定時制>

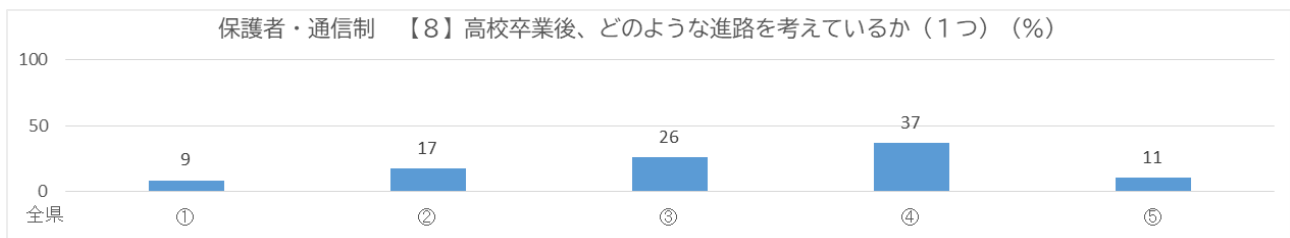
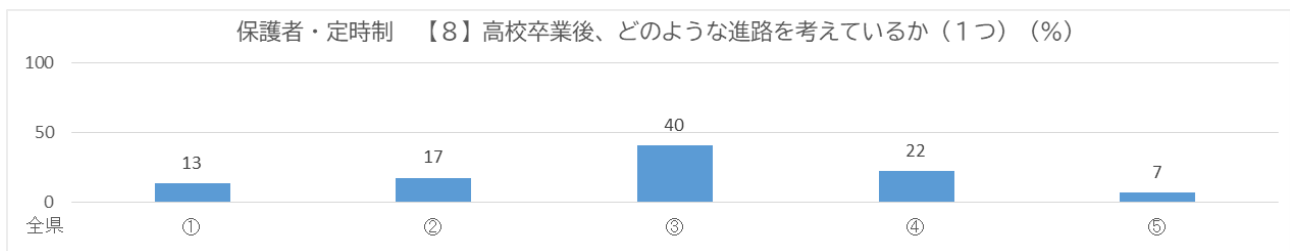
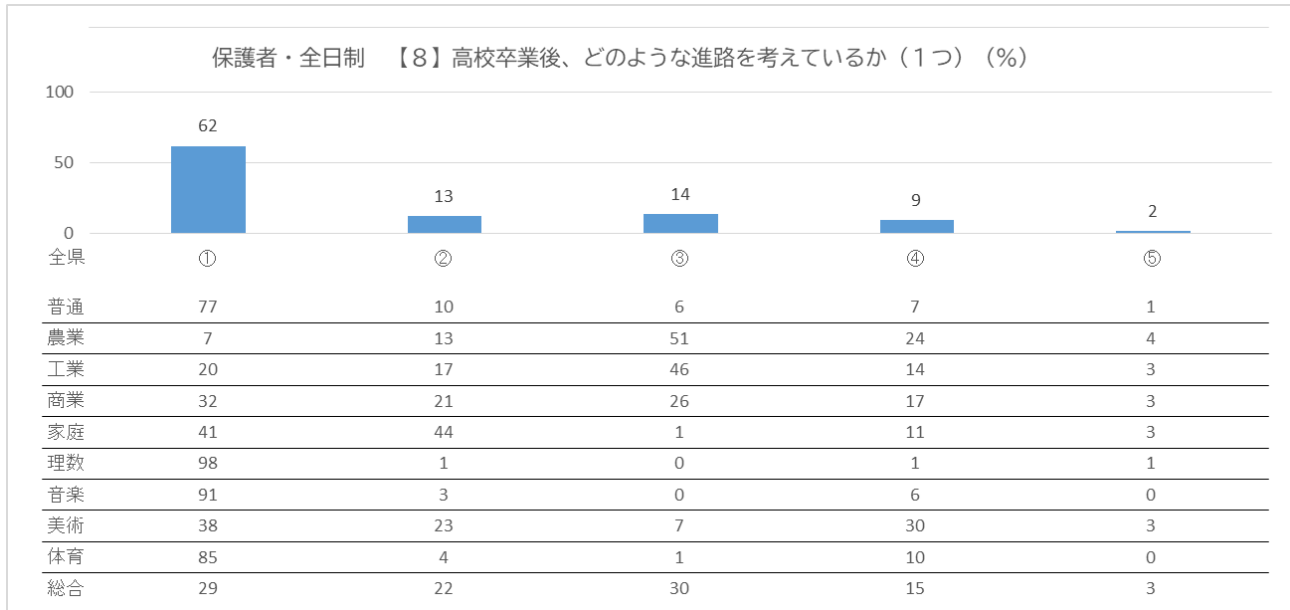
- 「①学習指導の充実(53%)」や「⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる(37%)」ことに魅力を感じている保護者が多い。

<通信制>

- 「⑬自宅での学習を中心(52%)」に、「⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる(72%)」ことに魅力を感じている保護者が多い。

【8】あなたは、お子様の高校卒業後の進路について、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他



<全日制>

○「①大学・短期大学」への進学を考えている保護者が多い(62%)。

※普通科系：「①大学・短期大学」の割合が高い(理 98%・音 91%・体 85%・普 77%)。

※職業系：「③就職(農 51%・工 46%・総 30%・商 26%)」の割合が高い。

<定時制>

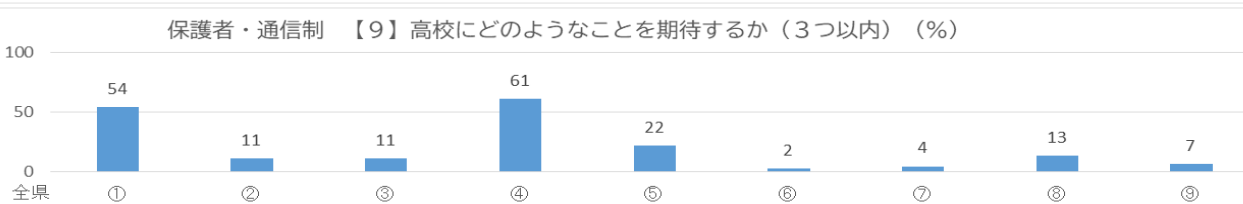
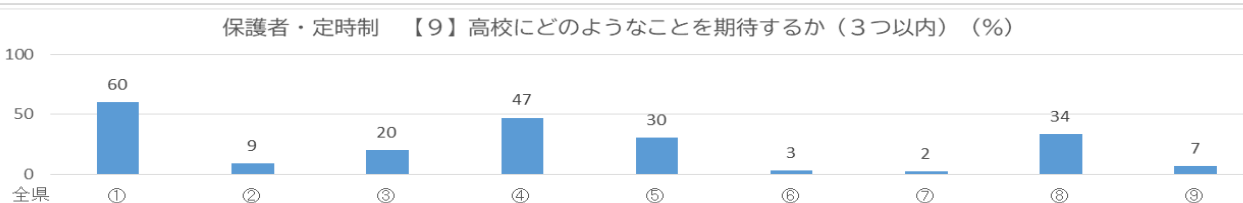
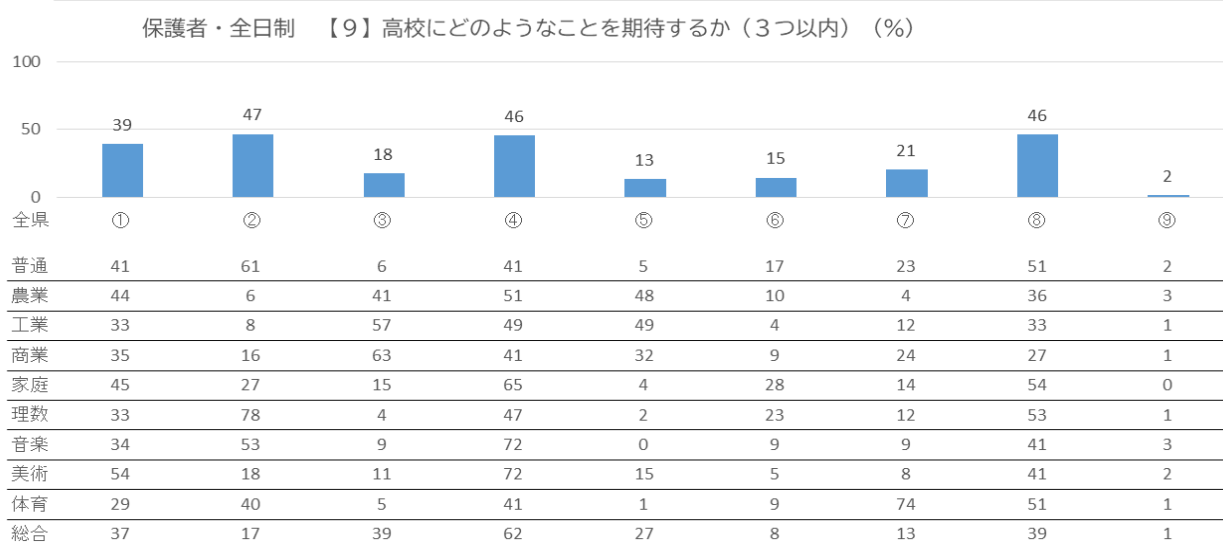
○「③就職」を考えている保護者が多い(40%)。

<通信制>

○「④まだ考えていない」と回答した保護者が多い(37%)。

【9】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
- ②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
- ③資格につながる学習ができる。
- ④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
- ⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
- ⑥学校行事が充実している。
- ⑦部活動が盛んである。
- ⑧多くの友人をつくることできる。
- ⑨その他



<全日制>

- 「②大学等への進学のための学力を身に付けることができる(47%)」や、「④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる(46%)」と回答した保護者が多い。
- また、「⑧多くの友人をつくることできる(46%)」の回答も多いことから、交友関係を広めてほしいと考えている保護者も多い。
- ※農業・工業・商業：「③資格につながる学習ができる(農 41%・工 57%・商 63%)」、「⑤就職するときに必要な知識や技術・技能を習得できる(農 48%・工 49%・商 32%)」の割合が高い。
- ※体育：「⑦部活動が盛んである(74%)」の割合が最も高い。

<定時制・通信制>

- 「①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる(定 60%・通 54%)」や、「④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる(定 47%・通 61%)」と回答した保護者が多い。

【10】教育委員会では、今年度『滋賀県立高等学校在り方検討委員会』を設置し、今後の滋賀の県立高校の在り方について検討しています。このことに関して、これからの県立高校がさらに魅力と活力ある学校づくりを進めるために必要だと思ふことがあれば書いてください。

○主な意見

<施設・設備等について>

- ・学校の校舎、施設が老朽化している。施設（教室、トイレ、ICT環境等）を、学校間で格差なくきれいに整備してほしい。
- ・遠方からの通学者のために、学生寮をつくってほしい。
- ・図書館内に学習スペースを設置してほしい。

<学習について>

- ・学習塾に行かなくても、大学進学のための高い学力が身に付くようにしてほしい。
- ・一般的な教養を普通科、専門学科関係なく身に付くように指導してほしい。
- ・世の中にはこういう職業があり、その職に就くのに必要な進路や資格、学習等について、自分の進む道を適切に指導してもらえれば、高校は魅力と活力を見出すことができると思う。
- ・子どもたちが自ら学び、生きる力をつけていけるような学ぶ力を育んでほしい。
- ・発達に課題を抱える生徒への対応を充実させてほしい。
- ・普通科高校が多いので、専門学科や総合学科の高校を増やしてほしい。
- ・他校と連携した学び。
- ・学校は勉強するところだが、社会に対応できるための準備期間、訓練の場でもあってほしい。
- ・グローバルな時代に対応できる人材の育成。
- ・オンライン授業や遠隔授業には力を入れてほしい。

<部活動・学校行事等の学校生活について>

- ・部活動は、一部の学校、一部の競技だけが熱心に活動している。教員の働き方改革も大切だが、すべての県立高校が積極的に部活動に取り組んでほしい。
- ・学校行事を充実させてほしい。体育祭や文化祭などの学校行事を、学校外の生徒や保護者、地域住民の方々などが参加できると盛り上がる。また、子どもたちの思い出の1つにもなる。
- ・好きなことをとことんやらせたいが、自分では選ばないであろう勉強や体験を与えて、新しい発見をしてもらいたい。
- ・学習面での充実はもちろんのこと、生徒の生きる力をつけていくためには、学校でしかできない様な人と人とのつながりを大切にするため、部活動や生徒会活動、学級活動などを充実させることが必要だと思います。人と人との関わりから様々なことを学ぶのが学校です。学習面だけなら塾でもできますが、学校でしか学べないことがたくさんあるはずだと思います。
- ・学力向上だけではなく、人間性を高める、人として正しい考え方等を学ぶ場として高校があればよいと思う。
- ・地域の教育資源や人々と関わる学びの中に、自己や地域の課題を発見し、仲間と協力して解決のための方策を考え、実行に移し、その結果を再度見直して次の取り組みにつなげていく。そのような体験を通して、自らの将来を見つめることができる魅力ある学校をつくってほしい。
- ・やがて社会に出て働くために、地域と連携して生きていくことの大切さを学ばせてほしい。
- ・郷土を愛し、地域で活躍する人材の育成。
- ・地元企業との交流を持つべきだと思う。
- ・社会へ出るための自立する力をつけてほしい。
- ・社会に出て仕事をしていく上で仕事は一人では出来るものではないので、周りの人とうまくコミュニケーションを取れる人材を育成してほしい。

<その他>

- ・教員の資質を向上させてほしい。
- ・各高校のホームページを定期的に更新して情報発信する。

等

魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート

令和2年10月実施

このアンケートは、これからの滋賀の高等学校づくりに生かすための資料とするものです。目的以外に使用することはありません。また、だれが書いたかは分らないようにしますので、あなたが思っていることを教えてください。

回答はすべて別紙回答用紙に記入し、選たくし中の「その他」を選ぶ場合は（ ）内に具体的に書いてください。高等学校以外の進路（特別支援学校、高等専門学校、就職、専修学校等）を考えている場合は、答えられるはん紙の問いのみを回答してください。ご協力をお願いします。

滋賀県教育委員会

【1】 あなたの学年を次の中から1つ選んでください。(義務教育学校の7年生は①、8年生は②をマークしてください。)

- ① 1年生 ② 2年生

【2】 あなたの中学校の所在する市町を次の中から1つ選んでください。

- ①大津市 ②彦根市 ③長浜市 ④近江八幡市 ⑤草津市 ⑥守山市
⑦栗東市 ⑧甲賀市 ⑨野洲市 ⑩湖南市 ⑪高島市 ⑫東近江市
⑬米原市 ⑭日野町 ⑮竜王町 ⑯愛宕町 ⑰豊郷町 ⑱甲良町
⑲多賀町

【3】 あなたは高校の情報を主にどこ（だれ）から得ていますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①中学校の先生や中学校での進路相談 ②高校での体験入学、学校説明会
③高校のホームページ、パンフレット ④家族・親せき
⑤友人・先輩 ⑥学習じゅく
⑦インターネット（高校のホームページ以外） ⑧その他

【4】 現時点で進学したいと考えている高校を次の中から1つ選んでください。また、そのように思う理由を書いてください。

- ① 県内の県立高校 ②県内の私立高校 ③県外の私立高校 ④その他

【5】 あなたは進学したい高校を選ぶとき、主に何を重視しますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学びたい学科、学習内容 ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など）
③部活動 ④高校卒業後の進路
⑤校風やイメージ ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ）
⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺かん境） ⑧自分の適性（自分に向いている等）
⑨自分の成績 ⑩通学時間（自宅からの近さなど）
⑪家族・親せきの出身校または在せき校 ⑫友人・先輩と同じ学校
⑬制服 ⑭その他

【6】 あなたは高校に通学する場合、どれぐらいの通学時間を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分以内 ②1時間以内 ③1時間30分以内 ④2時間以内 ⑤その他

【7】 あなたは、高校卒業後、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他

【8】 あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基本的・基本的な学力を身に付けることができる。
②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
③資格につながる学習ができる。
④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選たくすることができる。
⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
⑥学校行事がじゅく実している。
⑦部活動が盛んである。
⑧多くの友人をつくることことができる。
⑨その他

【9】 これからの滋賀の県立高校又はあなたが行きたいと思う学校が、さらに魅力ある学校になるためには何が必要だと思えますか。書いてください。(記述)

(アンケートはこれで終わります。ありがとうございました。)

魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート

令和2年10月実施

このアンケートは、これからの滋賀の高等学校づくりに生かすための資料とするものです。目的以外に使用することはありません。また、誰が書いたかは分らないようにしますので、思っておられることを教えてください。

回答はすべて別紙回答用紙に記入し、選択肢中の「その他」を選ぶ場合は（ ）内に具体的に書いてください。高等学校以外の進路（特別支援学校、高等専門学校、就職、専修学校等）を考えている場合は、答えられる範囲の問いのみを回答してください。ご協力をお願いします。

滋賀県教育委員会

【1】あなたのお子様の学年を次の中から1つ選んでください。（義務教育学校の7年生は①、8年生は②をマークしてください。）

- ①1年生 ②2年生

【2】あなたのお子様の中学校の所在する市町を次の中から1つ選んでください。

- ①大津市 ②彦根市 ③長浜市 ④近江八幡市 ⑤草津市 ⑥守山市
⑦栗東市 ⑧甲賀市 ⑨野洲市 ⑩湖南市 ⑪高島市 ⑫東近江市
⑬米原市 ⑭日野町 ⑮竜王町 ⑯愛荘町 ⑰豊郷町 ⑱甲良町
⑲多賀町

【3】あなたは高校の情報を主にご（誰）から得ていますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①中学校の先生や中学校での進路相談 ②高校での体験入学、学校説明会
③高校のホームページ、パンフレット ④お子様本人
⑤家族・親戚 ⑥お子様の友人・先輩
⑦学習塾 ⑧インターネット（高校のホームページ 以外の情報）
⑨その他

【4】現時点でお子様に進学させたいと考えている高校を次の中から1つ選んでください。また、そのように思う理由を書いてください。

- ①県内の県立高校 ②県内の私立高校 ③県外の私立高校 ④その他

【5】あなたはお子様が高校を選択するとき、主に何を重視しますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学びたい学科、学習内容 ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など）
③部活動 ④高校卒業後の進路
⑤校風やイメージ ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ）
⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） ⑧お子様の適性（お子様に向いている等）
⑨お子様の成績 ⑩進学時間（自宅からの近さなど）
⑪お子様の家族・親戚の出身校または在籍校 ⑫お子様の友人・先輩と同じ学校
⑬制服 ⑭その他

【6】お子様の進学したい高校について、どれぐらいの通学時間を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分以内 ②1時間以内 ③1時間30分以内 ④2時間以内 ⑤その他

【7】あなたは、お子様が高校に進学した場合、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他

【8】あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
③資格につながる学習ができる。
④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
⑥学校行事が充実している。
⑦部活動が盛んである。
⑧多くの友人をつくることができる。
⑨その他

【9】教育委員会では、今年度『滋賀県立高等学校在り方検討委員会』を設置し、今後の滋賀の県立高校の在り方について検討しています。このことに関して、これからの県立高校がさらに魅力と活力ある学校づくりを進めるために必要だと思うことがあれば書いてください。（記述）

※別添（仮）『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージ（案）を参考にお答えください。

（アンケートはこれで終わりです。ありがとうございました。）

魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート

令和2年10月実施

このアンケートは、これからの滋賀の高等学校づくりに生かすための資料とするものです。目的以外に使用することはありません。また、だれが書いたかは分らないようにしますので、あなたが思っていることを教えてください。

回答はすべて別紙回答用紙に記入し、選択肢中の「その他」を選ぶ場合は（ ）内に具体的に書いてください。ご協力をお願いします。

【1】 あなたの学年を次の中から1つ選んでください。

- ① 1年生 ② 2年生

【2】 あなたの出身中学校の所在する市町を次の中から1つ選んでください。

- ①大津市 ②彦根市 ③長浜市 ④近江八幡市 ⑤草津市 ⑥守山市 ⑦栗東市
⑧甲賀市 ⑨野洲市 ⑩湖南市 ⑪高島市 ⑫東近江市 ⑬米原市 ⑭日野町
⑮竜王町 ⑯愛荘町 ⑰豊郷町 ⑱甲良町 ⑲多賀町 ⑳県外

【3】 高校に入学する前、あなたは在籍する高校の情報を主にどこ（誰）から得ることができましたか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①中学校の先生や中学校での進路相談 ②高校での体験入学、学校説明会
③高校のホームページ、パンフレット ④家族・親戚 ⑤学習塾
⑥友人・先輩 ⑦インターネット（高校のホームページ以外） ⑧その他

【4】 高校に入学する前、あなたの在籍する高校を選択する際に、主に何を基準にしましたか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学びたい学科、学習内容 ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など）
③部活動 ④高校卒業後の進路
⑤校風やイメージ ⑥学校の施設・設備（新しさや広さ）
⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） ⑧自分の適性（自分に向いている等）
⑨自分の成績 ⑩通学時間（自宅からの近さなど）
⑪家族・親戚の出身校または在籍校 ⑫友人・先輩と同じ学校
⑬制服 ⑭その他

【5】 あなたは在籍している高校について満足していますか。次の中から1つ選んでください。

- ①満足している ②ある程度満足している ③どちらかと言えば不満である ④不満である

【6】 【5】で、あなたがどのように感じる理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①授業 ②学校行事 ③部活動 ④校風や教育方針
⑤学校の施設・設備 ⑥通学時間 ⑦友人や先輩との関係 ⑧その他

【7】 あなたの自宅から在籍する高校までの通学時間はどれくらいですか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分未満 ②30分以上1時間未満 ③1時間以上1時間30分未満
④1時間30分以上2時間未満 ⑤2時間以上

【8】 現在、あなたの在籍する高校の魅力はどのようなことだと思いますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学習指導の充実（少人数授業、補習等） ②進学に向けた指導
③就職に向けた指導 ④生活面の規律（あいさつなど）
⑤学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行等） ⑥部活動
⑦資格取得や検定合格 ⑧大学・短期大学との連携
⑨地域や企業との連携 ⑩校風やイメージ
⑪学校の施設・設備 ⑫働きながら学べる
⑬自宅での学習を中心として学べる ⑭全日制に比べて経済的な負担が少ない
⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる ⑯その他
⑰魅力はない

【9】 あなたは、高校卒業後、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校、各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他

【10】 あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
③資格につながる学習ができる。
④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
⑥学校行事が充実している。
⑦部活動が盛んである。
⑧多くの友人をつくることができる。
⑨その他

【11】 これからの滋賀の県立高校又はあなたの在籍する学校が、さらに魅力と活力ある学校になるためには何が必要だと思いますか。書いてください。（記述式）

（アンケートはこれで終わりです。ありがとうございます。）

魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート

このアンケートは、これからの滋賀の高等学校づくりに生かすための資料とするものです。目的以外に使用することはありません。また、誰か書いたかは分らないようにしますので、思っておられることを教えてください。

回答はすべて別紙回答用紙に記入し、選択肢中の「その他」を選ぶ場合は（ ）内に具体的に書いてください。ご協力をお願いします。

令和2年10月実施

【1】 あなたのお子様の学年を次の中から1つ選んでください。

- ① 1年生 ② 2年生

【2】 あなたのお子様の出身中学校の所在する市町を次の中から1つ選んでください。

- ①大津市 ②彦根市 ③長浜市 ④近江八幡市 ⑤草津市 ⑥守山市 ⑦栗東市
⑧甲賀市 ⑨野洲市 ⑩湖南市 ⑪高島市 ⑫東近江市 ⑬米原市 ⑭日野町
⑮竜王町 ⑯愛荘町 ⑰豊郷町 ⑱甲良町 ⑲多賀町 ⑳県外

【3】 あなたは、お子様が入学する前、お子様の在籍高校の情報を主にどこ（誰）から得ることができましたか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①中学校の先生や中学校での進路相談 ②高校での体験入学、学校説明会
③高校のホームページ、パンフレット ④家族・親戚
⑤お子様の友人・先輩 ⑥学習塾
⑦インターネット（高校のホームページ 以外の情報） ⑧お子様本人
⑨ その他

【4】 お子様の在籍する高校の選択は誰が中心になって行いましたか。最もあてはまるものを次の中から1つ選んでください。

- ①子どもの希望を尊重した ②親が勧めた
③子供と親でよく相談した ④中学校の担任に勧められた
⑤塾の先生に勧められた ⑥その他

【5】 あなたは、お子様が高校を選択する際に、主に何を重視しましたか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学びたい学科、学習内容 ②学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など）
③部活動 ④高校卒業後の進路
⑤校風やイメージ ⑥学校の施設・設備（新しきや広さ）
⑦高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） ⑧通学時間（自宅からの近さなど）
⑨お子様の希望 ⑩お子様の適性（お子様に向いている等）
⑪お子様の成績 ⑫お子様の家族・親戚の出身校または在籍校
⑬お子様の友人・先輩と同じ学校 ⑭経済的負担
⑮制服 ⑯その他

【6】 あなたはお子様が生産している高校について満足していますか。次の中から1つ選んでください。

- ①満足している ②ある程度満足している ③どちらかと言えば不満である ④不満である

【7】 【6】で、あなたがそのように感じる理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①授業 ②学校行事 ③部活動 ④校風や教育方針
⑤学校の施設・設備 ⑥通学時間 ⑦友人や先輩との関係 ⑧その他

【8】 あなたのお子様が生産する高校までの通学時間はどれくらいですか。次の中から1つ選んでください。

- ①30分未満 ②30分以上1時間未満 ③1時間以上1時間30分未満
④1時間30分以上2時間未満 ⑤2時間以上

【9】 あなたは、現在、お子様の在籍高校の魅力はどのようなことだと思いますか。次の中から4つ以内で選んでください。

- ①学習指導の充実（少人数授業、補習等） ②進学に向けた指導
③就職に向けた指導 ④生活面の規律（あいさつなど）
⑤学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行等） ⑥部活動
⑦資格取得や検定合格 ⑧大学・短期大学との連携
⑨地域や企業との連携 ⑩校風やイメージ
⑪学校の施設・設備 ⑫働きながら学べる
⑬自宅での学習を中心として学べる ⑭全日制に比べて経済的な負担が少ない
⑮自分の生活スタイルに応じた時間に学べる ⑯その他
⑰魅力はない

【10】 あなたは、お子様の高校卒業後の進路について、どのような進路を考えていますか。次の中から1つ選んでください。

- ①大学・短期大学 ②専門学校 各種学校 ③就職
④まだ考えていない ⑤その他

【11】 あなたは、高校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
③資格につながる学習ができる。
④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
⑥学校行事が充実している。
⑦部活動が盛んである。
⑧多くの友人をつくることができる。
⑨その他

【12】 教育委員会では、今年度『滋賀県立高等学校在り方検討委員会』を設置し、今後の滋賀の県立高校の在り方について検討しています。このことに関して、これからの県立高校がさらに魅力と活力ある学校づくりを進めるために必要だと思うことがあれば書いてください。

※別添（仮）『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージ（案）を参考にお答えください。

（アンケートはこれで終わりです。ありがとうございました。）

(仮)『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージ(案)

(参考)「これからの県立高等学校の在り方検討」の全体像

令和2年度 滋賀県立高等学校在り方検討委員会設置・審議(～令和3年度)
 ①現行滋賀県立高等学校再編計画(～令和3年度)の検証 ②これからの県立高等学校の在り方について検討

令和3年度 産業教育に関する調査・調査結果の整理(～令和3年度)の検証
 ※ 産業教育に関する調査・調査結果の整理(～令和3年度)の検証
 ※ 産業教育に関する調査・調査結果の整理(～令和3年度)の検証

令和4年度 県立高等学校の在り方に関する基本方針の策定
 ※ 県立高等学校の在り方に関する基本方針の策定
 ※ 県立高等学校の在り方に関する基本方針の策定

背景 ○人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新の進展などの急速な社会情勢の変化への対応

策定趣旨 ○概ね10から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について、全県的視野で基本的な考え方を示す

対象期間 ○令和4年度から令和13年度の10年間

これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方

本県教育の基本理念 未来を拓く心豊かでたくましい人づくり

育成すべき生徒像 生きる力(自立する力・伝える力・協働する力・創造する力)の役割

魅力化の視点 ○多様性のある社会、人口減少社会、新しい生活様式への対応を、小・中・高・大・社会の連続性の中で捉え、持続可能な形で実施する

これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方

背景 ○人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新の進展などの急速な社会情勢の変化への対応

策定趣旨 ○概ね10から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について、全県的視野で基本的な考え方を示す

対象期間 ○令和4年度から令和13年度の10年間

目指す姿

目標 生徒が自ら主体的に学び「生きる力」をつけることができる

生徒が世界に自らが活躍するための力を育めることができる

生徒同士が切磋琢磨し成長できる

学校行事や部活動が活性化している

学校でこそ育まれる人となりのつながりが意識された空間が提供されている

場所や時間を選ばない学びができる

ICTや外部人材を活用し、所属する学校の枠にとらわれない柔軟な学びが提供されている

生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる

地域の教育資源や人々と関わる学びが提供されている

産業界と連携した学びが提供されている

障害のある者となりが互いに学び合い互いを尊重できる

共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる

生徒が自らに合った学びを選択できる

県立高校ならではの魅力や特色が人々に理解されている

県内のどの地域でも様々な学びが提供されている

学び直し、日本語学習、不登校等に対応する学びが提供されている

教員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている

将来の社会の姿

持続可能な社会の実現(SDGsの目標)

多様な価値観が尊重される社会

第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現

人口減少と高齢化の更なる進行

大規模災害などの発生リスク

コロナ禍を契機とした新しい生活様式の実現等

模範はできるが、予測できないことが起こる

高校への希望や期待

生徒の立場から

新しいことに挑戦し、世界を広く見たい

好きな分野への進学をめざしたい

部活動や生徒会活動を通じたい

もう一度基礎から学び直したい

友達と楽しい高校生活を送りたい

等

保護者の立場から

じっくりと子供の可能性を伸ばしてやりたい

やりたいことをとことんやらせたい

社会で生きるたくましさをつけてほしい

等

地域社会の視点

地域社会で活躍する人材を育成してほしい

地域に貢献を生み出してほしい

等

企業の視点

グローバルな時代に対応できる人材、専門性を身につけた人材、業界に必要な人材を送り出してほしい

等

教職員の立場から

生徒一人ひとりの成長を感じたい

授業力や指導力を発揮し更に成長したい

等

県立高校をとりまく現状と課題

生徒数の減少

H2と比べて現在▲7,000人34%減

15年後は更に▲1,700人H2から42%減

特に人口減少地域の学校の活性化

→更なる魅力化が必要

中学校卒業人数(千人)

H2 H10 H20 R2 R10 R16

20.7 17.3 14.0 13.3 12.3

社会情勢の変化

少子高齢化、人口減少社会の到来

第4次産業革命

グローバル化

withコロナ、afterコロナと新しい生活様式

国の動き

学習指導要領改訂(令和4年度～)

主体的・対話的で深い学び

新時代に対応した高等学校教育の在り方

取組の方向性の例

主体的・対話的で深い学びの実現

普通科の特色化や職業系学科の高度化

オンラインの学校づくり

学校規模を踏まえた活性化策検討

STEAM教育の推進

双方向のオンライン授業や遠隔授業の日常的実施

個別最適化された学びの実現

キャリア教育の充実

社会に開かれた教育課程の実現

地域社会や産業界を支える人材育成

インクルーシブ教育システムの活用

企業や大学などが持つ資源の活用

必要な教育のための施設・設備の充実

各高校の魅力や特色の発信強化

多様な学習ニーズに対応した課程・学科、公立私立の役割分担

成年年齢の18歳引下げに対応した教育の充実

学校運営体制の充実検討

教員のよりよい働き方検討

等

今後、在り方検討委員会や産業教育審議会の議論や議会、市町、学校関係者の意見等により内容更新

これからの滋賀の県立高校の在り方に関する 意見聴取について

1. 意見聴取の実施状況について	P 2
2. 意見聴取の結果概要	P 3
(1) 大学生等	P 3
(2) 市町首長	P 4
(3) 市町教育長	P 4
(4) 中学校長	P 5
(5) 県立学校長/県立学校副校長・教頭	P 6
(6) 高校教諭	P10

1. 意見聴取の実施状況について

(1) 大学生等

- ・対 象 滋賀の教師塾入塾者
- ・実 施 令和2年11月28日(土)
- ・内 容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出
- ・回 答 県内県立高出身107人、県内私立高出身12人、県外高出身54人 不明3人 計176人

(2) 市町首長

- ・対 象 滋賀県町村会定期総会及び滋賀県市長会議の出席者
- ・実 施 滋賀県町村会定期総会 令和2年10月5日(月)
滋賀県市長会議 令和2年11月2日(月)
- ・内 容 上記会議において、『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、質疑応答という形で意見聴取

(3) 市町教育長

- ・対 象 県内19市町の教育長
- ・実 施 令和2年10月
- ・内 容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出

(4) 中学校長

- ・対 象 県内市町立中学校長(47校(市町ごとに1~7校抽出))
- ・実 施 令和2年10月
- ・内 容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出

(5) 県立学校長/県立学校副校長・教頭

- ・対 象 全県立学校(高校46校、中学3校、特別支援学校15校)の校長と副校長・教頭
- ・実 施 令和2年10月
- ・内 容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出

(6) 高校教諭

- ・対 象 中堅教諭等資質向上研修(高等学校)対象者
- ・実 施 令和2年11月6日(金)
- ・内 容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出
- ・回 答 63人

2. 滋賀県立高等学校在り方検討にかかる意見聴取の結果概要

(1) 大学生等

<確かな学力の育成>

- ・学校の授業でグループワークやディスカッションを取り入れるべきだと思います。生徒のやる気を出させ、楽しく受けてもらうためには必要だと感じました。
- ・生徒をやる気にさせるような探究的な授業や将来を考えられるような授業を行ったうえで、基本的な能力が身につくような適切な課題、生徒一人ひとりの学力フォローが必要だと思います。
- ・ディベートなどの自分の意見を述べる機会や相手の考えを受け入れる機会など、お互いが受け入れ合う機会を設けることも大切であるとする。
- ・グローバル化に向けて外国との関わりや関心を向上させるような取り組みをすることや、スマートフォン等の電子機器が普及している為、そういったものの便利さと使用法、危険性と実際に起こりうる事件について学ぶことができる機会を設ける必要がある。
- ・もっと自分から探究的に学べる空間が与えられていれば、もっと楽しく学べたのではないかと感じます。
- ・生徒が自ら動いて感じられるように、主体的になれる経験をする場を多く取るべきだと思う。
- ・大学受験以外の家庭科や書道といった教養や将来のための勉強のほうが楽しかった。教科の勉強もSSHの発展的なものの方が楽しかった。
- ・オンデマンド式にすることで、授業時間内では聞き逃していた先生の言葉を見つけ、より深く学習することができるのではないかな。

<キャリア教育の充実>

- ・高校1年生の時のキャリア選択の活動が良かった。学年全員を対象に、様々な分野の職場の方のお話を聞く機会があり、そこで大手企業で研究をされている方や銀行で働く方のお話を聞いたことで、将来なりたい職業の参考にすることができた。
- ・高校ではアルバイトが禁止だったので、社会のことを学べる機会が少ないように感じた。
- ・キャリア教育がもっとあれば良かったと思う。大学進学の話はあったが、将来の仕事や自分の生き方を考える機会が欲しかった。
- ・社会に出て働いているOBや、大学で学んでいる先輩たち、いろんな分野で活躍されている人と交流できる機会を設け、生徒自身が自分の「ありたい姿」がイメージできるようにするとよいのでは。
- ・フィールドワークは自分の将来について見据えて考える良い機会だったので、滋賀県の高등학교でもっと取り入れていくべきだと思う。

<学校の特色化>

- ・総合学科の高校で、自分の学びたいと思った授業を選択することができたのが良かった。
- ・母校は単位制の高校で、自分の興味ある分野を選び、学ぶことができたのは良かった。
- ・特進クラスがあり、同じように進学したいという思いが強いクラスの仲間と過ごせ良かった。
- ・生徒のレベルに合わせ、細かなクラス分けをしていくなどのより高いレベルを目指しながらも、一人ひとりの能力に合った授業を取り組んでいくべきだと思う。

<学校行事等>

- ・文化祭などの学校行事は生きる力を育成するためには非常に有効な活動だと考えます。授業はどうしても受動的になってしまうので、能動的に活動できる取組を増やしていくべき。
- ・学校行事のみならず、様々な場面でクラスメイトや教職員と団結できる取組をしていくべきだと思います。

<その他>

- ・魅力を伝える“広報”に力を入れたら良いと思う。また、新しい魅力を作ることよりも、今ある魅力は何かをよく理解し、その魅力を伸ばせるプログラムなどには何か見極めるべきだと思う。
- ・私の県では、住んでいる地域によって受けられる高校が決まっていたので、滋賀県ではその方針がなくなったと聞き、良い方向に進んでいると感じた。
- ・全県一区という制度があったことによって、自分自身が行きたい高校を選択でき、将来について考える機会が与えられたと思います。
- ・私の高校は4クラスだったので、友達同士の繋がりが強かったところが良かったと思う。

(2) 市町首長

<滋賀県町村会>

- ・地域と高校が連携する視点を入れてほしい。
- ・地域において1つの高校の存続は大きい。地元で個々のヒアリングを入れていただきたい。
- ・地元で県立高校のあるところにとって重大であり、それぞれの考えを尊重していただきたい。

<滋賀県市長会>

- ・オンリーワンの学校づくりは必要である。
- ・高校在学中の社会での取組を単位とする仕組みを構築できないか。キャリア教育にもなり、地元への就職にもつながる。
- ・高校の在り方については地域、各市町との協議を丁寧に行い、未来につなげるためにそれぞれの地域の特性に合わせてほしい。
- ・在り方検討が最終的に高校再編にならないように要望する。令和4年度からの地域別協議会で地域の声をしっかり聞いてほしい。
- ・教員の質が大切であり、基本方針に盛り込んでほしい。社会の第一線で活躍している人を活用してほしい。
- ・社会との連携の具体化が求められている。

(3) 市町教育長

<確かな学力の育成>

- ・一斉指導中心からの脱却を図り、生徒の実態や興味関心に配慮して、ICTの活用等、もっと多様な学習形態で子どもたちの学びを深める部分が必要であると考えます。

<キャリア教育の充実>

- ・2022年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられることに向けて、高等学校においてもその意識付けを行う教育も必要であるのではないかと。
- ・地域の企業や団体との連携・体験活動をする中で、学校外の人による高校生の育成を図る。
- ・専門学校や大学への高校卒業後の進学率が高まる中、高校での専門的な学びを生かした進学、さらには将来の仕事につながるような学びの場が必要である。
- ・専門学科はもちろん、普通学科も含め、高校在学中から社会で活動することに取り組み、それで単位を取得できる仕組みを構築できないか。
- ・教科(専門学科)指導のみならず、人との関わりを大事にした教育活動をとおして、自分の考えを広げたり、生き方を考えたりできるような場面をもっと多く仕組む必要があるように思う。
- ・県内のどの地域でも様々な学びが提供されるとともに、キャリア形成を保証するような学校づくりをすることも大事であり、自分を高めるとともに、地域の活性化に貢献する生徒の育成にも重点を置く。

<多様な学習ニーズへの対応>

- ・特別支援教育の対象となる生徒や外国にルーツを持つ生徒に対して、きめ細かな配慮がなされることを望む。

<生徒数減少への対応>

- ・県立高校の人気は南高北低の傾向があるので、特に人口減少地域において魅力と活力ある高校づくりが必要である。
- ・人口減少地域の現状も考え、公立高校の魅力化を図ることにより、他府県からの生徒も来なくなる特色のある高校の創設を願う。
- ・現在の全県一区を立ち止まって考える必要があるのではないかと。また、現在の特色・一般の2段階の選抜は、一般入試に一本化して良いのではないかと。このままの状況を放置しては、再び高校の統廃合の問題が噴出してきて目がみえている。例えば高校であっても、地域とともに歩む学校としての存在は大きいものであり、この問題は地域の活気にも大きく関わっている問題だと考える。
- ・今回の議論が、「最終的に高校再編の話題がメインになる」につながることは避けていただきたい。

<普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)>

- ・県立高校、特に普通科の魅力や特色が人々に理解されるにはどのような方策があるのか検討されたい。
- ・各校が思い切った特色を打ち出す、「オンリーワンの学校づくり」が必要であると考えます。
- ・高等学校によっては、単一の役割だけでなく複数の役割も期待される。地域の学校として、域内の中学生の多様な学習ニーズを受け止め、多くの役割を担い、多様で、かつ、質の高い学びを提供してほしい。
- ・生徒の普通科志向に加え、高校の偏差値による序列化も関係して、不本意に入学したことにより、入学後の早い段階から不適応感を抱える生徒が一部いる状況も見受けられる。普通科、専門学科ともに、各高校がどのような生徒を求めるのかや、高校3年間でどのような生徒に育てるかなどを明確に中学生やその保護者に示すことにより、生徒本人がその高校で学ぶ目的や希望をもてるような仕組みを強化する必要がある。

- ・県内の人口動態や経済・産業構造、文化的・地理的要因等の特色を捉え、各教科の在り方の見直しや普通科・専門学科及び総合学科が、各生徒が学びたいことを学ぶことができる環境へと整備し、特色・魅力ある学科としてバランスよく配置されることが必要。
- ・文部科学省が進められている「普通科再編」についても、骨子イメージに含めるべきである。
- ・普通科高校の志望動機は、学校の特色よりも学力や成績、点数等で判断することが多い。各校が独自の魅力や特色を打ち出し、より積極的に発信してほしい。

<ICT活用>

- ・「ICT」「オンライン授業」「遠隔授業」等の先端技術に関わるが多く記載されている点は評価できる。今後積極的に推進してほしい。

<推進体制/教員のフォロー>

- ・学級標準人数の低減や通級指導など、「漏れ」のない学校教育を進めるために、生徒数は減れども、教員数は減らすべきではない。

<県立高校の役割/私学との関係>

- ・滋賀県は大都市圏に比べ、進学校が公立高校に多い傾向にあるので、このよき伝統を守り続けてほしい。

<入試制度について>

- ・特色選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜については、出願する生徒の感覚と、募集する学校側の感覚にずれが生じているように感じる部分がある。各種推薦選抜に関しては、その必要性を検討するとともに、公平性が保たれるように実施していただきたい。

(4) 中学校長

<確かな学力の育成>

- ・これから生きる生徒達は「与えられる」のではなく、「自発的に新たなものを生み出していかなければならない」そういった子どもたちを育成するためにも、STEAM教育をはじめとした、様々な取り組みが必要となってくる。

<キャリア教育の充実>

- ・大学や産業界と連携した専門的な学びや地域社会と結びつきの中で得られる貴重な体験の充実に期待します。

<多様な学習ニーズへの対応>

- ・中学校には自閉情緒学級があるのに、高等学校には通常学級しかないので、コミュニケーション能力等に特性のある生徒が、進学後に人間関係に悩む例が多いように思う。県立高等学校に生徒の多様性に対応して支援できる人員配置や学級の設置等ができるとうれしいと考えている。
- ・現在の高校進学率を考えれば、「インクルーシブ教育」については、今後ますますその取組と小・中学校との連携がもとめられるように思います。
- ・多様な生徒の受け入れが可能な仕組みと体制づくりが必要であるとする。特別な支援を要する生徒へのきめ細かな対応がさらに求められていると思う。

<生徒数減少への対応>

- ・国際バカロレアなど学校としての特徴を前面に出し、特色を進めることで、南部の生徒が北進するなどの動きも出るのではないかと思います。中学校にも課題はあると思いますが、高等学校進学時に高校卒業後や将来の仕事に十分に目を向けきれていない面もある。
- ・高校は地域にとって大切な存在である。地域の人材を育成し、将来的に地域に戻って地域に貢献する人材の育成が高校の大きな役割であるとする。しかし、全県一区制により、一部の学校に優秀な生徒が集中し、地域のバランスが崩れているように思われる。本来なら、各校が特色を打ち出すことでカバーするべきだが、特色ある学校作りにも限界があるのではないかと。
- ・現状の高校数のままでは限界があり、今後を考えるとこれまでの歴史や伝統にとらわれず、積極的に学校統合や中高一貫校の設置などに取り組んでいくべきである。
- ・今後、現行数の高校を確保し続ける方向で考えてほしい。生徒数の減少の対応は、1クラスの生徒数を30人に減らすことを考えてはどうかと思う。

<普通科の特色化（普通科系専門学科を含む）>

- ・大学や産業界との連携が推進されることは大きく期待するところです。それに加えて県立高校間での連携も図れる形が構築できると良いのではないのでしょうか。〇〇高校の集中講義に参加（ZOOM等でも）して単位認定ができるといった仕組みなども構築できないのでしょうか。
- ・〇〇高校は「文武両道でがんばっている」、〇〇高校は「とても面倒見がよく、学び直しもできる」などのように

学校の魅力や特徴をより発揮していただくことが大切であると感じています。

- ・各高校の魅力・特徴は、特に「普通科」である場合伝わりにくいのか、なぜか「横並び」的なものとして映っているように思います。滋賀県は比較的、広域的な通学が可能な県であると思います。それだけ、生徒にとっても選択の幅は広いわけで、それに応えうる情報発信が求められているのだと思います。
- ・オンリーワンの高校、その高校ごとの特色をもっと前面に出した学校づくりを進めていく必要があると思います。

<職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化>

- ・滋賀県は第2次産業が中心である。これからの社会構造の変化の中で、滋賀県で生活し滋賀県を支える人間を育てる県立高校でありたいと考える。
- ・琵琶湖を県のほぼ中央に抱え、移動に時間がかかる滋賀県の地理的状况から、専門学科を備えた高校や総合学科の高校、共生社会を日常的に学ぶ高校を一定の地域のなかでつくる必要があると考える。

<ICT活用>

- ・県立高でも、ICTをフルに活用し、インターネット等で授業を行い、単位認定して行くような高等学校があれば多くのニーズがあると考えます
- ・ICTを活用した対話的・協働的な学習を通して、コミュニケーション力を高めることも、社会人としては欠かせない内容だと考えます。

<PR>

- ・中学校では、一日体験入学、ホームページやリーフレットを活用して高等学校の学習をしています、決して十分ではないと考えています。
- ・予算に違いがあるため単純に比較はできませんが、私立高校に比べるとまだまだアピール不足だと思います。

<県立高校の役割/私学との関係>

- ・私立とのすみ分けを明確にすることも大切だとは思いますが、それでは、さらに私立の魅力や特色に押されてしまうのではないかと懸念します。公立学校こそが、斬新なアイデアと工夫で、私立に負けない魅力や特色を発信いただければと思います。
- ・県内私学の進路担当者が3年生の生徒や保護者向けに説明をされていましたが、学校の特徴を大変わかりやすく説明され、興味の湧くものでした。以前ほど金銭的な面で、私学の壁が高くない状態の中で、特徴的で柔軟な学科の編成や施設・設備の充実は、県立学校にはない良さでした。人口減少が確実に進む中で、県立学校においても選択と集中は避けられないことかと感じました。

<学校でこそ育まれる人と人との関わりを通じた学びの提供>

- ・部活動については、今後「地域の部活動」という方向が出されている中、高校での部活をどのように考えるのか。あくまでも高校は、「自己実現をめざす学びの場」でなければならないと考える。

<入試制度について>

- ・これからの県立高校の在り方全般を考える上で、入学者選抜の方法について再検討することも必要だと考える。
- ・生徒数が減少傾向にある中で、県立高校の統合など存続に向けた形態を図っていくうえで、各県立高校を単独受検という形だけでなく、特色の似た複数校の合同選抜制を導入するなどを検討してはどうかと考える。
- ・高校入試の在り方も検討する必要があると思う。筆記や実技だけではなく、「一定期間の体験型入試」なども取り入れ、高校での「自分の学び」をイメージできることは有効と考える。

(5) 県立学校長/県立学校副校長・教頭

<確かな学力の育成>

(県立学校長)

- ・「目指す姿」を具現化するための「取組の方向性」にある項目を実現するためには、その多くは教育システムの変革に加えて、「教員自身の意識改革」が必要となってくるが、本県の県立高校の在り方を考える前提として、現在、学校教育の根幹となり、生徒が一番拘束される時間となる授業の学びの在り方や、これからの学びの姿などについての議論を深め、全県的なすべての教員の取組となるよう、より具体的な取組の方向性を強く打ち出すことが必要ではないか。
- ・在り方検討の内容や基本方針として打ち出す内容としてはいささかその範疇を超えるかもしれないが、部局を越えた授業改善に関する突っ込んだ議論をどこかでしてほしい。教員にとってはこれまでに「取り組んだことのないこと」を新たに実践せよというのは相当なエネルギーが必要となるだろうし、かなり強制力のある指示、命令に近い施策が必要ではなかろうか。

(県立学校副校長・教頭)

- ・「高等学校の役割」に書かれている内容は充分理解はできるが、現在の日本の入試や進学システムでは本当の意味での生きる力を育むことは非常に難しい状態である。実際の授業は受験対策や詰め込み型になっていることが多

く、日本人の良い大学へ進学・一流企業への就職が美德となっている考え方が変わらなければ、高校の教育も変わらなと思います。

- ・これまでの、知識偏重（テストで覚えたことを再生する）に重点をおいた「正解」にこだわることから脱却することが重要ではないかと考えます。

<キャリア教育の充実>

（県立学校校長）

- ・地域（市町）との連携による学校の特色化、活性化に向けて、県から市町へ働きかけ、コンソーシアムの構築などに繋げることも必要である。
- （県立学校副校長・教頭）
- ・高等学校では、コミュニティ・スクール等を活用しながら、地域におけるかけがえのない素材の教材化は、必須であると考えます。
- ・自分自身の高校時代においても、これまでの普通科高校での教員経験においても、職業に関するキャリア教育がほとんどできていないと感じる。地域社会と連携して、職場見学や職業体験などの機会を設けたり、自己のキャリアプランニングについて学習できる機会を増やすべきではないか。

<多様な学習ニーズへの対応>

（県立学校校長）

- ・不登校生徒の増加、通信制高校への希望者増、新しい生活様式等の状況を考えると生徒のニーズや状況に即応した柔軟な対応が今後益々、県立高校にも求められていくと思う。例えば、オンライン授業での単位認定、他校での単位修得などが考えられる。
- ・定時制昼間部は、始業時間が遅く、ゆとりのある日課で学校生活が送れるため、中学時代不登校であった生徒が自分のペースで学べる良い環境であると思っている。
- （県立学校副校長・教頭）
- ・高等学校においても不登校など心のケアが深刻化している。そのため、保健室が本来の体の不調を訴える生徒や保健業務に支障をきたしていることがある。スクールカウンセラーが常勤し、こころの問題を抱える生徒にケアが充実すれば不登校やいじめの問題の解決が一層改善できると考えられる。
- ・これからは、少人数制や選択制等で多様な学びが求められてきている時代ではないでしょうか。
- ・通級が万全ではありませんが、どの学校にも支援を必要としている生徒がいることと思います。各エリアに通級指導を行える学校をつくり、さらには、巡回通級や他校通級なども整えながら、大規模で多くの生徒が在籍する高校にも制度が行きわたるような対策が必要ではないかと感じています。
- ・特別な配慮を必要とする生徒が各県立高校にも多く在籍する中、インクルーシブ教育の充実は大きな課題で、早急に支援体制や支援方法などのシステムがひろがらねばと感じるところです。

<生徒数減少への対応>

（県立学校校長）

- ・再編の基準規模を下回るからといったことでの再編ありきではなく、地域性も重視する必要があると考える。学校を残すために、現在の40人学級から県独自で30人学級等に減数させる方法とはれないものかと考える。
- ・再編を行う場合、農業、工業、商業をひとつの学校にして産業高校として再編するやり方は、本県にはなじまないと思います。そこで、地域的には偏りができますが、農業、工業、商業でそれぞれ存続させる学校を1校から2校にしぼり、そこに人材と予算を集中し特色ある学校づくりを進める必要があると思います。
- ・学校規模が小さくなると、学校の活気や学園祭等の行事・部活動に大きな影響があるため、最低でも4クラス規模が必要ではないか。
- ・生徒数が減少していく地域では、将来を見据えた適正な規模および校数にしていくべきではないか。
- ・特色ある教育を行うには、教える教員、必要な施設が整っていることと、ある程度の生徒数が必要。複数の学校が協力して、特色ある取組を行うことを検討してはどうか。部活動についても上記と同様、複数の学校が協力して実施することを検討してはどうか。複数の学校が協力する際、本校、分校という名称ではなく、〇〇高校△△キャンパスというような形ができないか。
- ・統廃合を考える前に学級定員を30名にするなど、定員を弾力化することが結果として魅力化につながるように感じます。今後魅力化の名のもとに学科を新設されることがあるようでしたら、地域の状況などを考慮しつつ定員を弾力的に運用できるようにしていくのがよいと考えます。
- ・人口減少地域における小規模校の解消のための再編・統合を実施し、一定の規模で教員数も充実した状況を作ることが必要と考える。
- （県立学校副校長・教頭）
- ・人口減少、少子高齢化に伴って高校生の人数が減少する中、再編成によって統廃合され、高等学校数が減少することはやむを得ないことであると考えられる。しかし、一方で生徒の通学の安全や学習・部活動の時間の確保の観点から通学に便利であること、それぞれの地域社会で生徒を育成して地域を支える人材を輩出していくことが重要である。したがって各地域における高校が小クラスであっても存続させることにも大きな意義がある。特に人口減少地域の小規模校には、学校の特色を発揮しやすい学科の編成等を推進して魅力ある学校づくりを行い、地域の活性化の貢献につながることを期待する。

- ・中学校卒業生数が減少する中、クラス減がなされているが、1学級の定員数を35人以下にするなどして、生徒一人ひとりに対応しやすくするようにした方がよい。特に、学習意欲に乏しい生徒が多い学校は、30人学級にするなどして、教員が生徒に対して手厚く対応できるようにした方がよい。
- ・普通科高校では、一定数の学級数がないと、生徒の協同・競争による効果や部活動の成立が困難と考えられる。
- ・県立高校として、少子化の影響を受け、小規模となる高校が増えてくるが、地域市町と密接な協力を得ながら各高校の魅力化と特色化を進め、地域の為に存続させていくことが必要であると思います。
- ・1学年小さくて4～大きくて8クラス。今回コロナ不安のため公共交通機関の利用を控えた生徒がいたことを考えると、自転車で通学できる学校がやはり必要。志願者数の減少等により統廃合のためJR沿線から離れた学校がなくなっていくことは避けてほしい。
- ・生徒減によってのクラス減や学校再編等を安易に行うのではなく、先行して一部地域だけでも30人学級にする等の、柔軟な発想や取り扱いをしても良いのではないかと考えている。

<普通科の特色化（普通科系専門学科を含む）>

（県立学校長）

- ・グローバル人材は育っているのか甚だ疑問です。語学力、コミュニケーション能力、主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性と柔軟性、責任感と使命感、異文化理解などを備えたグローバル人材の育成は急務だと思っています。
 - ・進学または就職に特化してはという意見もあるようだが、それは難しいと思う。高校に進学し新しい環境となることが人生を考える上でのきっかけとなればと思う。どこに在籍していても、その学校が提供する学びで、努力と成果次第で夢が実現できる学校作りが必要であると考えます。
 - ・地域ごとに、「学力向上・進学重視校」、「楽しい(?)学校」、「規律重視(?)校」、「インクルーシブ推進校」等、学校の方向性を前面に打ち出して、高校の住み分けを図るというのも一案でないでしょうか。(学校間格差拡大になりますか…。)
- （県立学校副校長・教頭）
- ・現在、高校普通科を類型化する案も文科省のWGで検討されているようですが、大学等での本格的な研究を考えれば、高校は学問する態度や基礎・基本を身に付ける段階であると思います。このような教育の普遍的な性質を考えると、普通科を類型化する場合には、よほど慎重にやる必要があると思います。
 - ・一つの高校内で様々な対応をしなければいけない現状を考えると、学び直しに特化した学校、上級学校の進学を目指す学校、職業人としてのプロ養成をする学校を再編しつつ、県内の各地域に核となる学校を決め、生徒の能力を高める学びを提供する場をつくる。もちろん、職業専門高校や学び直し中心の高校からでも、十分に進学に対応できるような体制づくりも必要。
 - ・徹底したフィールドワーク重視のカリキュラムを持つ学校や、例えば「山」（木、生活、木工、動植物、林業等）に関して三年間探究するコースを持つ学校など、あげればきりがありませんが、それぞれの高校に何か「わくわくする学び」を作ることができれば、高校は魅力的なものになると考えます。
 - ・音楽科は、志望者さえあれば、存続させるのにふさわしい価値をもっている。志望者がいない場合に、次の段階として、募集定員を減らし、非常勤講師の措置や施設設備をそれに見合うものに縮小する。美術科との統合については、授業の実施や指導者の配置を考えると厳しいと感じている。

<職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化>

（県立学校長）

- ・グローバル化時代に対応できる人材育成が求められる。特に専門高校の役割が大きい。専門高校には、それなりの教育予算や施設・設備が必要となるが、地域資源をうまく活用したり、業界との連携した学びも必要。
 - ・農業、工業、商業の専門高校では、湖北、湖東、湖南それぞれの地域に歴史や伝統、特色の異なる学校がありますので、今の体制を維持しつつ更なる特色づくりができればよいと思いますが、本県の規模で、農業3校、工業3校、商業3校を維持していくのは将来的には困難かと思っています。しかし、再編を行う場合、農業、工業、商業をひとつの学校にして産業高校として再編するやり方は、本県にはなじまないと思います。そこで、地域的には偏りがありますが、農業、工業、商業でそれぞれ存続させる学校を1校から2校にしぼり、そこに人材と予算を集中し特色ある学校づくりを進める必要がある。(後段部分再掲)
 - ・高校の施設・設備の老朽化の改善をお願いします。専門学科の独自性を発揮するには、学校の施設・設備を充実させ学習環境の整備をお願いします。
- （県立学校副校長・教頭）
- ・専門高校は、数を減らして、施設・設備や教育内容の質を高めるのがよいと思います。専門高校を志向する生徒は一定数いるので、最先端の技術などに触れて学ぶことができる魅力ある学校、行きたい学校ができればと思います。

<定時制・通信制の役割への対応>

（県立学校長）

- ・転編入できる通信制高校を県下1校ではなく、県北部エリアにも設置。
 - ・不登校生徒の増加、通信制高校への希望者増、新しい生活様式等の状況を考えると生徒のニーズや状況に即応した柔軟な対応が今後益々、県立高校にも求められていくと思う。例えば、オンライン授業での単位認定、他校での単位修得などが考えられる。(再掲)
- （県立学校副校長・教頭）

- ・多くの教員や県民は定時制高校の必要性（存在）について疑問を持っている人が多いと聞く。しかし、多くの不登校を経験した生徒や高校を中退学した経験のある生徒が、学び直しを考えた時など必ず必要となる学校であるので、存続してほしい。

<PR>

（県立学校長）

- ・各校がいかに関心ある学校づくりを進め、中学生や保護者にうまくPRしていくことが重要である。
- ・中学校までにいろいろな高校を知る術は、中学3年生の体験入学しかない状態になっている。中高の連携を一層深め、もっと合同練習や出前授業・質問教室などのイベントを催しても良いと考える。体験入学がなければ、家族の出身校と特別な進学校ぐらいしか中学生は知らないのではないかと。高校の発信強化の努力だけではまかないきれない壁がある。

<推進体制/教員のフォロー>

（県立学校長）

- ・魅力ある学校づくりに取り組むのであれば、教員に余裕がなければならない。定数法とも関連するが、定数法以外でも教育に潤沢に財源を投入し、正規職員や臨時講師等を増やしたり、施設・設備を改善したりするなどの取り組みをする中で各校の目指すべき魅力に対し力を注ぐべきである。
 - ・教員の資質向上などの観点から、教員研修の充実についての考察や検討も是非期待したい。
 - ・優秀教員確保や入試制度については、何故触れられていないのか。
- （県立学校副校長・教頭）
- ・先生方の働き方改革とのバランスも検討する必要があるのではないのでしょうか。
 - ・これまでの上から教え込むような立ち位置からの指導を見直し、子どもたちの学びを支援する立ち位置となるような、教員に対しての研修を行うなど、教員の意識改革に努めたい。

<県立高校の役割/私学との関係>

（県立学校長）

- ・本県では以前に比べ私立高校が増え、それぞれが強い特色を出している。それに対して県立高校も各々独自の特色を打ち出してはいるものの、限られた県の財源の中で全体のバランスや公平性もあり、私立高校ほどの際立った特色が出にくい面がある。京都や大阪の高校への進学も選択肢に入れることが比較的容易な県南部と、その他の地域では県立高校に対する捉え方に違いがあると思うが、どの地域の学校であっても、今まで以上に地域と結びついた学校経営が求められている。

<学校でこそ育まれる人と人との関わりを通じた学びの提供>

（県立学校長）

- ・生徒数減に伴ってクラス数を極限まで減らしていくと、学校行事や部活動等が縮小していき、結果として学校の活力が失われる。このことを防いでいくための仕組みづくり（例えば近隣校で合同による行事や部活動の実施など）を議論し、実行していく必要がある。
- （県立学校副校長・教頭）
- ・高等学校が社会に出る最後の集団になると考えると「協働する力」をもっと大切にしたい。勉強は個人でもできるので集団でしかできないことを取り入れる「協働する時間」というものがカリキュラムあっても良いと思います。
 - ・生きる力を育む場に入っていると思いますが、【高等学校の役割】欄に、「協働する力をつける」（協働を経験する場）という内容が示されていると良いと思います。
 - ・生きる力を育むためにも高等学校の役割としては、友人同士が互いに励まし合い競争し合って、共に向上する「切磋琢磨」できる環境を提供することも必要だと考える。
 - ・生徒の要望があれば、所属高校以外の高校の部活動に参加し、大会に出場(所属校名)できる仕組みをつくる。特に所属校の引率問題の緩和が必要。

<入試制度について>

（県立学校長）

- ・生徒数が減少する中で、定員確保に向け、各校精一杯の特色化の努力を続けている。地域社会の活力衰退の原因を学校教育に求めることや、これ以上の特色化を求めることは限界である。特色・推薦選抜をブロック別に戻し、一般選抜を全県一区とするなどの入試制度改革はできないかと。
- （県立学校副校長・教頭）
- ・入学選抜があるため、その制度も併せて検討する必要があるのではないのでしょうか。

(6) 高校教諭

<確かな学力の育成>

- ・生徒が自分を表現するような活動をもっと授業に取り入れたり、社会と関わることができるような活動を取り入れることで、生徒が主体的に学びを深めたり、自己を表現したり、多様な価値観を受け止めたり、自分が社会の中でどう行動すべきかを判断したりすることができるよう努めたい。

<キャリア教育の充実>

- ・地域との連携も積極的に行い、座学だけでなく、社会とのつながりも持つ必要があると思った。そのためには、我々がもっと視野を広く持つことが大切であると思った。
- ・高校を卒業してからの人生にしっかり役立つような経験と知識を生徒たちが得られる場になるように努めていきたい。

<多様な学習ニーズへの対応>

- ・グローバル化や特別な教育的支援が必要な生徒の増加、いじめ問題等の課題がある中で、自分とは違う子を排除するのではなく、多様性を認められ、受け入れられるような取組が必要だと思う。
- ・特別な教育的支援や部活動において専門家をつけることが必要なのではないか。
- ・多様な生徒を受け入れるには、スクールカウンセラーや特別な教育的支援に対応できる専門の教員、全日制だけじゃない多様な学びができる通信、単位制の学校が増えるといいのでは。

<学校の特色化>

- ・オンリーワンの特色を出すことは、かなりパワーのかかることであると思います。それを実現させるためには、現場の状況、声をより吸い上げてもらい、教員全体が各校の特色を生み出せるような思考時間をもてるように、余裕を持てるように変わること、変えることへの支援が必要だと思いました。
- ・かつての管理職の先生に言われた言葉が今も強く印象に残っている。「停滞は衰退である。」時代の流れに取り残されないよう、恐れずにスクラップ&ビルドに取り組んでいきたいと思う。
- ・他府県と比較しても県立高校の特色化や魅力化が進んでいないのが現状で、マイナーチェンジではなく、抜本的な目に見える変化が県民に伝わらないといけないと感じます。
- ・日々変化する世界において、学校もより良い変化をすべきですが、実際には変わらない、というより、変えようとしない教員が多いことも残念な事実です。社会の変化に合わせて、それにあった教育を提供することが今後の我々の使命だと思います。
- ・それぞれの学校にはそれぞれの課題があり、再編などのハード的改革以外に、内側からしっかり学校の軸を支えていくことが大切だと思いました。
- ・集団だからこその学びや体験を各学校の特色として打ち出していく必要があると強く感じた。

<ICT活用>

- ・どういう場でICTを活用すれば、どういった効果があるのか（個別最適化や反転学習など）全体で教員も学んでいくべきではないでしょうか。

<その他>

- ・外部指導や地域の方との連携で負担が増え、本来やるべき教科指導や部活指導に力を注ぐことが十分できないことが課題と考える。
- ・ある程度「過ごしやすく快適な」環境を用意してやらなくては、学習の効果以前に学習にのぞむ姿勢すら取れないのではないかな。
- ・教員数を増やし、1クラスあたりの生徒数を減らし、生徒により深く関わる機会を増やすことができればよい。